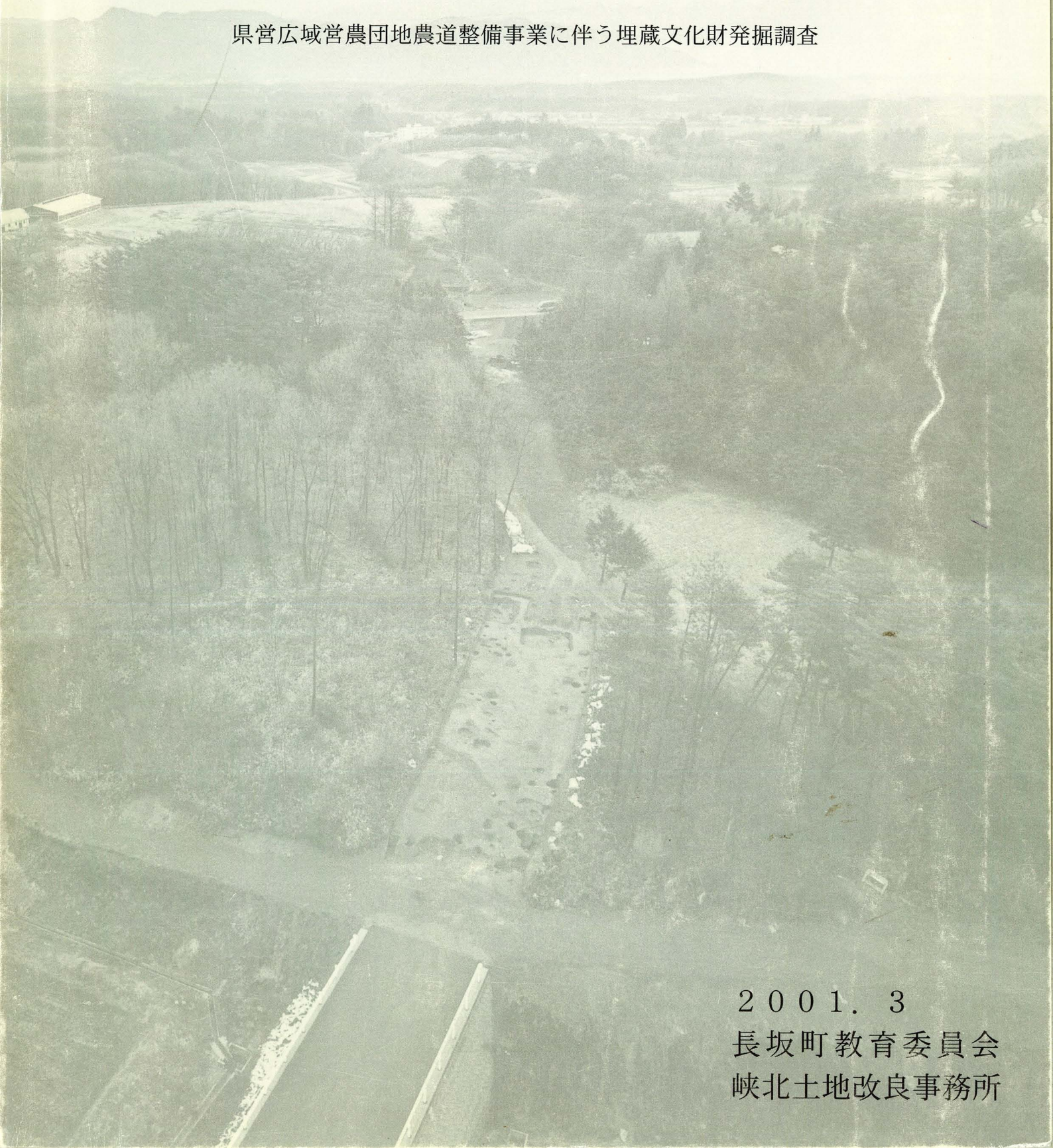
長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集

KONYA-SITE

紺屋遺跡 —第１次発掘調査報告書—

県営広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



２００１．３
長坂町教育委員会
峡北土地改良事務所

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集

KONYA-SITE

紺屋遺跡 —第１次発掘調査報告書—

県営広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００１．３

長坂町教育委員会

峡北土地改良事務所

序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、およそ200ヶ所に上る遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護をはかりつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための文化財保護事業を推進しております。

本書は平成10年度に県営広域営農団地農道整備事業にともない発掘調査を実施した紺屋遺跡の調査報告書です。紺屋遺跡では縄文時代の集落、平安時代の集落、中世の墓地が多数の遺物とともに発見されました。中でも、中世の墓地からは五輪塔が数多く出土し、最近発掘調査された高根町横森赤台（東下）遺跡や韮崎市石之坪遺跡（東地区）からも紺屋遺跡以上に五輪塔が多数出土しており、それらの遺跡との比較が注目されます。また、第２次調査で発見された方形竪穴状遺構との集落内における位置関係等も興味深いものがあります。

最後に、紺屋遺跡の調査にあたり、格別なご理解をいただいた長坂下条地区の皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2001年３月

長坂町教育委員会
教育長　瀬戸龍徳

例　　言

1．本書は、1998（平成10）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町長坂下条字紺屋地内に所在する紺屋遺跡の第１次発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、県営広域営農団地農道整備事業に伴う事前調査であり、山梨県峡北土地改良事務所より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。

3．本書の執筆・編集は、村松佳幸（長坂町教育委員会学芸員）が行った。

4．発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関・各位に委託および依頼した。
基準点測量・航空測量　　㈱シン技術コンサル
人骨鑑定　　梶ヶ山眞里（国立科学博物館　人類研究部　非常勤研究員）

5．遺構・遺物の写真撮影は村松が行った。

6．本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。

7．発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。
畑大介　宮澤公雄　平野修　櫛原功一（山梨文化財研究所）　閏間俊明（韮崎市教育委員会）　渡邊泰彦（大泉村教育委員会）　野代幸和（山梨県埋蔵文化財センター）　出澤力（佐久市教育委員会）　長谷川誠（國學院大學大学院生）

凡　　例

1．掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。
遺構　調査区全体図：1/100
住居跡・竪穴状遺構・溝：1/60
炉・カマド：1/30
土坑・五輪塔集中地点・五輪塔散在地点：1/30
遺物　縄文土器：1/3または1/4
黒曜石原石：2/3
石皿・台石：1/6
それ例外の石器：1/3
土師器・須恵器・灰釉陶器：1/4
鉄滓：1/3　　五輪塔：1/6　　古銭：2/3

2．第１図は、株式会社写測2000年調製、1/25,000長坂町全図（国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの）を基に作成した。

3．第２図は、国際航業株式会社1994年調製1999年修正、1/10,000長坂町全図を基に作成した。

4．遺構図版中の遺物分布図のマークは各図版中に示してある。

5．遺構・遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。

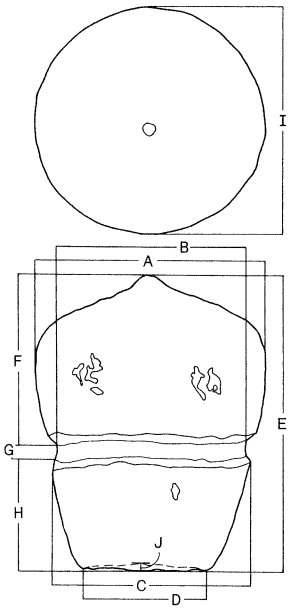
黒色土器		須恵器	
灰釉陶器		石器作業面	
被熱部		煤	

6．拓影図で両面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。

7．遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

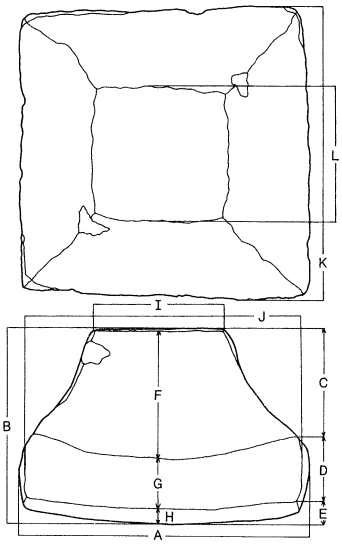
8．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

9．五輪塔・宝篋印塔もしくは六地蔵鐘の計測箇所は次のとおりである。



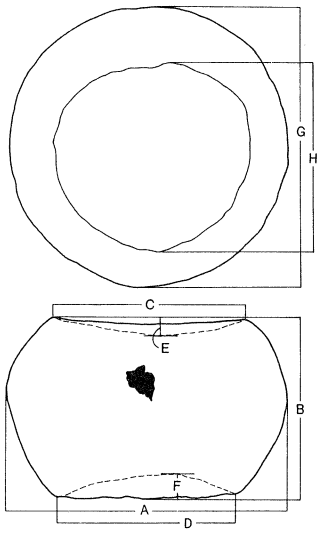
空風輪

A：空輪の最大幅
B：空輪の下端幅
C：風輪の最大幅
D：風輪の下端幅
E：空風輪の最大長
F：空輪の最大長
G：空風輪の溝の幅
H：風輪の最大長
I：空風輪の最大厚
J：ほぞの最大長または下端の抉りの深さ
K：ほぞの幅



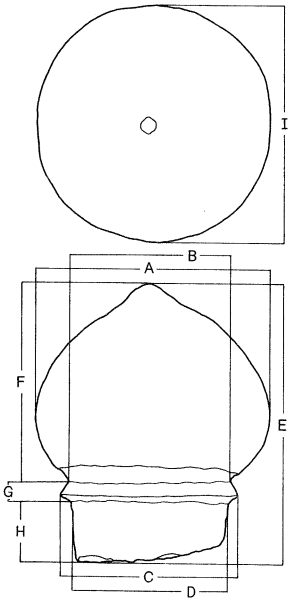
火輪

A：火輪の最大幅
B：火輪の最大長
C：風輪受部から軒隅上端までの長さ
D：軒隅の長さ
E：軒隅下端から水輪接地部までの長さ
F：風輪受部から軒中央上端までの長さ
G：軒中央の長さ
H：軒中央下端から水輪接地部までの長さ
I：風輪受部の幅
J：軒の幅
K：火輪の最大厚
L：風輪受部の厚さ



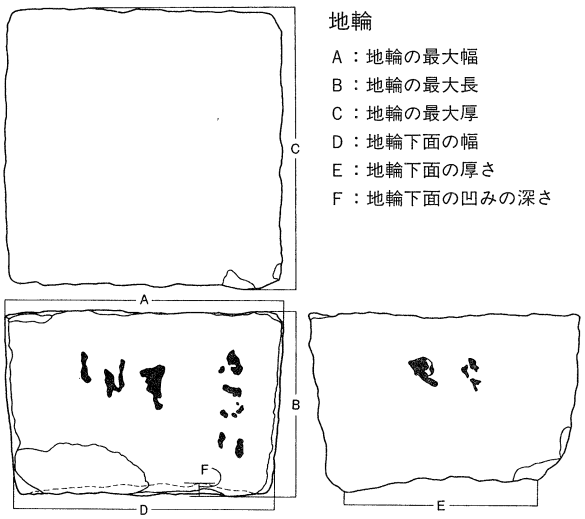
水輪

A：水輪の最大幅
B：水輪の最大長
C：水輪の上面最大幅
D：水輪の下面最大幅
E：水輪の上面抉りの深さ
F：水輪の下面抉りの深さ
G：水輪の最大厚
H：水輪の上面最大厚
I：水輪の下面最大厚



宝篋印塔もしくは六地蔵幢

A：宝珠形の最大幅
B：宝珠形下端の幅
C：張り出し部の幅
D：軸の幅
E：相輪の残存長
F：宝珠形の長さ
G：張り出し部の長さ
H：軸の残存長
I：宝珠形の最大厚



地輪

A：地輪の最大幅
B：地輪の最大長
C：地輪の最大厚
D：地輪下面の幅
E：地輪下面の厚さ
F：地輪下面の凹みの深さ

紺屋遺跡目次

序
例　　言
本文目次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次
第１章　調査の経過と概要……１
　第１節　発掘調査に至る経過……１
　第２節　発掘調査の概要……１
　第３節　基本層序……１
　第４節　発掘調査組織……１
第２章　遺跡の位置と環境……２
　第１節　地理的環境……２
　第２節　歴史的環境……２
第３章　遺構と遺物……３
　第１節　縄文時代……３
　第２節　平安時代……４
　第３節　中　　世……６
　　墓　坑……６
　　火葬墓または火葬施設……７
　　１号五輪塔集中地点……７
　　２号五輪塔集中地点……７
　　五輪塔散在地点……７
　第４節　時期不明遺構……８
第４章　遺構・遺物の検討……９
　第１節　縄文時代……９
　第２節　平安時代……９
　第３節　中　　世……９
　第４節　ま と め……10
引用・参考文献……10
附編　紺屋遺跡出土人骨……11

挿 図 目 次

第１図　長坂町遺跡分布図……15
第２図　紺屋遺跡調査区と周辺の地形……17
第３図　紺屋遺跡調査区全体図……19
第４図　２号住居跡・５号土坑……21
第５図　２号住居跡遺物出土状況、出土土器・石器…22
第６図　３号住居跡・34号土坑……23
第７図　３号住居跡遺物出土状況……24
第８図　３号住居跡出土土器……25
第９図　３号住居跡出土土器……26
第10図　３号住居跡出土石器……27
第11図　５号土坑・遺構外出土土器……28
第12図　遺構外出土土器……29
第13図　遺構外出土土器……30
第14図　１号住居跡……31
第15図　１号住居跡・カマド遺物出土状況……32
第16図　１号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、
　　下：土師器）……33
第17図　１号住居跡遺物出土状況（上：黒色土器、
　　下：須恵器・陶器）……34
第18図　１号住居跡出土土器……35
第19図　１号住居跡出土土器……36
第20図　４号住居跡、11・12-1・12-2・22号土坑……37
第21図　４号住居跡遺物出土状況……38
第22図　４号住居跡出土土器……39
第23図　５号住居跡……40
第24図　５号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、
　　下：土師器）……41
第25図　５号住居跡遺物出土状況（上：黒色土器、
　　下：須恵器・陶器）……42
第26図　５号住居跡カマド遺物出土状況、出土石器…43
第27図　５号住居跡出土土器……44
第28図　５号住居跡出土土器・鉄滓……45
第29図　７・15・16・17・19号土坑……46
第30図　８・13・18-1・18-2号土坑……47
第31図　１号五輪塔集中地点……48
第32図　２号五輪塔集中地点……49
第33図　五輪塔散在地点……50
第34図　五輪塔……51
第35図　五輪塔……52
第36図　五輪塔……53
第37図　五輪塔……54
第38図　五輪塔・中世土器・古銭……55
第39図　１号竪穴状遺構、１号溝、１・２号土坑……56

第40図　3・4・6・9・10・14・21・30号土坑……57
第41図　遺構変遷……58
第42図　遺物分布……59
第43図　第1・2次調査区遺構変遷……60

表　目　次

第1表　長坂町遺跡分布一覧……16
第2表　土坑・ピット一覧……61
第3表　石器一覧……61
第4表　平安・中世遺物観察表……62
第5表　墨書土器一覧……65
第6表　古銭一覧……65
第7表　空風輪一覧……66
第8表　火輪一覧……66
第9表　水輪一覧……66
第10表　地輪一覧……66
第11表　宝篋印塔もしくは六地蔵鐘……66
第12表　遺構別出土遺物内訳……67

写真図版目次

図版1　調査区全景①（西から）
図版2　調査区全景②（東から）
図版3　調査区全景③（西から）
図版4　調査区全景④（真上から）
調査区近景①（東から）
調査区近景②（西から）
図版5　2号住居跡　2号住居跡地床炉
図版6　3号住居跡　3号住居跡地床炉
図版7　3号住居跡遺物出土状況①
3号住居跡遺物出土状況②
3号住居跡遺物出土状況③
図版8　5号土坑　5号土坑遺物出土状況　23号土坑
図版9　1号住居跡　1号住居跡カマド
図版10　1号住居跡完掘状況　4号住居跡
図版11　4号住居跡カマド　4号住居跡完掘状況
図版12　5号住居跡　5号住居跡カマド①
図版13　5号住居跡完掘状況①（西から）
5号住居跡カマド完掘状況
図版14　5号住居跡カマド
5号住居跡完掘状況②（北から）
5号住居跡遺物出土状況①
5号住居跡遺物出土状況②
5号住居跡遺物出土状況③
図版15　1・2号五輪塔集中地点①（西から）
1・2号五輪塔集中地点②（東から）
図版16　1号五輪塔集中地点①（南東から）
1号五輪塔集中地点②（西から）
図版17　2号五輪塔集中地点①（東から）
2号五輪塔集中地点②（西から）
図版18　2号五輪塔集中地点③（北西から）
2号五輪塔集中地点灰釉陶器出土状況
図版19　五輪塔散在地点①（南西から）
五輪塔散在地点②（西から）
図版20　調査区西端土坑群①（北西から）
調査区西端土坑群②（南西から）
図版21　調査区西端土坑群③（西から）
7号土坑①(南西から)　7号土坑②(北から)
11（右）・12（左）号土坑　11号土坑
図版22　15・16・17号土坑①（北西から）
15・16・17号土坑②（西から）
図版23　16号土坑①（西から）
16号土坑②（北から）
図版24　16号土坑完掘状況　17号土坑
図版25　15・16・17号土坑完掘状況①（北西から）
15・16・17号土坑完掘状況②（南東から）
図版26　18－1・2号土坑①（北東から）
18－1・2号土坑②（北から）
図版27　18－1号土坑人骨出土状況（西から）
18－2号土坑人骨出土状況（東から）
図版28　18－1・2号土坑完掘状況①（北から）
18－1・2号土坑完掘状況②（西から）
18－1・2号土坑完掘状況③（東から）
18－1・2号土坑③（北から）
18－1号土坑かわらけ出土状況
図版29　19号土坑　20号土坑　22号土坑
図版30　8号土坑　8号土坑人骨出土状況
8号土坑完掘状況　13号土坑
13号土坑古銭出土状況
図版31　1号土坑　2号土坑　3号土坑
図版32　4号土坑　6号土坑　9号土坑
図版33　10号土坑　14号土坑　21号土坑
図版34　出土土器①
図版35　出土土器②
図版36　出土石器
図版37　出土土器③
図版38　出土土器④
図版39　出土土器⑤・古銭
図版40　五輪塔

第１章　調査の経過と概要

第１節　発掘調査に至る経過

山梨県峡北土地改良事務所は、八ヶ岳南麓を縦横断する広域営農団地農道整備事業を推進しており、1993（平成５）年、長坂町に対し事業案を提示した。計画路線上に埋蔵文化財包蔵地が数ヶ所あたるので、同年度に長坂町教育委員会が試掘調査を実施した。その結果、いくつかの遺跡が確認され、発掘調査が行われている。長坂下条字紺屋地内においても、試掘調査で平安時代の遺構が確認され、遺跡の存在が明らかになった。

1998（平成10）年４月に土地改良事務所から文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知が提出され、長坂町教育委員会による直営方式の発掘調査を実施することになった。同年12月に調査を開始し、埋蔵文化財発掘調査の報告を行った。発掘調査は約３ヶ月を要し1999（平成11）年３月11日に現場調査を終了し、同年３月17日に長坂警察署に遺物発見届を提出した。整理作業は、他事業との関係で、2000（平成12）年４月から開始し、翌2001（平成13）年３月に終了した。

第２節　発掘調査の概要

紺屋地内における農道建設予定地は約1,800㎡であり、1998（平成10）年度では第１次調査として、その西端の315㎡を発掘調査した。翌年度には第２次調査として残りの1,400㎡を、長坂町から委託を受けた紺屋遺跡発掘調査団が発掘調査している（宮澤2000）。

調査区に発掘調査・遺構測量の基準として５ｍ間隔のグリッドを設定し、東から西方向に47～54、北から南方向にＵ～Ｘとグリッド番号を付けた。番号が中途半端なのは、同年度に紺屋遺跡の東側で、龍角西遺跡Ｂ区の調査をしており、その調査区を含めたグリッド番号を付けたためである。つまり、龍角西遺跡Ｂ区から１あるいはＡから付けているからである。

調査は、表土層があまり堆積しておらず、樹木の切り株が所々散在していたため、重機による表土剝ぎは行わず、人力で遺構確認面まで掘削していった。その後、丁寧に遺構面の精査を行い調査を進めていった。遺物は原則として光波測量機で出土原位置を記録し、小さいものに関してはグリッド一括としてまとめて取り上げた。遺構を確認した後は、その遺構の範囲の中から出土しているものについては、その遺構出土のものとして取り上げていった。遺構は土層断面・遺構平面図・遺物出土状況図等を平板実測あるいは簡易遣り方等の手作業により図化していった。全体図は空中写真測量で図化した。また、調査の状況に合わせ、写真撮影を行った。

調査後は、洗浄・注記等の基礎整理を平成10年度に終了したが、本格的な整理作業は平成12年に行った。

発見された遺構は、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡２軒、土坑５基、平安時代の竪穴住居跡３軒、中世の墓10基、火葬墓または火葬施設２基、五輪塔集中地点２ヶ所、五輪塔散在地点１ヶ所、時期不明の竪穴状遺構１基、溝１条、土坑22基、ピット７基である。出土遺物は、縄文時代の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器・陶器・鉄滓、中世の五輪塔・土師質土器・かわらけ・灰釉陶器・古銭が出土している。

第３節　基本層序

ここで紺屋遺跡の基本層序を述べておく（第14図１号住東西土層断面参照）。遺跡が台地上に立地しているため堆積は浅く、表土下40～50㎝で遺構確認面の黄褐色ローム層となる。その上の堆積は３層に分けられ、一番上に表土（黒色腐植土）があり、その下に褐色土が２層ある。下位の褐色土は上位のそれより暗い色相である。遺構確認面では、堆積の浅さのため縄文・平安・中世の各遺構が同時に確認されるが、平安・中世の遺構覆土は、縄文のそれより色が暗い。

第４節　発掘調査組織

事業主体	長坂町教育委員会		
事務局	教育長	小松清寿（～平成12年９月）	
		瀬戸龍徳（平成12年10月～）	
	教育課長	植松　忠（～平成12年３月）	
		三井　茂（平成12年４月～）	
	教育係長	小松武彦（～平成12年７月）	
		坂本美男（平成12年７月～）	
調査担当	村松佳幸		
試掘担当	小宮山隆		
調査補助員	吉田光雄		
発掘作業員	横山幸男	國府田孝吉	植松重雄
	塚原袈裟重	小林松男	相吉いわと
	小林はる代	秋山かつゑ	八巻重子
	小林　裕	小林敏恵	小林立枝
	渡辺早月	大柴富子	畑　梅子
	名取初子	小尾トヨ子	宮原征人
	田中玲子	小澤功子	
整理作業員	長田加代子	井出仁美	石川昭江
	奈良裕子	小林広美	山本理奈
	深沢憲子	日向登茂子	清水純代
	橋本はるみ	橋本　彩	

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

紺屋遺跡の所在する北巨摩郡長坂町は、山梨県の北西部に位置し八ヶ岳南麓に立地する、南北約18㎞、東西約６㎞の細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起こった韮崎火砕流によって形成された台地上にあり、標高は北端の八ヶ岳権現岳が頂点で2,786ｍを測り、南端はＪＲ日野春駅の南側で約490ｍである。標高1,200ｍ以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、泥流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称七里岩と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した潅漑用水や潅漑用溜池が数多く、県下で最も溜池の多い地域となっている。また、それを利用した水稲耕作が行われ、古くから八ヶ岳南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

紺屋遺跡の所在する長坂下条地区は、町南部のほぼ中央に位置し、標高が660ｍである。長坂下条地区は、東を流れる鳩川と西側を流れる大深沢川とに挟まれた台地に位置する。その台地が長坂台地と呼ばれ、ＪＲ中央本線や県道茅野・小淵沢・韮崎線（通称七里岩ライン）が南北に縦断し、八ヶ岳南麓の主要交通路として利用されている。この台地上にも小河川による浸食によって大小の入り組んだ尾根が形成されている。本遺跡もその入り組んだ尾根の一つに立地する。

今回の調査原因になっている広域農道は、県道茅野・小淵沢・韮崎線を東西に横断するように建設され、比較的南北方向に走る主要道路のいくつかを、東西に結ぶ役割を担うことになる。

第２節　歴史的環境

八ヶ岳南麓は、県内でも有数の遺跡密度の濃い地域である。その中でも長坂町は遺跡が数多く分布し、これまでに208ヶ所ほどの遺跡が確認されている。紺屋遺跡の立地する台地上も遺跡が数多く存在し、長坂町内でも遺跡の分布が濃い地域である。

長坂上条遺跡は、昭和16年史前学研究所の大山柏氏を中心に山梨県初の学術調査が行われた遺跡として有名である（大山柏他1941）。縄文時代後晩期の配石墓群が発見され、弥生時代の遺物も出土している。また、現山梨県酪農試験場地内にある酒呑場遺跡は、縄文時代前期から中期にかけての大集落跡である。1994（平成６）～1996（平成８）年に山梨県教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代前期～中期の住居跡200軒以上が発見されている（野代1997、保坂1997・1998）。遺物も、縄文時代中期を主体にして早期から後期までの土器・石器が整理箱1,400箱分にものぼり、極めて多量の遺物が出土している。中でも漆塗りの土器片、ヒスイ原石および垂飾、土偶、玦状耳飾、サメの歯状垂飾、土棒、土製蓋等が出土し、遺物の内容も豊富である。それと合わせて古墳時代前期の集落も発見されている。長坂上条遺跡と酒呑場遺跡は台地の上と下の関係で位置しており、縄文時代の中期までは台地上の平坦部に集落を構え、後期になると台地の下の低地へ集落を移動していったと考えられる。

紺屋遺跡周辺でも、いくつかの遺跡が発掘調査されている。北村遺跡は、紺屋遺跡から谷を挟んで西へ約300ｍほどの所に位置する、古墳時代前期の方形周溝墓６基が発見された遺跡である（小宮山1996）。広域農道整備に先立ち1994（平成６）～1995（平成７）年にかけて長坂町教育委員会が発掘調査を実施し、方形周溝墓の墳丘がほぼ完全な状態で発見され、中には墳丘上に土器が供献されたままの状態で残されているものもあった。

龍角西遺跡は、県道を挟んで紺屋遺跡の東に位置し、1997（平成９）～1998（平成10）年にかけて発掘調査が行われている。第１次調査は調査区の北部の台地上を調査し、古墳時代前期末から中期の竪穴住居跡10軒、平安時代の竪穴住居跡５軒、掘立柱建物跡３棟などが発見されている。第２次調査は台地の南西側の谷部と紺屋遺跡へとつながる台地を調査し、平安時代の竪穴住居跡２軒、中世の建物跡２棟、掘立柱建物跡３棟以上、溝、土坑、道路状遺構などが発見されている。

1991（平成３）年には龍角西遺跡に隣接する龍角遺跡で発掘調査が実施されており、古墳時代中期の住居跡が数軒発見された。八ヶ岳南麓で古墳時代前期末から中期にかけてのまとまった集落の調査例はなく、県内でも特に資料の少ない古墳時代中期の土器編年および集落研究にとって、貴重な資料となった。

その他、紺屋遺跡周辺には長坂氏の屋敷と言われている長坂氏屋敷跡（町指定史跡）をはじめ、三井氏館跡、相吉氏屋敷、上松（植松）氏屋敷等の屋敷跡が知られているが、詳細は不明である。

第３章　遺構と遺物

第１節　縄文時代

２号住居跡

（位置）Ｖ－48・49・50グリッドに位置する。

（重複）５号土坑と重なる。

（形状）住居壁がセクションでしか確認できなかったため、形状は不明である。おそらく円形であろう。

（規模）北側1/3が調査区外である。住居跡の直径は土層断面での観察によると約６ｍであろう。

（床面）硬化面は確認できなかった。

（施設）地床炉が住居中央に構築されている。主柱穴は調査区内で４基確認できた（２Ｐ・４-１Ｐ・７Ｐ・10Ｐ）。おそらく６本柱穴になるであろう。また、住居内のピットは以下のとおりである。(数値は長径×短径×深さの順、単位はcm。( )付き数値は残存値。以下他の住居内ピットも同様の表記とする。)

１Ｐ	50×44.5×43.5	６Ｐ	59×51×26.4
２Ｐ	50.1×46.5×28.1	７Ｐ	46.5×48×34
３Ｐ	36×33×27.1	８Ｐ	29.5×24.5×19.2
４－１Ｐ	(55.5)×58×45.5	９Ｐ	41×(23)×23
４－２Ｐ	(43)×(46.5)×9.4	10Ｐ	31×29×17.3
５Ｐ	66×41.5×40.7	11Ｐ	(57)×34×17.5

（遺物）第５図。出土土器のほとんどが藤内式である。石器は横刃形石器１点、凹石１点の２点だけである。

（遺物出土状況）遺物量は少なく、ほとんどが床面に近い高さから出土している。

（時期）出土土器より縄文中期中葉の藤内式期と考えられる。

（備考）住居内に５号土坑があり、第11図１が出土している。出土遺物から５号土坑は藤内式期であり、両者とも同じ時期でなので、５号土坑は２号住居跡内の土坑で、貯蔵穴であった可能性も考えられる。

３号住居跡

（位置）Ｖ－50・51・52、Ｗ－51・52グリッドに位置する。

（重複）１号・35号土坑に切られている。

（形状）住居の立ち上がりが西側でしか確認できなかったため、はっきりとは言えないが、おそらく円形であろう。

（規模）北側約1/4が調査区外である。残存している住居壁とセクションで確認できる壁の立ち上がりで6.43ｍを測る。

（床面）硬化面は確認できなかった。

（施設）地床炉が住居中央に構築されている。地床炉内から礫が数点出土している。住居内ピットは以下のとおりである。

１Ｐ	31.5×(10)×29.6	４Ｐ	30.5×32×29
２Ｐ	23×22.5×63.9	５Ｐ	30.5×30×18.7
３Ｐ	25.5×26×59.3		

以上のピットはどれも３号住居跡の主柱穴である。おそらく調査区外に柱穴があり、調査区内のピットの配置から推定すると７本柱穴になると考えられる。

（遺物）第８図１は藤内式である。下半部を中心に全体の約1/3が欠損している。器形は胴部が寸胴なキャリパー形である。４単位の波状口縁であり、波頂部の１つに独立した渦巻隆帯文があり、それが正面になる。それ以外は、波頂部で渦を巻く隆帯の端が口唇部に沿って伸びているが、正面向かって左側には弧状の隆帯のみが口唇部に施される。正面と裏面の渦巻隆帯文の下には右側が横に流れて渦を巻く逆Ｕ字文が施され、その周辺をパネル文で充塡されている。一部に三角押文が施されている。

第９図２～34・39は藤内式、35～38は新道式であろう。26は樽形をした深鉢であり、胴部にサンショウウオ状の抽象文が施されている。

石器は打製石斧３点、横刃形石器２点、凹石１点、石皿１点である。なお、第10図42の打製石斧と43の薄片は接合するので、３号住居跡付近で打製石斧を製作あるいは再生していたことが分かる。

（遺物出土状況）遺物量は２号住居跡と比べると多い。第８図１は住居跡覆土中から出土している。口縁部から底部にかけての破片が重なるように出土しているので、住居が埋没した後、その場所に土坑を掘り、埋めた可能性もある。

（時期）出土土器より縄文中期中葉の藤内式期であろう。

（備考）住居内に33～35号土坑がある。33号土坑はその南側に第10図47の石皿が土坑にかかるように伏せられていたので、その住居に伴うものと考えてよいであろう。34号土坑も、柱穴との切り合いがなく、断面形態が袋状を呈しているので、おそらく３号住居跡の貯蔵穴であろう。35号土坑は柱穴４号ピットと切り合っているので、３号住居跡には伴わないであろう。35号土坑の遺構プランを確認したとき４号ピットは確認できなかったので、35号土坑が４号ピットを切っており、３号住居跡より新しいと考えられる。

５号土坑

（位置）Ｖ—49グリッド。（重複）２号住居跡内に含まれる。（形状）ほぼ円形である。（規模）長径0.86ｍ、短径

0.705m、深さ0.173～0.243mである。(遺物) 第11図1。パネル文を施された藤内式の底部である。(時期)出土土器より縄文時代中期中葉の藤内式期である。(備考) 2号住居跡と同じ藤内式期なので、2号住居跡の貯蔵穴であった可能性がある。

23号土坑

(位置) X—49・50グリッド。(重複) なし。(形状) ほぼ円形を呈する。(規模) 長径 (0.86) m、短径 (0.79) m、深さ0.37～0.42mである。(遺物) 出土していない。(時期) おそらく縄文時代であろう。(備考) 図示しなかったが、土坑の断面形状がやや袋状を呈していたため、縄文時代のものと判断した。

33号土坑

(位置)W—51グリッド。(重複) 3号住居内にある。(形状)不整楕円形をしている。(規模)長径0.88m、短径0.69m、深さ0.11mである。(遺物)出土していない。(時期) おそらく縄文時代と考えられる。(備考)土坑の南壁の外側で、第10図47の石皿が伏せられた状態で出土している。

34号土坑

(位置)V—51グリッド。(重複) 3号住居内にある。(形状) ほぼ円形である。(規模) 長径0.49m、短径0.5m、深さ0.48～0.502mを測る。(遺物)出土していない。(時期) おそらく縄文時代と考えられる。(備考) 3号住居跡内にあり、土坑の断面形状が袋状を呈しているので、3号住居跡の貯蔵穴であった可能性がある。

35号土坑

(位置) W—51グリッド。(重複) 3号住居内にある。3号住居跡の4号ピットを切っている。(形状)ほぼ円形である。(規模)長径0.69m、短径0.61m、深さ0.43mを測る。(遺物) 出土していない。(時期) おそらく縄文時代と考えられる。(備考)土坑の断面形状が袋状を呈しているので、貯蔵穴であった可能性がある。3号住居跡の4号ピットを切っているので、3号住居跡が廃絶された後、作られたものであろう。

遺構外出土遺物

第11・12・13図2～69。縄文時代の遺構以外から出土した縄文時代遺物をまとめた。土器はほとんど縄文中期中葉の藤内式である。図示した石器は打製石斧3点、横刃形石器1点、磨石1点、棒状礫1点、黒曜石原石3点である。棒状礫はハンマーとして使用されたかもしれない。黒曜石原石はすべて1号溝から出土している。

第2節　平安時代

1号住居跡

(位置) U—47、V—47・48グリッドに位置する。

(重複) なし。

(形状) 約1/3が調査区外なので、全体の形態は不明であるが、おそらく長方形であろう。

(規模) 長径5.29m、短径(2.815) m、深さ0.264～.0392mを測る。

(床面) カマド前面から中央部にかけて少し硬化している。

(施設) 東壁にカマドが築かれ、カマド南脇の住居南東隅に貯蔵穴がある。カマドは袖部が残っておらず、上部に数個の礫が出土している。住居内ピットは以下のとおりである。

1P	86.5×65×30.3	8P	98.5×73.5×21
2P	34×26×29.7	9P	22.5×20.5×6.8
3P	17×14.5×18.2	10P	19×15.5×23.7
4P	31×(24)×16.1	11P	57×(39)×28.9
5P	18.5×16×42.5	12P	31×26.5×27.2
6P	(50.5)×50.5×16	13P	36.5×28×30.4
7P	37.5×33×27.4		

なお、南壁の中央にピットが2つ並んで発見されている。ここが入り口部として、階段のような施設が作られていた可能性もある。

(遺物) 第18・19図。1は甲斐型坏で内面が黒色処理されている。2～7は黒色土器で、3の体部外面には「春」という刻書がある。8～20は須恵器、21は陶器で22は灰釉陶器である。23～48は甲斐型甕で、中でも38～41は小型のものである。各土器の詳細は第4表に譲る。

(遺物出土状況) 第15・16図。出土土器のほとんどが土師器であり、その中でも甲斐型甕の出土が圧倒的である。黒色土器・須恵器・陶器はその順に出土量が少なくなっている。住居における土器の出土状況は、カマド周辺から住居南側にかけて多数出土している。出土レベルをみると、床面から覆土上層まで間隔を開けず出土している。土師器では甲斐型甕が圧倒的で、カマド周辺に多い。甲斐型坏は小片ばかりで、図示出来るものはほとんどなかった。黒色土器は全部が坏で、カマド周辺および住居南側に多く出土している。須恵器は甕・坏が同じくらい出土しており、カマドからやや離れた場所からの出土が多い。

(時期) 住居内から出土した甲斐型坏小片のほとんどに暗文が施されておらず、また、口縁部の玉縁化が進んで

いるものが多いので、甲斐型土器編年XI～XII期と考えられる。

4号住居跡

（位置）X—54グリッドにある。

（重複）11、12－1、12－2、18－1、18－2号土坑に切られている。

（形状）東壁以外は撹乱を受けていたり、調査区外であったりして、全体の形状は不明である。

（規模）残存長(2.81) m、残存幅(2.43) m、深さ0.344 m。

（床面）カマドの全面が少し硬化している。

（施設）カマドが東壁に構築されている。しかし、11号土坑により北側半分が壊されており、南側の袖部しか残っていなかった。粘土と礫で構築されている。住居内ピットは以下のとおりである。

1P	34.5×30×5.3	5P	20.5×(12)×7.3
2P	29×21.5×6.6	6P	(21.5)×31×5.2
3P	31.5×21×7	7P	(35)×(43)×10.9
4P	25×23.5×21.1		

（遺物）第22図。1～5は甲斐型坏で、6は甲斐型皿である。1・2・6は暗文が施され、3～5は暗文がない。3・4は暗文がなくXI期の甲斐型坏とも考えられるが、器形は底部が大きく体部の立ち上がりがややきつく古い様相を呈しているので、そちらを重視してVIII期と考えたい。7は甲斐型甕、13～21は黒色土器である。14・17・18は高台坏、21は蓋である。22～26・28・29は須恵器で、27は土師器蓋のつまみ部である。各土器の詳細は第4表に譲る。

（遺物出土状況）第21図。カマドを含め東壁が、中世の土坑に壊されてしまったので、カマド周辺からの土器の出土は少なく、住居中央に多い。土師器・黒色土器・須恵器・陶器の順で出土量は多いが、1号住居跡と比べると、土師器の割合が低く、黒色土器とあまり変わらないようである。土師器の中では甕と坏がほぼ同じ割合で出土し、甕はカマド周辺に多く、坏は住居中央に多い。黒色土器はほとんどが坏であり、住居中央に多い。須恵器は甕と坏がほぼ同じぐらいの量で、住居中央の床面に近い高さから出土している。

（時期）第22図3・4は甲斐型土器編年VIII期であるが、1・2はIX期である。出土状況も3・4が1・2より下にあるようにも見えるが、撹乱が多く確実ではない。よって、住居の時期は幅を持たせてVIII～IX期としておく。灰釉陶器片は出土しておらず、古い様相であると言える。

5号住居跡

（位置）V—48・49、W—48・49グリッドに位置する。

（重複）37号土坑と重複している。

（形状）ほぼ長方形

（規模）長径4.54m、短径3.61m、深さ0.319～0.57mである。

（床面）南半分が硬化している。特にカマド全面が硬化の度合いが強い。

（施設）東壁南寄りにカマドが構築されている。カマドに天井石はなかったが、左右の袖石は残っており、礫と粘土で構築されている。カマド中央には支脚石が立ったままの状態で残っていた。煙道は住居の壁からわずかに外に張り出すぐらいで短い。カマドの南脇の住居跡南東隅に貯蔵穴が作られている。住居内ピットは以下のとおりである。

1P	28×26×5.8	3P	(35)×31.5×21
2P	107×63×29.2	4P	37.5×31×18.4

なお、1号住居跡と同様に南壁に2つのピットが並んで発見されている。入り口施設に付属するものと考えられる。

（遺物）第27・28図。2～8は甲斐型坏、9・10は甲斐型皿、11～17は甲斐型甕、18はロクロ甕、19は土師器甕、20～31は黒色土器である。28は高台付皿で、底部外面に「×」の刻書がある。刻書は土器を焼成する前に付けている。32～40はロクロ甕、41～47・49は須恵器、50は鉄滓である。48は灰釉陶器の高台付坏で、高台の形態から黒笹90号窯式の第2段階と考えられる(斎藤2000)。その段階は年代で言うと860～880年である。第24図1は偏平な礫である。表面は赤化しており、また煤が付着している。カマドの前面に置かれていたので、調理時に使用されていたであろう。各土器の詳細は第4表に譲る。

（遺物出土状況）第25・26図。1号・4号住居跡と同じく土師器・黒色土器・須恵器・陶器の順に出土量が多い。土師器は甕が多く、カマド周辺からの出土が多い。黒色土器は坏がほとんどで、同じくカマド周辺に多く出土している。須恵器・陶器は甕多く、南西隅に多く出土する。

遺物の出土レベルをみると、床面近くからの出土遺物群と覆土上層出土遺物群との間に多少の間隔があり、住居跡が埋没する課程で、土器の廃棄に時間差があると考えられる。しかし、上層と下層で接合例があるので、一概に言えない。なお、下層の方が実測可能な遺物が多く出土している傾向がある。

（時期）第27図1～4より甲斐型土器編年X期である。また、48の灰釉陶器高台付坏もほぼ同じ年代である。

第3節　中　　世

墓　坑

7号土坑

（位置）X—52グリッド。（重複）なし。（形状）不整円形を呈する。（規模）長径1.185m、短径0.93m、深さ0.593～0.768mを計る。（遺物）底部近くから人骨片と歯が出土し、鑑定結果より壮年（20～30才台）前半の歯である。（時期）この土坑からは時期決定できる遺物が出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると、中世であろう。（備考）人骨が出土しているので、墓坑である。

11号土坑

（位置）X—53・54グリッド。（重複）4号住居跡を切っており、カマドを壊している。（形状）楕円形を呈する。（規模）長径0.78m、短径0.57m、深さ0.58～0.734mである。（遺物）平安時代の甲斐型甕片数点と古銭3点と歯が出土している。古銭は第38図59・60であり、1点は錆で銭貨名が確認できなかった。歯は鑑定結果より小児（10才前後）のものである。（時期）古銭が出土しているので中世であろう。（備考）歯が出土しているので墓坑である。

12－1号土坑

（位置）X—54グリッド。（重複）12－2号土坑を切っている。（形状）円形である。（規模）長径0.53m、短径（0.48）m、深さ0.19～0.28mを計る。（遺物）古銭6点と平安時代の甲斐型甕と黒色坏の小片が出土している。古銭は第38図61・62・63・64である。残りの2点は銭貨名が確認できなかった。（時期）古銭が出土しているので中世であろう。（備考）おそらく墓坑であろう。

15号土坑

（位置）X—53グリッド。（重複）16号土坑を切っている。（形状）ほぼ長方形である。（規模）長径（0.88）m、短径0.74m、深さ0.427～0.589mを測る。（遺物）人骨と歯が出土している。鑑定結果より壮年女性である。（時期）土坑から時期決定できるようなものは出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると中世であろう。（備考）人骨が出土しているので、墓坑である。

16号土坑

（位置）X—53・54グリッド。（重複）15・17号土坑に切られる。（形状）不整楕円形であろう。（規模）長径（1.18）m、短径（1.21）m、深さ0.992～1.013mを測る。（遺物）古銭6点と人骨が出土している。古銭は第38図67・68・69・70・71であり、残りの1点は銭貨名が確認できなかった。人骨は骨粉なので、性別年齢は不明である。（時期）古銭が出土していることから中世と考えられる。（備考）人骨が出土しているので、墓坑である。長軸1.08m、短軸0.64mの不整長方形の土坑になり、その土坑の上層に20～40cm大の礫が巡らされている。15号土坑に切られている片には礫がなく、15号土坑を作るときに邪魔になって抜き取られたのであろう。また、その礫はどれも土坑中心側に落ち込むように傾いており、遺体を入れていた棺が腐って崩れ、その中の隙間に上の土が入り込み、その上にあった礫も一緒に沈み込んでいったのであろう。

17号土坑

（位置）X—53グリッド。（重複）16号土坑を切っている。（形状）楕円形である。（規模）長径0.59m、短径（0.43）m、深さ0.57～0.63mである。（遺物）なし。（時期）この土坑から時期決定できるようなものは出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると中世と考えられる。（備考）土坑の上部に10～30cm大の礫が蓋をするかのように置かれている。おそらく墓坑であろう。

18－1号土坑

（位置）X—54グリッド。（重複）18－2土坑を切っている。（形状）ほぼ長方形を呈する。（規模）長径0.78m、短径（0.425）m、深さ0.42～0.761mを計る。（遺物）かわらけ2点、古銭6点、人骨が出土している。かわらけは第38図54・55、古銭は第38図72・73・74・75である。人骨は頭蓋骨および大腿骨等が残っており、北枕側臥屈身状態で埋葬されていた。鑑定結果より壮年男性である。遺体の上部に蓋をするように10～30cm大の礫が覆っており、中央がくぼんだ状態で出土しているので、おそらく棺に入れられて埋葬されたと思われる。足の周辺から古銭が出土している。かわらけは土坑の西壁付近から2枚隣接して出土している。（時期）出土したかわらけから中世・16世紀前半と考えられる。（備考）人骨が出土しているので、墓坑である。土坑に蓋をするように10～30cm大の礫が覆っている。一番上に五輪塔の水輪が置かれていた。

18－2号土坑

（位置）X—54グリッド。（重複）18－1号土坑に切られている。（形状）ほぼ長方形である。（規模）長径1.1m、短径0.55m、深さ0.669～0.73mを測る。（遺物）古銭と人骨が出土している。人骨は頭蓋骨が確認できた。北枕側臥屈身状態で埋葬されていた。鑑定結果より壮年前半

男性である。古銭はどれも錆で銭貨名が確認できなかった。(時期)古銭が出土しているので中世と考えられ、18－1号土坑に切られているので、16世紀前半以前であろう。(備考) 人骨が出土しているので墓坑である。18－1号土坑と同じく土坑に20～50㎝大の礫が覆われているが、東側は18－1号土坑によって壊されているため、一部礫が抜き取られている。

19号土坑

(位置) X—53グリッド。(重複) 2号五輪塔集中地点とわずかに重なる。(形状) 不整楕円形を呈する。(規模) 長径0.71m、短径0.49m、深さ0.645～0.81mである。(遺物) 底部付近から古銭が3点 (第38図76・77・78) 出土している。(時期)古銭が出土しているので中世と考えられる。(備考) おそらく墓坑であろう。

22号土坑

(位置)X—54グリッド。(重複)11号土坑と接する。(形状) 楕円形である。(規模) 長径0.63m、短径0.44m、深さ0.404～0.448mである。(遺物)五輪塔の地輪2点が土坑上部に蓋をするように置かれていた。墨書されている文字は判読不明である。(時期)土坑上部であるが、五輪塔を伴うので中世と考えられる。(備考)おそらく墓坑であろう。

火葬墓または火葬施設

8号土坑

(位置) X—53・54グリッド。(重複) なし。(形状) ほぼ円形を呈する。(規模) 長径0.95m、短径0.9m、深さ0.033～0.079mを測る。(遺物)人骨の小片が散在していた。(時期)時期決定できる遺物が出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると中世であろう。(備考) 5～30㎝大の礫が密集している。煤の付着している礫が数点見られ、人骨片が散らばっているので、遺体を焼いた火葬施設と考えられる。

13号土坑

(位置) W—53・54グリッド。(重複) なし。(形状) おそらく円形であろう。(規模)長径(0.69)m、短径(0.61)m、深さ0.05～0.09mである。(遺物) 人骨片・歯と古銭が2点出土している。人骨片は細かく分割されており、部位を特定することはできなかった。(時期)古銭が出土しているので、中世と考えられる。(備考)土坑の堀方は平面では確認することができず、土層断面で確認した。第30図の平面の輪郭は推定である。また、土坑底部の中央部にわずかながら焼土が確認された。人骨片も細かいので、8号土坑と同じように火葬施設であった可能性がある。

1号五輪塔集中出土地点

(位置) W－53・54グリッド。

(重複) 32号土坑と一部重なる。

(形状) 五輪塔の各部がほぼ直線状に2列に並んでいる。

(規模) 長軸1.9m、短軸0.7mを測る。

(遺物) 五輪塔が21点出土している。その内訳は空風輪7点、火輪3点、水輪4点、地輪7点である。第37図43は、1面に中央の梵字と思われる文字の両側に文字が書かれているが判読不明である。

(時期) 五輪塔の形態から16世紀前半以降に集められたと考えられる。

(備考) 五輪塔が土坑の覆土の上部に配置されている事例が数遺跡で確認されているが、本遺跡の五輪塔集中地点は土坑とは一部重なるものの、一致はしない。また、等高線と沿うように並べられている。周辺の墓と考えられる土坑の近くに建立されていた五輪塔が崩れ、その状態が忍びなく思った人たちが、再び五輪塔を集めて並べ直したのではないであろうか。

2号五輪塔集中出土地点

(位置) W－53・X－53グリッド。

(重複) 19号土坑と21号土坑とが一部で重なる。

(形状) 不整な円形を呈する。

(規模) 長軸1.5m短軸0.9mを測る。

(遺物) 五輪塔が16点出土している。その内訳は空風輪3点、火輪6点、水輪6点、地輪1点である。また、第38図56の灰釉陶器の小型端反皿が出土している。釉薬が溜まって少し分かりづらいが、みこみ部に印花文が確認できる。形態及び法量が、瀬戸大窯Ⅰ期の小金山窯出土のものとほぼ同じである(瀬戸市史編纂委員会1981)。小金山窯は15世紀末の操業と考えられているので、五輪塔の時期と合っている。

(時期) 五輪塔の形態から16世紀前半以降に集められたと考えられる。

(備考) 1号五輪塔集中地点と同様に土坑と重ならない点を考慮すると、崩れていた五輪塔を再び集めたと考えられる。そして、灰釉陶器の端反皿にお供えをのせ供養したのであろう。

五輪塔散在地点

(位置) V－53・W－53グリッド。

（重複）２号ピットと一部重なる。
（形状）不定形である。
（規模）長軸2.8ｍ短軸1.8ｍの範囲で五輪塔が散らばっている。
（遺物）五輪塔が９点出土している。その内訳は空風輪３点、火輪５点、水輪１点である。第34図１の空風輪には「妙法」と４面に墨書されている。
（時期）五輪塔の形態から16世紀前半以降と考えられる。
（備考）五輪塔の形態が15世紀後半～16世紀前半にかけてのものが主体であること、五輪塔のセット関係が認められないこと、墓坑と重ならないことなど、１・２号五輪塔集中地点と共通している点が多いので、おそらく１・２号五輪塔集中地点のように集められていたのだが、ここだけ何らかの影響で散らばってしまったと考えられる。

第４節　時期不明遺構

１号竪穴状遺構
（位置）W—47･48、X—48グリッド。（重複）なし。（形状）全体の1/3しか調査できなかったので、形態は不明である。（規模）長径（4.87）ｍ、短径（1.405）ｍ、深さ0.214～0.347ｍである。（遺物）平安時代の土師器片と中世の内耳土器片が数点出土している。（備考）遺構内ピットは（63.5）cm×（30.5）cm×10.2cmである。

１号溝
（位置）V—52、W－52･53グリッド。（重複）なし。（形状）やや弧を描くように曲がっている。（規模）調査した長さ6.6ｍ、幅（北端）1.06ｍ、（中央）1.29ｍ、（南端）0.55ｍ、深さ（北端）0.298ｍ、（中央）0.291ｍ、（南端）0.14ｍである。（遺物）平安時代の土師器片数点と黒曜石の原石が３点出土している。

土坑・ピット
１号土坑
（位置）V—52グリッド。（重複）３号住居跡を切っている。（形状）楕円形と思われる。（規模）長径（0.84）ｍ、短径（0.97）ｍ、深さ0.334～0.926ｍを測る。（遺物）なし。

２号土坑
（位置）V・W—52グリッド。（重複）なし。（形状）ほぼ円形である。（規模）長径1.45ｍ、短径0.94ｍ、深さ0.177～0.234ｍを測る。（遺物）土師器片１点（備考）土師器は流れ込みの可能性がある。

３号土坑
（位置）W—52グリッド。（重複）なし。（形状）円形である。（規模）長径1.325ｍ、短径1.13ｍ、深さ0.34～0.415ｍを測る。（遺物）縄文土器片と黒色土器片の計３点が出土している。（備考）出土遺物から時期決定は難しい。

４号土坑
（位置）W—53・54グリッド。（重複）なし。（形状）不整な楕円形を呈している。（規模）長径1.925ｍ、短径1.125ｍ、深さ0.102～0.161ｍを測る。（遺物）なし。

６号土坑
（位置）X—52グリッド。（重複）なし。（形状）楕円形である。（規模）長径0.685ｍ、短径0.485ｍ、深さ0.215～0.244ｍを測る。（遺物）礫が底部中央に置かれていた。土師器片１点出土。

９号土坑
（位置）X—52グリッド。（重複）なし。（形状）ほぼ楕円形である。（規模）長径0.74ｍ、短径（0.41）ｍ、深さ0.168～0.192ｍを測る。（遺物）礫２点が出土。

10号土坑
（位置）X—52グリッド。（重複）なし。（形状）ほぼ楕円形である。（規模）長径0.56ｍ、短径（0.38）ｍ、深さ0.175～0.183ｍを測る。（遺物）礫が数点出土。

14号土坑
（位置）X—53グリッド。（重複）29号土坑を切っている。（形状）不整な楕円形である。（規模）長径0.94ｍ、短径（0.60）ｍ、深さ0.126～0.244ｍを測る。（遺物）礫が１点出土している。

21号土坑
（位置）W—53グリッド。（重複）なし。（形状）不整な楕円形である。（規模）長径0.87ｍ、短径0.70ｍ、深さ0.197～0.425ｍを測る。（遺物）礫が４点出土している。

30号土坑
（位置）X—53グリッド。（重複）なし。（形状）不整な円形である。（規模）長径0.715ｍ、短径0.695ｍ、深さ0.049～0.183ｍを測る。（遺物）礫が３点出土している。

第４章　遺構・遺物の検討

第１節　縄文時代

縄文時代の遺構は、中期中葉藤内式期の住居跡が２軒発見された。どちらも地床炉で、住居跡の一部が調査区外なのではっきりと分からないが、２号住居跡が６本、３号住居跡が７本の柱穴を持つと思われる。

３号住居跡からは、第８図１の土器が口縁部と底部を重ね合わさった状態で出土している。床面近くからではなく覆土中からの出土であるので、住居廃絶後に置かれたか、あるいはここに土坑が存在していた可能性もある。

調査区の縄文時代遺物の出土状況を見ると（第42図参照）、３号住居跡周辺に多く出土している傾向があるが、平安時代の住居跡である１・５号住居跡からも多く出土している。第２次調査（第１次調査の東側）でも縄文土器が出土しているが遺構は確認されていないので、おそらく調査区の北側に縄文中期の集落が展開しているであろう。時期は狢沢式・新道式が少量で、ほとんどが藤内式であるので、調査区付近では、中期中葉の藤内式期を中心とした比較的短期間かつ小規模に営まれた集落であると考えられる。

石器は、打製石斧・横刃形石器・磨石・石皿といった大型の石器は発見されているが、石鏃や石匙といった小型の石器は発見されなかった。調査区に限りがあり、今回の調査区ではたまたま発見されなかっただけであろうが、中期中葉では打製石斧が石器組成の８～９割近く占める場合が多く、小型石器が少なくてもおかしくはない。黒曜石の原石や黒曜石片は出土しているので小型石器がないとは考えられないが、大型の石器よりは数多く製作していなかったのであろう。

第２節　平安時代

発見された住居跡は３軒であり、幅約10ｍという道路予定地の調査区なので、住居跡の全部を調査できたのは５号住居跡だけである。住居跡の時期は、甲斐型土器編年でⅧ～Ⅸ期に４号住居跡、Ⅹ期に５号住居跡、Ⅺ～Ⅻ期に１号住居跡がそれぞれ当てはまる。第２次調査と合わせると、Ⅸ期に１次４号住、２次１・８号住の３軒、Ⅹ期に１次５号住、２次３・６号住、小鍛冶遺構の４軒、Ⅺ期に１次１号住、２次２・４・５号住の４軒と変遷していく。（１次４号住はⅧ～Ⅸ期であるが、２次１・８号住と重なる時期があるので、便宜上Ⅸ期としておく。）

Ⅹ期の１次５号住居跡から黒笹90号窯式（以下Ｋ90）の灰釉陶器高台付坏（48）が出土しているが、２次調査ではⅪ期の４・５号住居跡からＫ90段階の灰釉陶器が出土しており、時期的にズレが生じている。１次５号住の48は住居覆土の上層から出土いているので、住居埋没後流れ込んだ可能性もある。

１次と２次を合わせた調査区における集落の位置はほとんど変化せず、調査区中央から西側にかけて展開している。軒数も激しく増減しておらず、出現から消滅までの間、比較的安定した集落が営まれていたと考えられる。八ヶ岳南麓の平安時代遺跡は９世紀後半になり集落が急増し、10世紀後半に衰退していくが、本遺跡も同じような傾向がある。

第３節　中　　世

調査区の西端において、中世の墓坑群が発見され、五輪塔・かわらけ・灰釉陶器小型端反皿・古銭等が出土した。各遺物の時期は、五輪塔は15世紀～16世紀前半で、18－１号土坑から出土したかわらけは16世紀前半、２号五輪塔集中地点から出土した灰釉陶器小型端反皿は15世紀末であろう。おそらく墓坑群は、五輪塔の時期である15世紀～16世紀前半に作られたのだろう。

五輪塔は全部で53点出土している。五輪塔集中地点が２箇所、散在地点が１箇所で、五輪塔の内訳は、空風輪が15点、火輪が15点、水輪が12点、地輪が11点である。五輪塔の形態は櫛原氏の分類（櫛原2000）でいうと空風輪はＣ・Ｄ類が、火輪はＤ・Ｅ類が、水輪はＢ・Ｃ類が、地輪はＢ・Ｃ類がそれぞれ多い。この組み合わせは15世紀～16世紀前半に多いようである。

墓坑の形態を見ると以下の４つに分類できる。

Ａ．隅丸長方形で礫の覆いないもの（7・15号土坑）

Ｂ．隅丸長方形で礫の覆いがあるもの（16・18－１・18－２号土坑）

Ｃ．小さな円形で礫の覆いがないもの（11・12－１・19号土坑）

Ｄ．小さな円形で礫の覆いがあるもの（17･22号土坑）

Ａ・Ｂ類は15世紀から17世紀にかけて多く作られるようであり（野代2000ｂ）、16世紀前半と考えられる18－１号土坑の時期と重なる。また、７・15・18－１・18－２号土坑から出土した人骨は、全て壮年期（20～30才台）である。そして、Ａ類の15号土坑は女性の、Ｂ類の18－１・18－２号土坑は男性の人骨である。資料数が１・２例と少なく断定はできないが、Ａ類が成人女性用の、Ｂ類が成人男性用の埋葬形態である可能性もある。

Ｃ・Ｄ類の小さな円形のものは、長軸が50～60㎝で桶を入れるほど大きくはなく、18～19世紀に多い桶を入れたと考えられる円形の墓坑とは一線を画すものであろう。11号土坑から歯が出土しているのみで、他の土坑からは

人骨や歯が出土していないが、古銭や五輪塔が出土しているので墓坑と考えてもいいであろう。その11号土坑の歯は小児（10才前後）のものであることから、C・D類は小児用で、A・B類の違いが妥当であるならば、C類が女児用、D類が男児用の埋葬形態の可能性がある。

第2次調査で発見された方形竪穴状遺構は14世紀末～15世紀代である(宮澤2000)。方形竪穴状遺構の密集する範囲のすぐ西側に区画の溝があり、約60mの空白地帯を挟み墓坑群が台地縁辺に作られている。墓坑群は15世紀に出現していたと考えられるので、14世紀末に方形竪穴状遺構が台地の中央に作られ、やや遅れて西側の台地縁辺に墓域を作っていったのであろう。溝で区画された方形竪穴状遺構は屋敷跡と考えられ、墓坑群はそこや周辺に住まう人々の墓域であると考えられる。造墓階層は武士や僧侶などが当てはまるが、18－1・18－2号土坑から出土した人骨の鑑定結果から、埋葬された人は僧侶と考えられる(附編参照)。それをもって屋敷跡が寺院の一部であるとは言えないが、少なくとも遺跡内及び周辺に寺院跡が存在している可能性がある。遺跡の所在する長坂下条地区は、時期は不明であるが三井氏館跡・相吉氏屋敷・上松（植松）氏屋敷等の屋敷跡が多く存在するので、15世紀代からこの周辺に寺院を伴う集落があってもおかしくはないであろう。

第4節　まとめ

今回の調査では縄文中期中葉の集落、平安時代の集落、中世の墓地が発見された。第2次調査の成果と合わせると、平安時代の集落の変遷、中世の集落の構造等が見えつつある。また、県道を挟んで東側にある龍角西遺跡の調査も合わせると平安時代・中世の集落の様相が、一段と見えてくるであろう。

引用・参考文献

大山　柏・竹下次作・井出佐重　1941「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13－3　史前学会

瀬戸市史編纂委員会　1981『瀬戸市史』陶磁史篇二　第一法規出版株式会社

宮沢公雄　1986『清水端遺跡』明野村教育委員会

萩原三雄　1986「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」『山梨考古学論集Ⅰ』山梨県考古学協会

長坂町誌編纂委員会　1990『長坂町誌』上巻　長坂町

岡本範之　1990「平安期における甲斐国巨麻郡の動向」『山梨県考古学協会誌』第3号　山梨県考古学協会

平野　修・櫛原功一　1992『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会

甲斐型土器研究グループ　1992『甲斐型土器　－その編年と年代－』山梨県考古学協会

森原明廣　1992『塩川遺跡』山梨県教育委員会

山本茂樹・野代幸和　1994『甲ッ原遺跡（第5次）Ⅰ』山梨県教育委員会

永井久美男編　1994『中世の出土銭　－出土銭の調査と分類－』兵庫埋蔵銭調査会

永井久美男編　1996『中世の出土銭 補遺Ⅰ』兵庫埋蔵銭調査会

石神孝子　1996『唐松遺跡』山梨県教育委員会

小宮山隆　1996『北村遺跡』長坂町教育委員会

小宮山隆　1997『小屋敷遺跡』長坂町教育委員会

櫛原功一　1997『社口遺跡第3次調査報告書』高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団

野代幸和　1997『酒呑場遺跡（第1・2次)』(遺構編)　山梨県教育委員会

保坂康夫　1997『酒呑場遺跡(第3次)』(遺構編－前編)　山梨県教育委員会

保坂康夫　1998『酒呑場遺跡(第3次)』(遺構編－後編)　山梨県教育委員会

山梨県考古学協会編　1998『新版　山梨の遺跡』山梨県日日新聞社

平野　修・櫛原功一　1999『上ノ原遺跡』上ノ原遺跡発掘調査団

山梨県　1999『山梨県史』資料編2　原始・古代2　考古（遺構・遺物）　山梨日日新聞社

宮澤公雄　2000『紺屋遺跡　－第2次発掘調査報告書－』紺屋遺跡発掘調査団

野代幸和　2000a『横森赤台（東下）遺跡』山梨県教育委員会

野代幸和　2000b「山梨県における中近世墓制の変遷」『山梨県考古学協会誌』第11号　山梨県考古学協会

野代幸和　2000c「横森赤台（東下）遺跡出土五輪塔の形態と製作年代について」『研究紀要』16　山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター

櫛原功一　2000『石之坪遺跡（東地区)』韮崎市教育委員会　石之坪遺跡発掘調査会

齋藤孝正　2000「附論　猿投窯出土の灰釉・緑釉陶器碗・皿類の変遷」『越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器』日本の美術　No.409　至文堂

附編　紺屋遺跡出土人骨

国立科学博物館人類研究部　梶ヶ山眞里

1．緒　　言

紺屋遺跡は、山梨県北巨摩郡長坂町長坂下条字紺屋に所在し、平成10年12月から翌年３月にかけて、長坂町教育委員会によって発掘された。発掘調査の結果、平安時代の住居址や溝や土坑等が発見された。人骨は、中世の土坑７基と縄文時代中期の住居址（３号住）から出土した。13号土坑からは焼骨が検出され、16号土坑はいわゆる「Ｔ字型土坑」である。18号土坑から出土した人骨は、頭部を北に向けた側臥屈葬状態で２体が埋葬されている。人骨の保存状態はさほど良好ではないが、頭部と下肢骨が部分的に保存される。それ以外の土坑からの人骨はほとんどが骨片であり、保存状態が極めて不良である。歯が残っているものに関しては歯冠計測を行った。

2．出土人骨所見

７号土坑

歯は６点保存されている。以下の歯式の通りである。

6	5 6 7
7 6	

咬耗の程度は、象牙質が線状に露出している。従って、ブロカのIIに相当し、年齢は壮年前半と思われる。性別は不明である。

８号土坑

焼骨が保存されている。骨はいずれも完全に灰化し、灰白色を呈するほど良く焼かれ、大多数は小さな破片となり、収縮・変形・亀裂が著しい。したがって、これらの骨は、おおよそ900℃以上の温度で長時間焼かれたと考えられる。また、晒された状態ではなく、軟部が付着した状態で焼かれたと推定される。

11号土坑

乳歯と永久歯が19点保存される。保存状態は以下の通りである。

	5
7 6 v　　1	3 4 v 6 7
7 6 v 4　　1	1　　4 5 6

ローマ数字は乳歯

カリエスなどは認められない。歯の萌出状態から、年齢は10才程度と思われる。エナメル形成不全が、第１大臼歯と切歯の歯冠のほぼ中央部に全て認められることから、幼児期において極度の栄養失調状態であったと思われる。性別に関しては不明である。

13号土坑

歯が２点と焼骨が数点保存され、以下の歯式の通りである。

	6
6	

咬耗の程度は、エナメル質は磨り減っているが、象牙質の露出はない。したがって、年齢は比較的若い青年と思われる。焼骨は紛れ込みと思われる。

15号土坑

歯が17点と大腿骨骨体片が保存される。歯の保存状態は以下の歯式の通りである。

6 5	5 6 7
7 6 5 4 3 2 1	1　　4 5 6 7

咬耗程度は、象牙質が露出している。ブロカのIIに相当する。下顎切歯の磨耗が舌側から唇側に斜めに磨り減っていることから鋏状咬合であったことがわかる。大腿骨の左右は不明である。骨体の太さは細い。後面の粗線は隆起せず、発達は弱い。従って、この個体の性別は女性、年齢は壮年と推定される。

16号土坑

骨粉しか残っていない。年齢や性別は不明。

18－１・18－２号土坑

頭を北に向けた側臥屈葬人骨が２体並列で出土している。合葬ではなく、西側人骨が東側人骨より先に埋葬されている。

18－１号土坑（東側人骨）

頭蓋と椎骨、左大腿骨、左脛骨が保存される。頭蓋では、側頭骨錐体は大きく、乳様突起は良好に下垂している。乳突上稜の発達が良好である。側頭線は破損のため不明であるが、乳突上稜の発達が顕著であるので、咀嚼筋の発達は良好であった可能性が高い。後頭骨に外後頭隆起はないが、項平面は広く筋肉の発達が伺える。左大腿骨は骨体中央部が10cmほど保存される。骨体は部分的に腐食しているが、かろうじて骨体周（周82）は計測できた。江戸時代男性平均値（周87）よりやや小さく、現代男性平均値（周83）に近い。骨体後面粗線は隆起しているが、付柱を形成するほどではない。骨体後面の粗線は比較的明瞭に発達している。左脛骨骨体片が10cmほど保存され、骨体の内側面の腐食が進んでいる。椎骨は、軸椎と環椎が残っている。骨体に骨棘などの経年性の変

化はない。したがって、この個体の歯は残っていないが壮年期と思われる。性別は、乳様突起などの形態から男性と思われる。

18－2号土坑（西側人骨）

頭蓋と骨片が保存される。頭蓋は、前頭骨の一部と左右錐体、ラムダ縫合骨で分離した後頭骨が保存される。縫合の癒合状態は、内板において閉鎖はないが、外板では一部に閉鎖が始まっている。また、左右に縫合骨がある。頭頂骨が保存されていないが、全体的に後頭部が突出するいわゆる「後頭髷突出」の状態である。左右錐体は概ね大きく、頑丈な印象である。したがって、男性の可能性が高い。

歯の保存状態は以下の歯式の通りである。

3 2 1	2 3　　6 7
5	1 2 3 4 5

咬耗は、象牙質がやや露出しているのでブロカのIIに相当する。壮年前半と推定される。

3．考察・結語

当遺跡から出土した人骨は以下の表に示す通りである。

土坑墓番号	性　別	年　齢
7号土坑	不　明	壮年前半
8号土坑	不　明	成　人
11号土坑	不　明	小児（10才前後）
13号土坑	不　明	青　年
15号土坑	女　性	壮　年
16号土坑	不　明	不　明
18－1号土坑(東)	男　性	壮　年
18－2号土坑(西)	男　性	壮年前半

年齢および性別が同定できたのは、18号土坑から出土した2体だけであった。2体とも壮年期(20才～30才台)の男性である。頭蓋が完全に保存されていないので、頭蓋形が中世時代の特徴といわれる長頭であるか否かは不明である。しかし、大腿骨は付柱を形成しておらず、古墳時代以降の大腿骨の特徴を示している。歯については、計測値の特徴を視覚的に把握するため、現代日本人を基準とする同時代の各遺跡出土歯と当遺跡出土歯の偏差折線を示した(グラフ1)。当遺跡出土歯のデータが少ないが、明らかに同時代の千葉県前畑遺跡や千葉県北大路遺跡と類似していることが伺える。したがって、当遺跡出土の人骨は、歯や人骨の形態から古墳時代人以降の特徴をもち、中世時代の人骨として特に矛盾がないといえる。

また、四肢骨の発達が弱いが、咀嚼筋や頸部の筋肉の発達は良好であり、男性の特徴を示す。埋葬の際に五輪塔などが使用されていることなどを考慮すると、被葬者は筋肉の良好に発達した武士ではなく、僧侶などであった可能性が考えられる。従って、18号土坑出土の人骨に限っては、周辺の住居址にともなう庶民の墓であるとは考え難い。

甲府盆地を中心とした周辺地域から人骨が検出される例は少数で、集団としての傾向を示すには至らなかった。しかし、今回数点の歯の計測値ではあったが、同時代の関東地域の集団と類似した傾向を伺えた。今後、人骨の検出を伴う発掘例の増加に期待したい。

一般に、墓地などを発掘する場合、骨片しか検出されないと、発掘時やその後の過程で簡略的に取り扱われることが多い。埋葬の変遷を考察するうえでも、人骨の基礎データを得る上でも貴重な資料となるために、わずかな人骨の検出でも、慎重な取り扱いと詳細な整理報告が望まれる。

参考文献

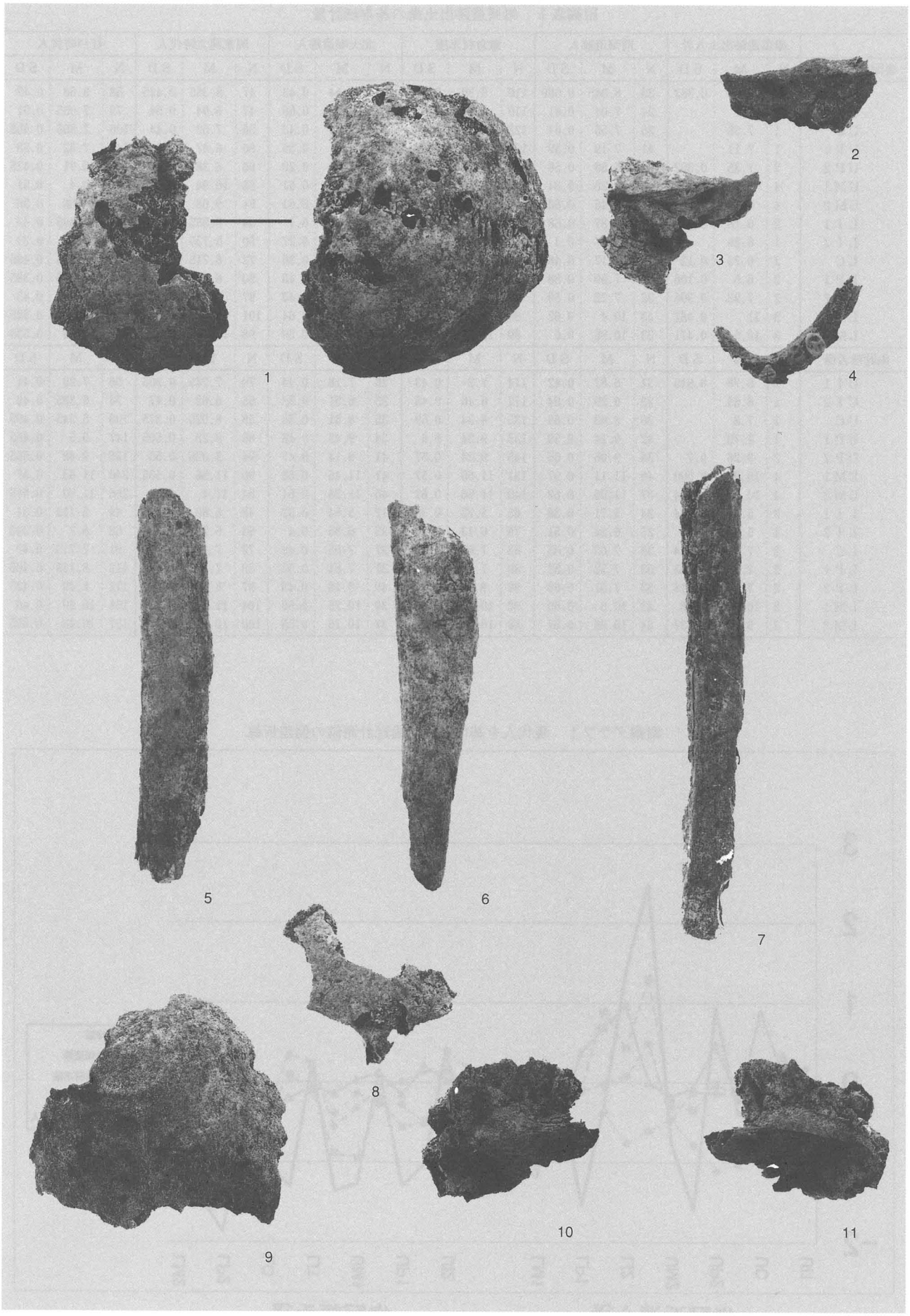
松村博文　1995　A Microevolutional History of the Japanese People as Viewed from Dental Morphology. National Science Museum Monographs No.9

溝口優司　1996　北大堀遺跡出土人骨について「一般国道296号国道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書1」財団法人千葉県文化財センター

梶ヶ山眞里　2000　前畑遺跡出土人骨について　財団法人千葉県文化財センター（印刷中）

図版1　紺屋遺跡出土人骨

1：18－2号土坑　後頭骨
2：　〃　右錐体
3：　〃　左錐体
4：　〃　下顎骨
5：18－1号土坑　大腿骨
6：　〃　左脛骨
7：15号土坑　大腿骨
8：18－1号土坑　前頭骨
9：　〃　後頭骨
10：　〃　左錐体
11：　〃　右錐体

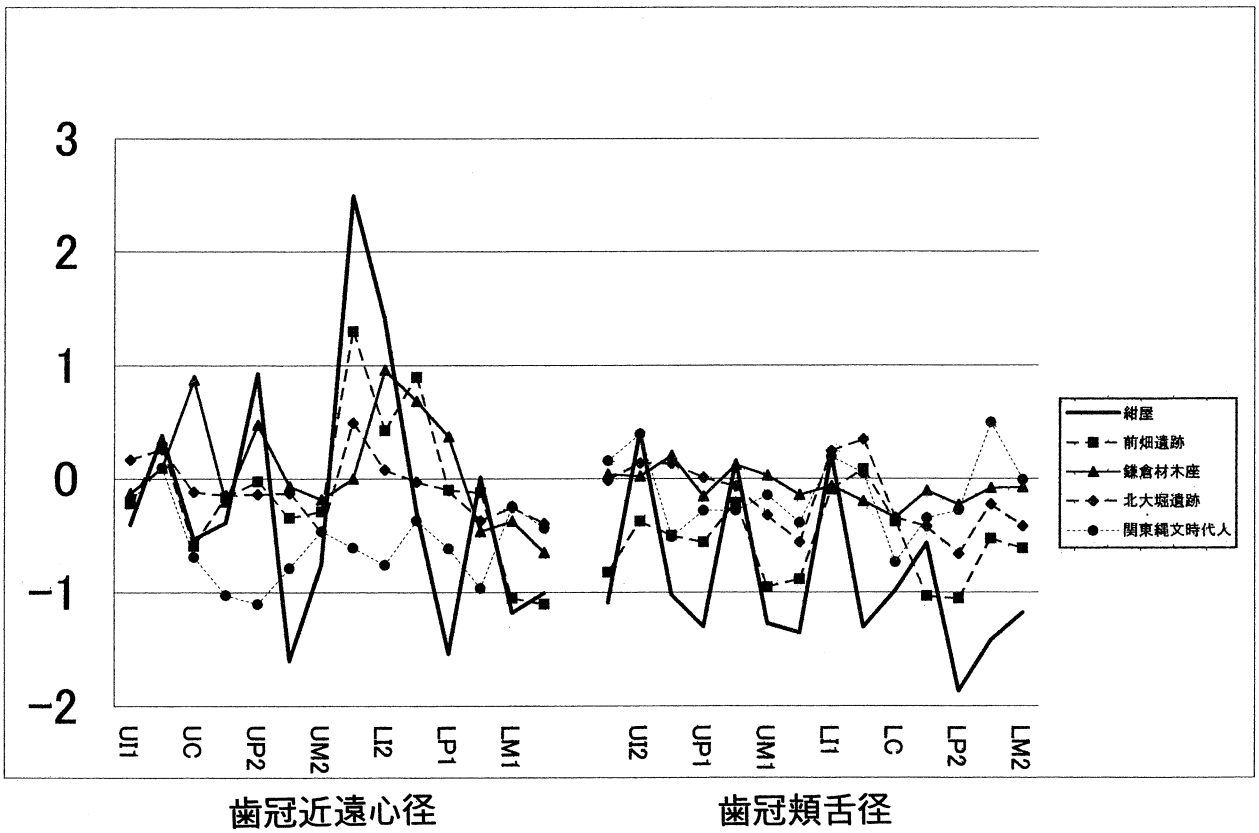


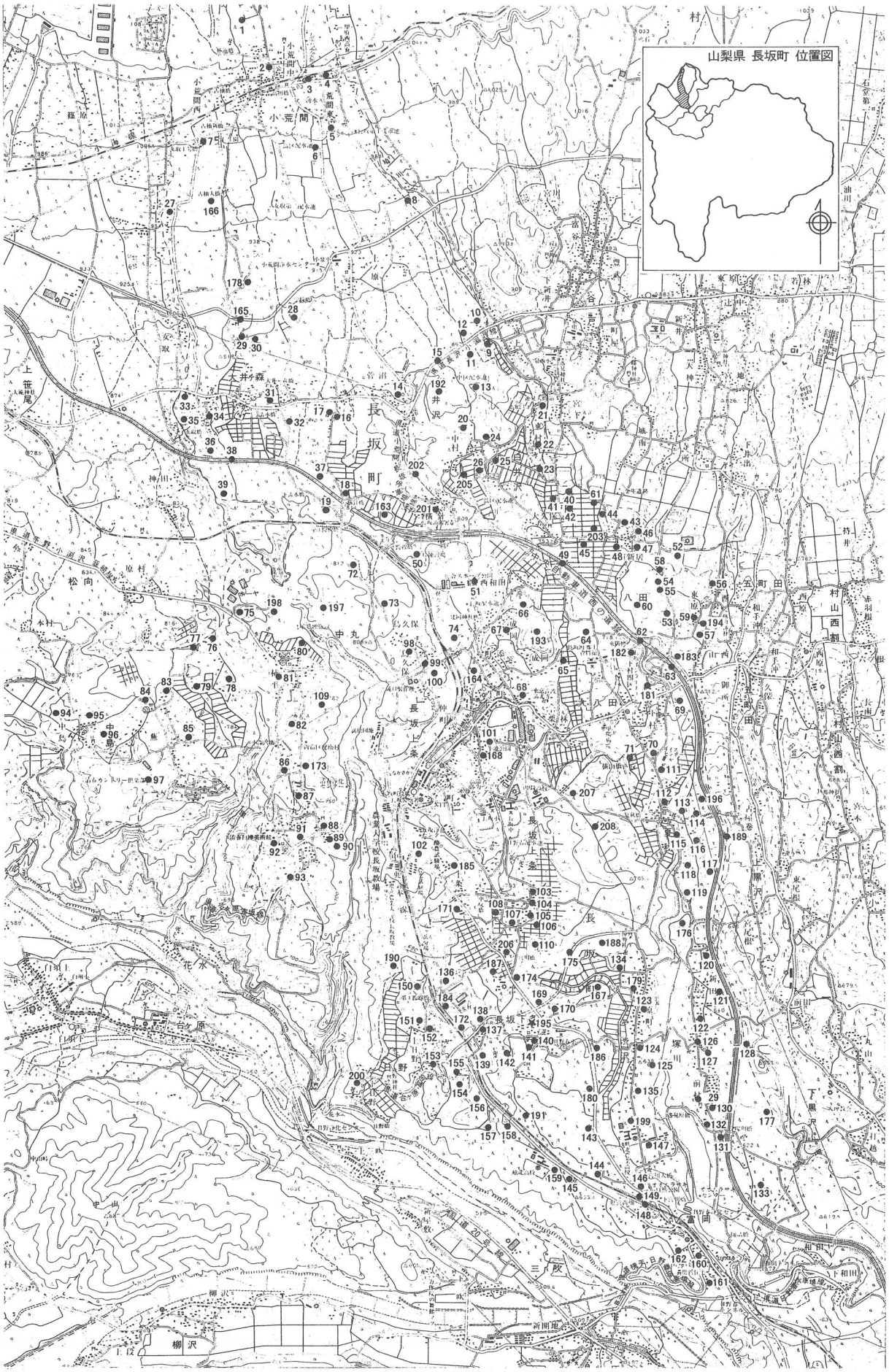
附編図版１　紺屋遺跡出土人骨

附編表１　紺屋遺跡出土歯の基本統計量

	紺屋遺跡出土人骨			前畑遺跡人			鎌倉材木座			北大堀遺跡人			関東縄文時代人			江戸時代人		
歯冠近遠心径	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
UI1	2	8.25	0.382	35	8.345	0.589	110	8.39	0.47	24	8.54	0.43	47	8.355	0.425	58	8.58	0.49
UI2	1	7.1		24	7.04	0.61	110	6.94	0.55	22	7.03	0.58	47	6.94	0.54	75	7.065	0.51
UC	1	7.58		36	7.56	0.64	123	8.12	0.46	36	7.74	0.43	56	7.52	0.44	106	7.805	0.405
UP1	1	7.11		41	7.19	0.59	133	7.18	0.39	34	7.2	0.35	86	6.87	0.41	148	7.32	0.38
UP2	2	7.35	0.332	39	6.89	0.56	139	7.13	0.4	37	6.84	0.29	96	6.38	0.415	156	6.91	0.425
UM1	4	9.62	0.444	45	10.26	0.84	133	10.41	0.53	29	10.38	0.61	98	10.04	0.495	242	10.4	0.51
UM2	4	9.23	0.265	37	9.46	0.63	143	9.51	0.53	41	9.37	0.61	84	9.08	0.53	206	9.68	0.56
LI1	2	6.18	0.346	22	5.87	0.68	81	5.42	0.32	12	5.57	0.1	34	5.235	0.355	49	5.385	0.42
LI2	1	6.26		25	6.17	0.4	68	6.38	0.375	17	6.05	0.27	50	5.735	0.35	64	6.03	0.39
LC	2	6.75	0.12	33	7.17	0.46	79	7.1	0.45	36	6.84	0.36	72	6.715	0.425	94	6.875	0.405
LP1	2	6.5	0.106	36	7.09	0.38	86	7.27	0.36	32	7.08	0.43	90	6.82	0.385	101	7.185	0.385
LP2	2	7.28	0.396	32	7.22	0.59	90	7.08	0.38	40	7.12	0.43	97	6.87	0.47	102	7.285	0.43
LM1	3	11	0.481	43	10.4	0.62	88	11.36	0.49	27	11.42	0.64	101	11.43	0.47	148	11.43	0.525
LM2	3	10.5	0.471	33	10.95	0.6	89	10.67	0.58	30	10.82	0.59	98	10.8	0.59	132	11.09	0.525
歯冠類舌径	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
UI1	2	6.78	0.615	31	6.87	0.42	114	7.2	0.43	28	7.18	0.44	70	7.245	0.355	56	7.29	0.41
UI2	1	6.63		23	6.29	0.64	112	6.46	0.45	23	6.51	0.53	58	6.62	0.47	74	6.535	0.42
UC	1	7.8		36	8.03	0.65	135	8.34	0.59	35	8.31	0.58	58	8.025	0.375	108	8.345	0.495
UP1	1	8.79		42	9.14	0.59	133	9.34	0.6	34	9.42	0.48	85	9.28	0.505	147	9.5	0.485
UP2	2	9.26	0.7	36	9.06	0.65	145	9.24	0.57	41	9.14	0.47	94	9.025	0.55	155	9.42	0.505
UM1	4	10.9	0.509	40	11.11	0.97	131	11.65	0.57	41	11.46	0.52	96	11.56	0.535	240	11.63	0.57
UM2	4	10.7	0.234	37	11.06	0.62	140	11.56	0.62	45	11.28	0.61	84	11.4	0.61	206	11.76	0.685
LI1	2	5.83	0.134	24	5.71	0.38	65	5.72	0.38	17	5.84	0.32	48	5.82	0.31	49	5.715	0.34
LI2	1	5.68		25	6.24	0.51	76	6.13	0.35	22	6.35	0.4	63	6.23	0.365	63	6.2	0.345
LC	2	7.4	0.084	35	7.63	0.53	83	7.65	0.53	37	7.65	0.49	72	7.495	0.39	91	7.715	0.49
LP1	2	7.74	0.183	33	7.52	0.52	89	7.96	0.95	37	7.81	0.52	89	7.845	0.46	112	8.115	0.465
LP2	2	7.66	1.116	33	7.51	0.63	92	8.34	0.47	40	8.16	0.43	97	8.32	0.47	112	8.49	0.435
LM1	3	10.2	0.68	42	10.6	0.66	92	10.82	0.46	39	10.75	0.56	104	11.1	0.45	151	10.89	0.46
LM2	3	9.76	0.537	34	10.06	0.57	88	10.34	0.55	37	10.16	0.55	100	10.38	0.485	137	10.48	0.555

附編グラフ１　現代人を基準とした歯冠計測値の偏差折線



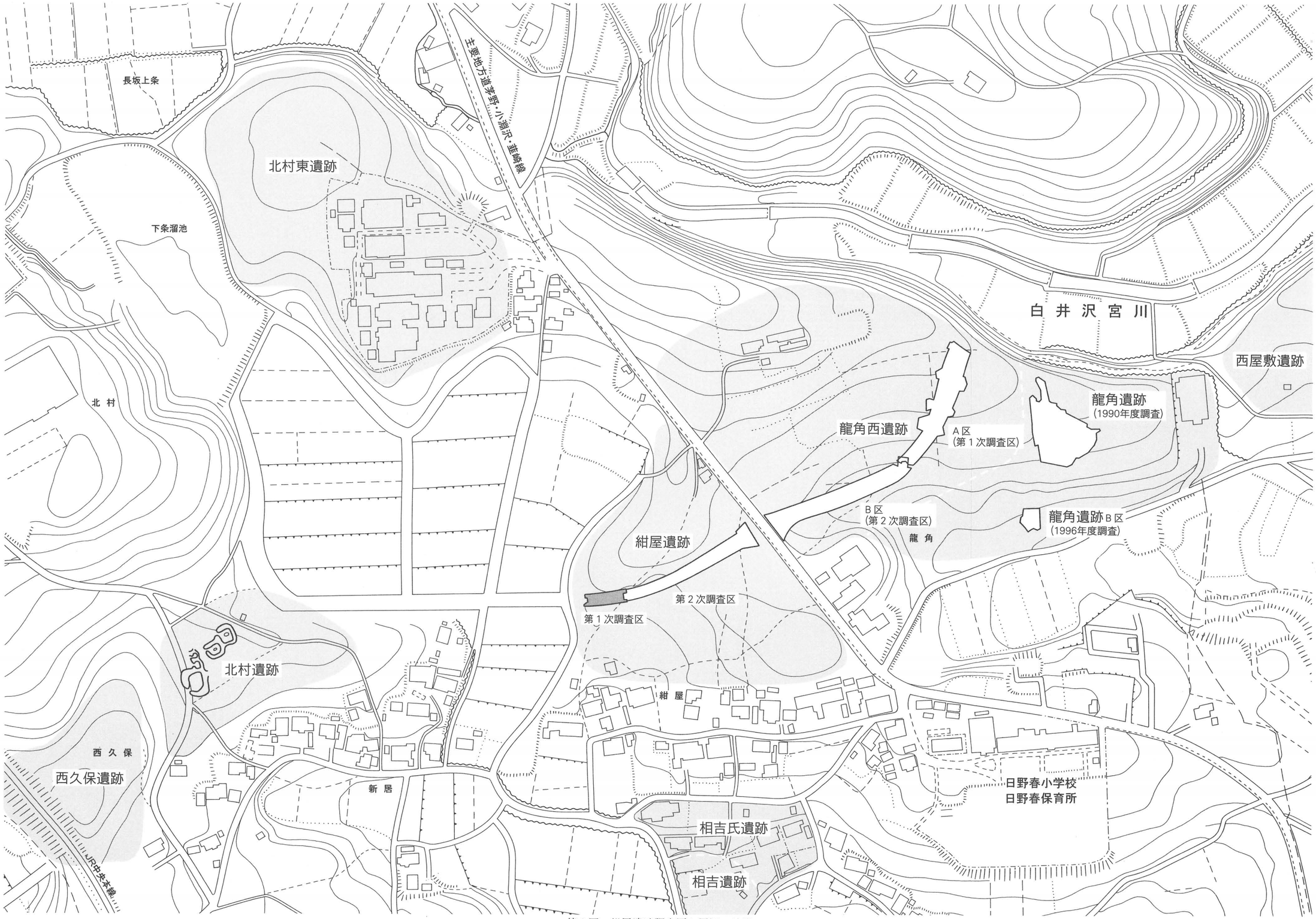


第１図　長坂町遺跡分布図

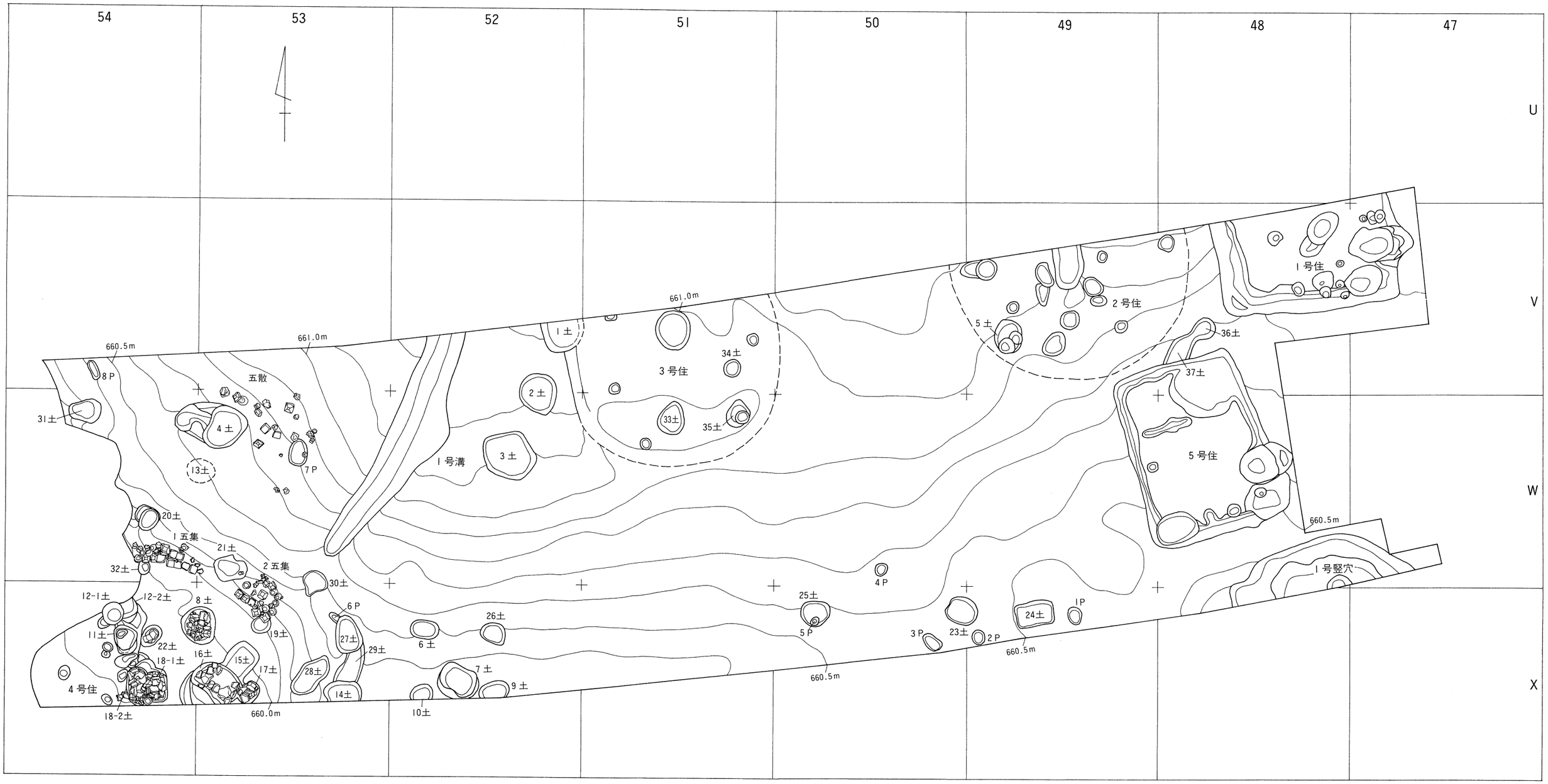
第１表　長坂町遺跡分布一覧

（旧石＝旧石器時代　縄＝縄文時代　弥＝弥生時代　古＝古墳時代　平＝平安時代　中＝中世　戦国＝戦国時代　江戸＝江戸時代）

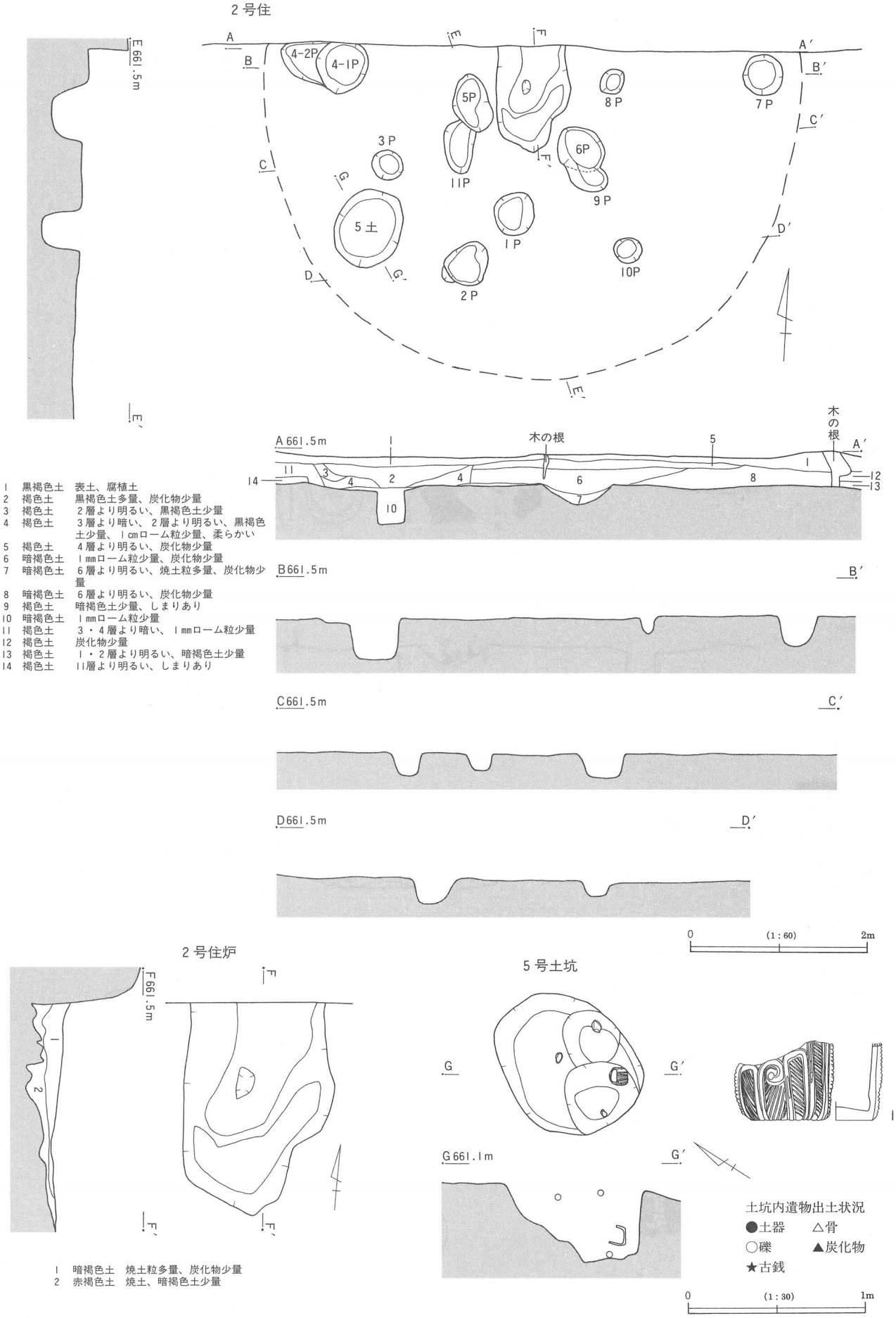
001	耳塚	
002	法性寺前遺跡	縄　中
003	信玄原遺跡	縄
004	小荒間古戦場跡	戦国
005	桜畑遺跡	平　江戸
006	小泉遺跡	江戸
007	菅間遺跡	縄
008	桜畑南遺跡	縄
009	糀屋敷東遺跡	縄
010	糀屋敷北遺跡	縄
011	糀屋敷遺跡	縄
012	牛久保遺跡	縄　弥
013	牛久保南遺跡	縄
014	沢入遺跡 菅沼氏館址	縄
015	苧干平遺跡	縄
016	東下屋敷遺跡	縄
017	西下屋敷遺跡	縄　中
018	新田森遺跡	縄
019	西下屋敷南遺跡	縄
020	横手遺跡	縄　中
021	神之原遺跡	縄
022	屋敷附遺跡	縄　中
023	内城遺跡	縄
024	十郎林遺跡	縄　中
025	阿原遺跡	平
026	中尾根遺跡	縄
027	手白尾遺跡	縄
028	夫婦岩遺跡	縄
029	横山１遺跡	縄
030	横山2遺跡	縄
031	横山平南遺跡	縄
032	葛原北遺跡	縄
033	上フノリ平北遺跡	縄
034	上フノリ平遺跡	縄
035	上フノリ平西遺跡	縄
036	下フノリ平北遺跡	縄
037	葛原遺跡	縄　弥
038	下フノリ平遺跡	縄
039	下フノリ平南遺跡	平
040	別当遺跡	縄
041	別当西遺跡	縄
042	別当十三塚	中
043	南新居北遺跡	縄　平　中
044	深草館址	戦国
045	小和田遺跡	縄　平　中
046	南新居屋敷址	平　中
047	南新居遺跡	平
048	南新居西遺跡	平
049	小和田館址	平　戦国　江戸
050	米山遺跡	縄　弥
051	米山東遺跡	縄
052	塚田遺跡	古　平
053	窪田遺跡	縄　古　平
054	弥右衛門塚１	古？
055	弥右衛門塚２	古？
056	渋田北遺跡	平
057	渋田遺跡	弥　平　中
058	東原の土塁	中
059	東原遺跡	中
060	柳新居遺跡	縄　古　平
061	原田遺跡	縄　平
062	柳坪Ａ遺跡	縄　弥　古　平
063	柳坪Ｂ遺跡	縄　弥　古　平
064	小屋敷遺跡	縄　平　中
065	久保地遺跡	縄
066	成岡遺跡	縄　弥　平　中
067	成岡新田遺跡	弥　平　中
068	曲田遺跡	縄　平
069	石原田北遺跡	縄　平　中
070	石原田南遺跡	縄　平
071	塚原遺跡	縄
072	越中久保遺跡	縄　平　中　江戸
073	久保遺跡	縄
074	房屋敷遺跡	縄　江戸
075	池ノ平遺跡	縄
076	東蕪３遺跡	平
077	東蕪２遺跡	縄　平
078	東蕪４遺跡	縄　平
079	東蕪1遺跡	縄　平
080	和手山東遺跡	中
081	小尾平遺跡	旧石　縄　中
082	間の原遺跡	縄
083	西蕪東遺跡	平
084	西蕪遺跡	縄
085	西蕪南遺跡	縄　平
086	和手遺跡	縄　平
087	腰巻遺跡	縄
088	城山上北遺跡	縄　平　中　江戸
089	城山上遺跡	縄　中
090	中丸砦址	戦国
091	居久保遺跡	縄　平
092	清春白樺美術館南遺跡	縄
093	細久保遺跡	縄
094	後平遺跡	縄　平
095	狐平北遺跡	縄　平
096	狐平遺跡	縄　平
097	大平遺跡	縄　平
098	下鳥久保遺跡	縄
099	鳥久保遺跡	縄　江戸
100	高松遺跡	縄
101	上町遺跡	縄　奈
102	酒呑場遺跡	縄　古　平　江戸
103	東村Ａ遺跡	縄　奈　平　中　江戸
104	東村Ｂ遺跡	古　平　中　江戸
105	中村遺跡	古　平　中　江戸
106	錨田遺跡	平
107	西村遺跡	古　平　中　江戸
108	中反遺跡	縄　平
109	柿平・藤塚	
110	長坂氏屋敷址	古　平　中
111	白山神社前遺跡	縄　平
112	上ノ屋敷遺跡	縄　平　中　江戸
113	大々神十三塚	中
114	大々神Ａ遺跡	平
115	大々神Ｂ遺跡	古　平
116	治郎田遺跡	古　平
117	頭無Ａ遺跡	平
118	樫木遺跡	弥　古
119	塚川・柳坪遺跡	縄　江戸
120	頭無遺跡	縄
121	新田遺跡	縄
122	塚之越遺跡	縄　平
123	原町北遺跡	古　平
124	原町遺跡	江戸
125	上久通北遺跡	縄　平
126	塚川の土塁	中　戦国
127	下村遺跡	縄　平　中
128	塚川十三塚群	中
129	宮久保遺跡	縄
130	下村南遺跡	縄
131	泥里西遺跡	縄　平
132	勝見遺跡	縄　平
133	競馬場遺跡	縄　平
134	寺前遺跡	縄　平　中
135	上久通遺跡	縄
136	反田遺跡	縄　平　中
137	三井氏屋敷址	中　江戸
138	北村遺跡	縄　古　平
139	新居遺跡	縄　平安　中世
140	相吉氏屋敷址	中
141	相吉遺跡	奈　平
142	植松氏屋敷址	中
143	下屋敷遺跡	縄
144	清水頭遺跡	縄　古　奈　平
145	向原遺跡	平
146	三ツ墓古墳２	古
147	農業高校前遺跡	縄
148	三ツ墓古墳３	古
149	三ツ墓古墳１	古
150	池ノ平昭和堤北遺跡	縄
151	池ノ平Ａ遺跡	縄　奈　平
152	向井丹下屋敷址	中
153	池ノ平Ｂ遺跡	縄
154	上日野遺跡	縄　江戸
155	田中氏屋敷址	中
156	上日野Ａ遺跡	縄　平
157	上日野Ｂ遺跡	縄　平
158	上日野Ｃ遺跡	縄　平
159	姥久保遺跡	古　江戸
160	日野原遺跡	中　江戸
161	上日野原遺跡	縄　平　中　江戸
162	富岡遺跡	江戸
163	横針・中山遺跡	中
164	大林遺跡	縄　平　江戸
165	中込遺跡	縄
166	手白尾東遺跡	縄
167	西屋敷遺跡	古
168	上町南遺跡	縄
169	龍角西遺跡	縄　弥　古　平　中　近代
170	龍角遺跡	縄　古　平　中
171	長坂上条遺跡	縄　弥　平
172	西久保遺跡	縄
173	新宿区健康村遺跡	縄　平　中　江戸
174	長坂下条・藤塚	
175	和田遺跡	弥　古
176	古屋敷遺跡	縄
177	泥里遺跡	縄
178	中込北遺跡	縄
179	渋沢・上町遺跡	縄
180	下屋敷北遺跡	縄　平
181	柳坪南遺跡	平
182	柳坪北遺跡	縄　弥　平　中
183	境原遺跡	縄　弥　平
184	北村北遺跡	縄　平
185	酒呑場東遺跡	縄　弥　平
186	山本遺跡	縄
187	北村東遺跡	縄　古
188	大久保遺跡	縄　中
189	天王塚古墳	古
190	池之平北遺跡	縄　平
191	清水頭北遺跡	縄　平
192	苧干平の土塁	
193	成岡・藤塚	
194	馬越場塚	中
★195	**紺屋遺跡**	**縄　平　中**
196	治郎田北遺跡	平
197	竹原遺跡	縄　中　江戸
198	天白砦址	中　戦国
199	下原遺跡	縄
200	下日野遺跡	縄
201	横針・前久保遺跡	旧石　縄
202	横針・宮久保遺跡	縄　平
203	深草遺跡	平
204	上の棒道	戦国　江戸
205	中田遺跡	縄
206	長坂上条・藤塚遺跡	古　平
207	池之窪遺跡	縄　平
208	段道遺跡	縄



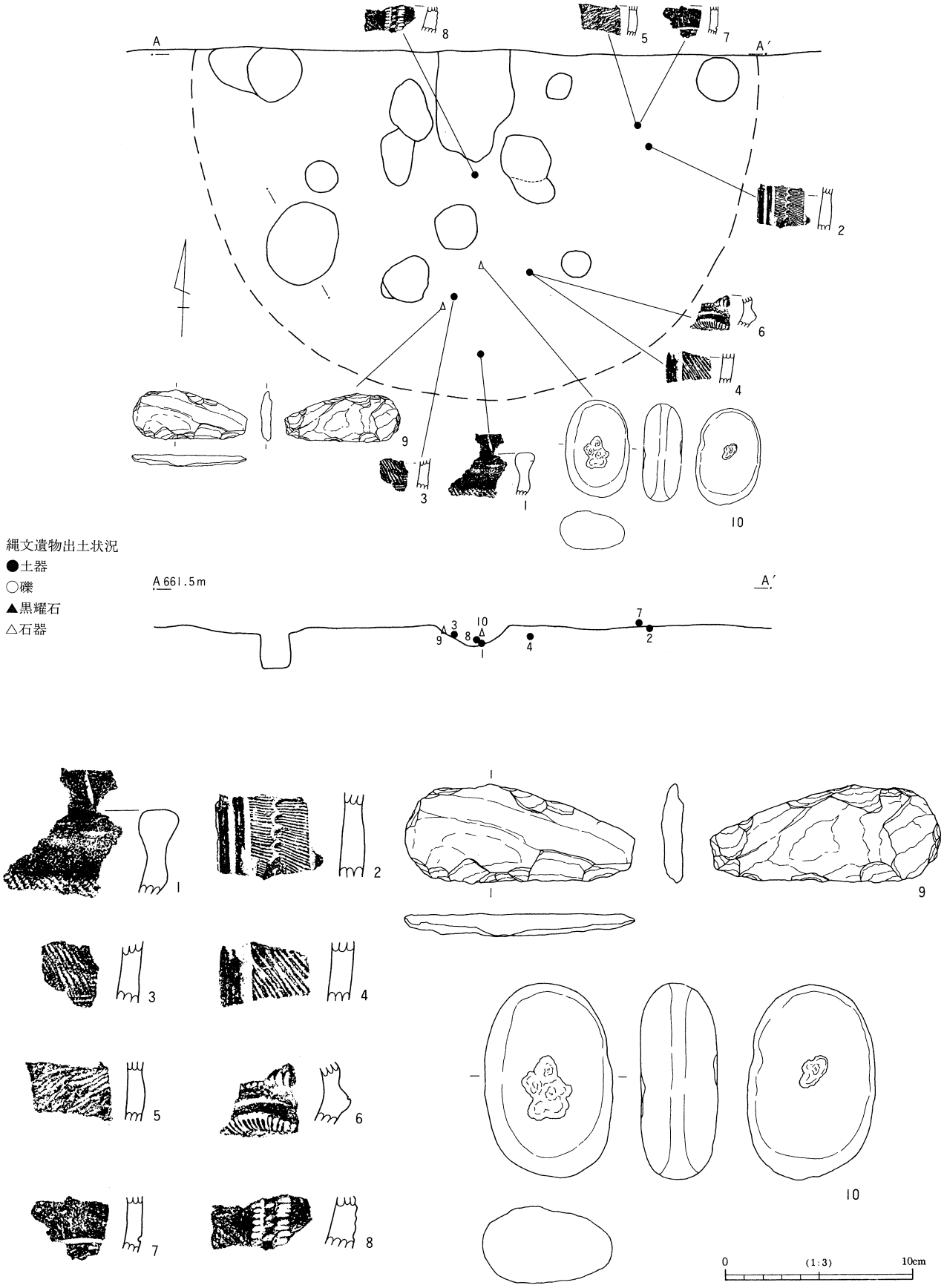
第2図　紺屋遺跡調査区と周辺の地形



第3図　紺屋遺跡調査区全体図

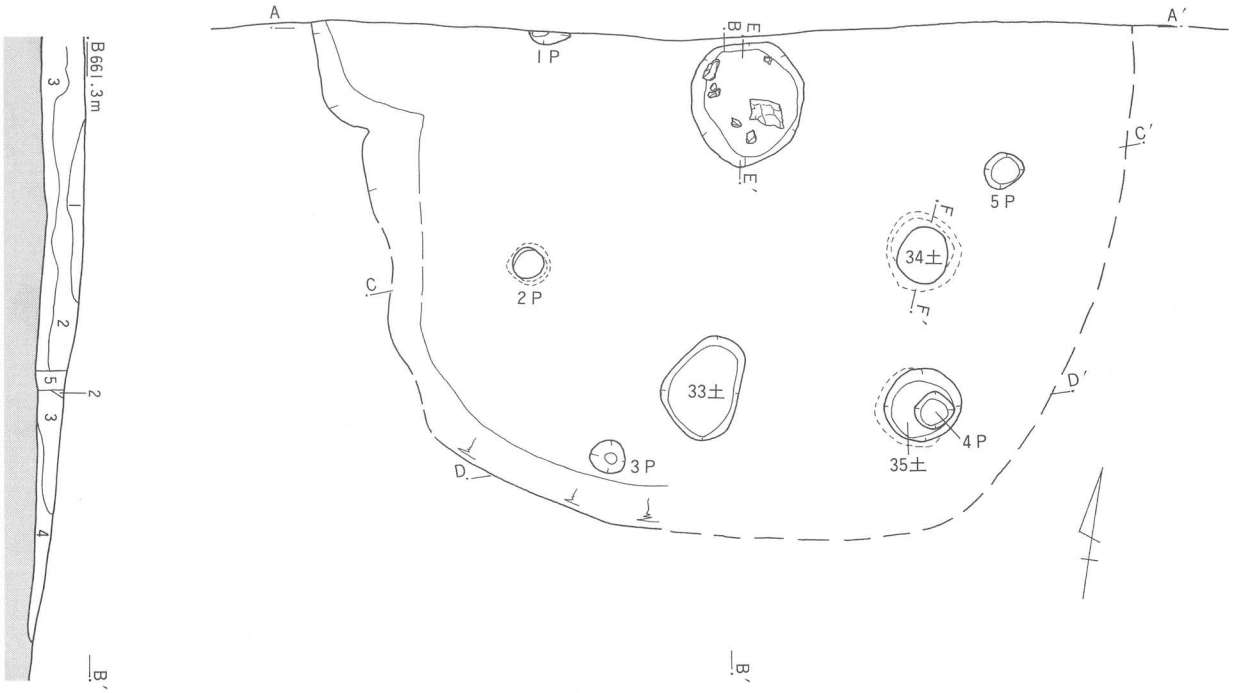


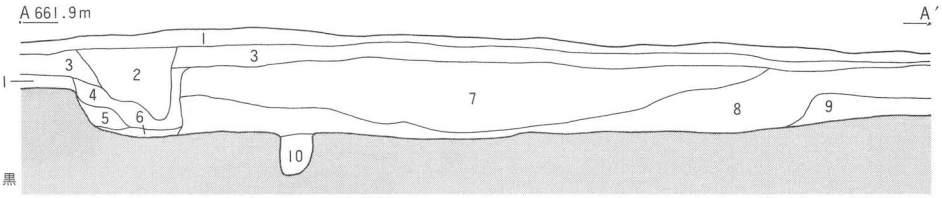
第4図　2号住居跡・5号土坑

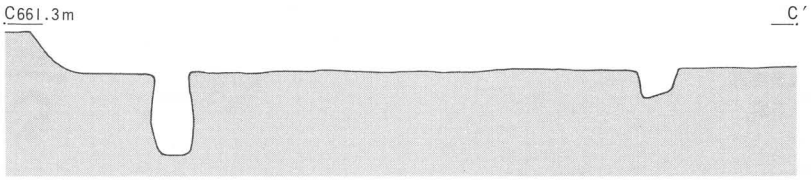


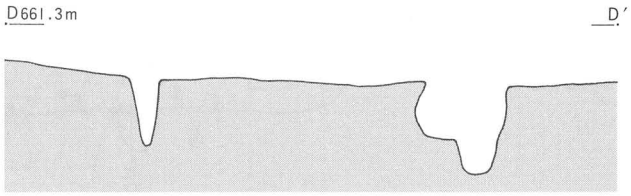
第５図　２号住居跡遺物出土状況、出土土器・石器

3号住







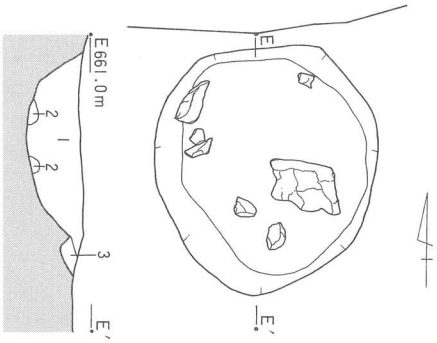


3号住（南北）
1　暗褐色土　2層より明るい、褐色土少量
2　暗褐色土　1・3層より暗い、褐色土少量、黒褐色土少量
3　褐色土　2層より明るい、暗褐色土やや多量、1cmローム粒少量
4　黄褐色土
5　暗褐色土　根の撹乱

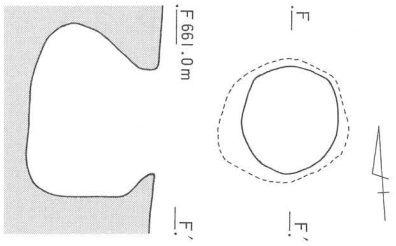
3号住（東西）
1　黒褐色土　表土、腐植土
2　暗褐色土　褐色土少量、根の撹乱
3　褐色土
4　暗褐色土　2層より明るい、5mmローム粒少量
5　褐色土　暗褐色土少量
6　暗褐色土　4層より暗い、5mmローム粒やや多量
7　暗褐色土　4層より暗い、5mmローム粒やや多量、褐色土やや多量、炭化物少量
8　褐色土　1～5mmローム粒少量、炭化物少量、3層より暗い
9　暗黄褐色土　しまりあり、褐色土少量
10　暗褐色土　褐色土少量
11　褐色土　暗褐色土少量

0　(1：60)　2m

3号住炉



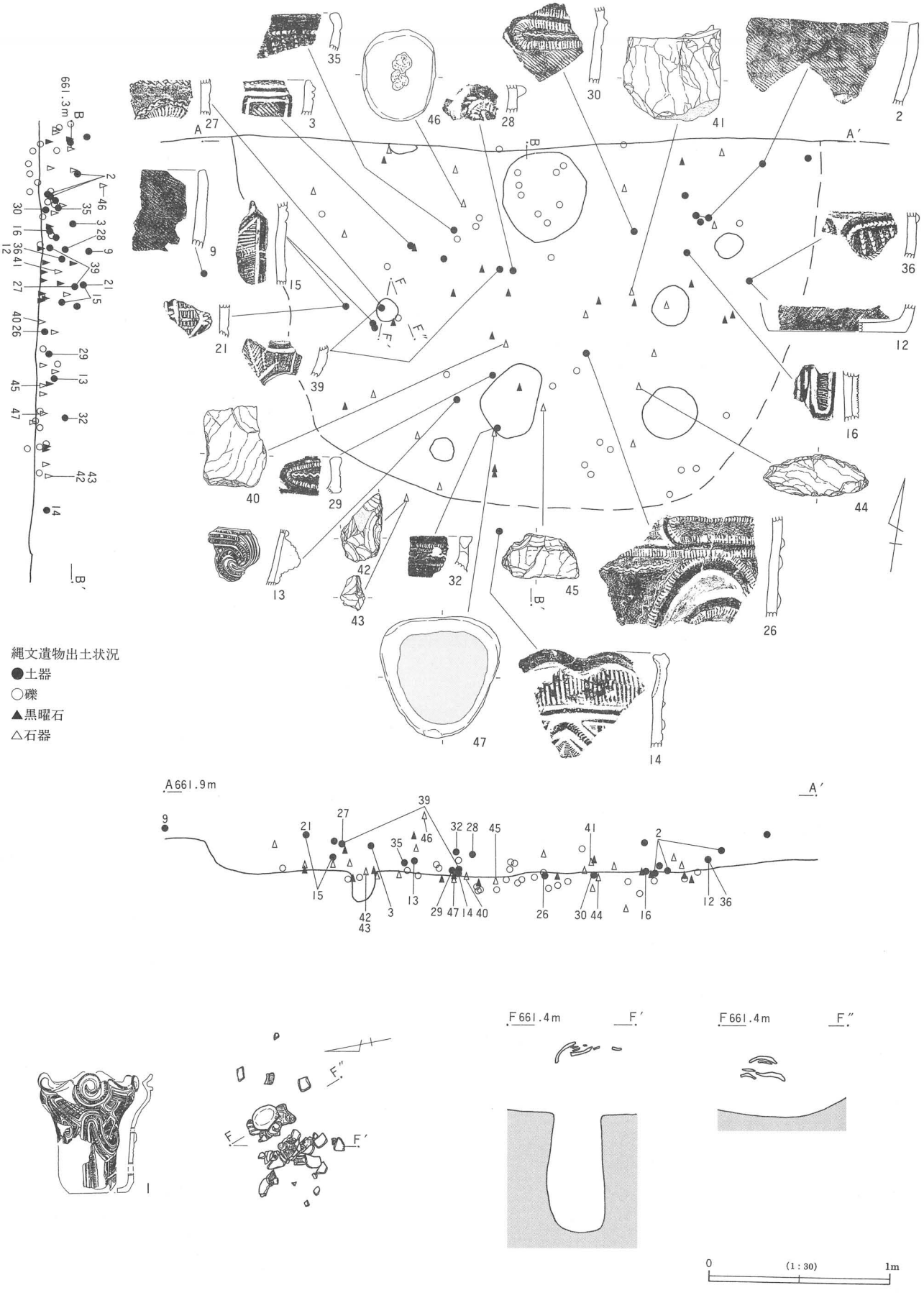
34号土坑



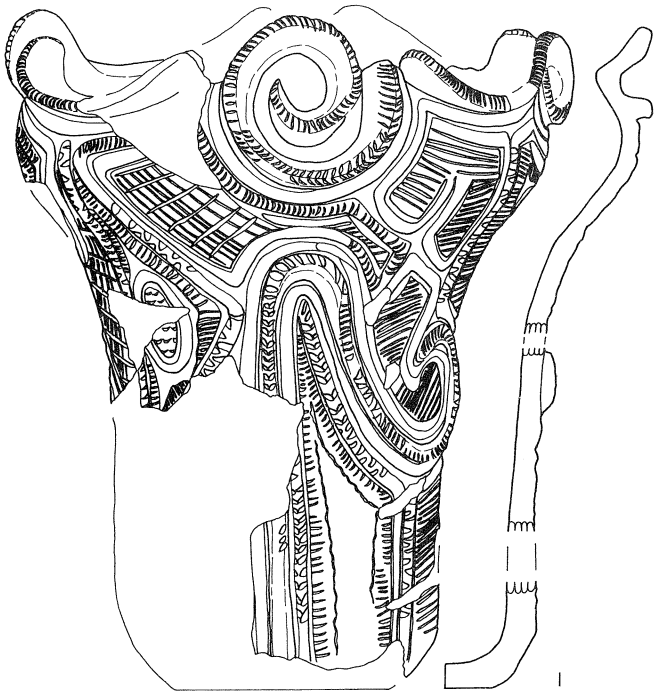
0　(1：30)　1m

1　暗褐色土　明るい、1cmローム粒少量、粘土粒少量
2　暗褐色土　1層より暗い、1cmローム粒少量
3　暗褐色土　1層より暗い、褐色土少量

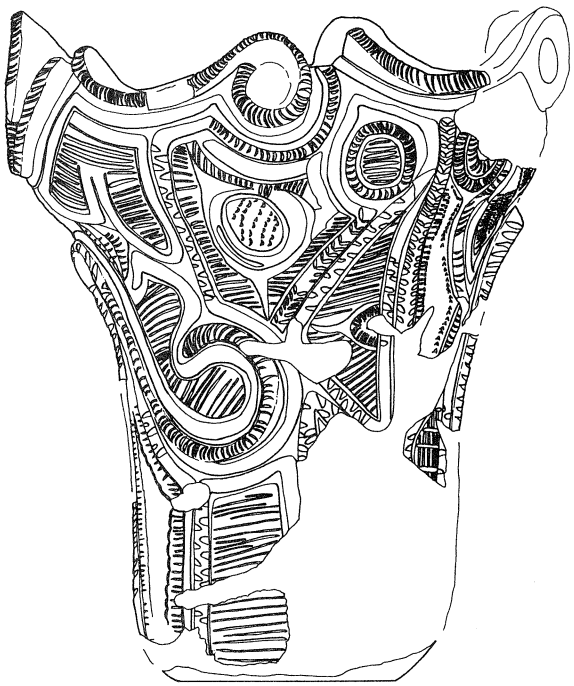
第6図　3号住居跡・34号土坑



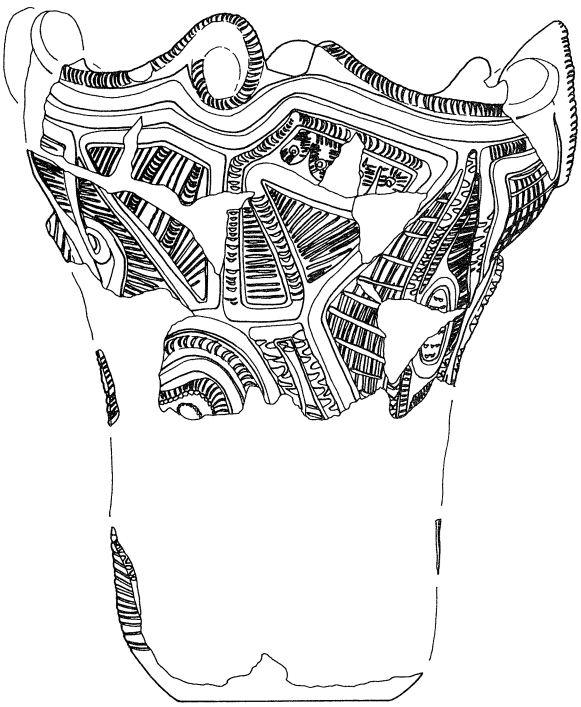
第７図　３号住居跡遺物出土状況



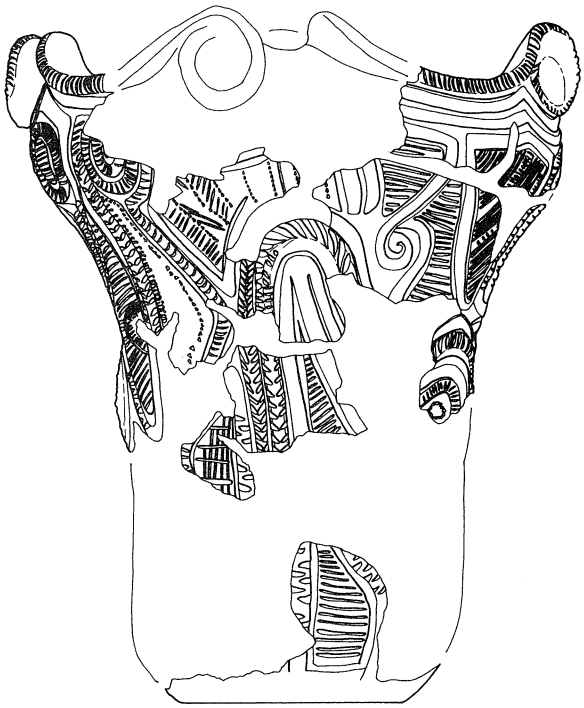
正面



右



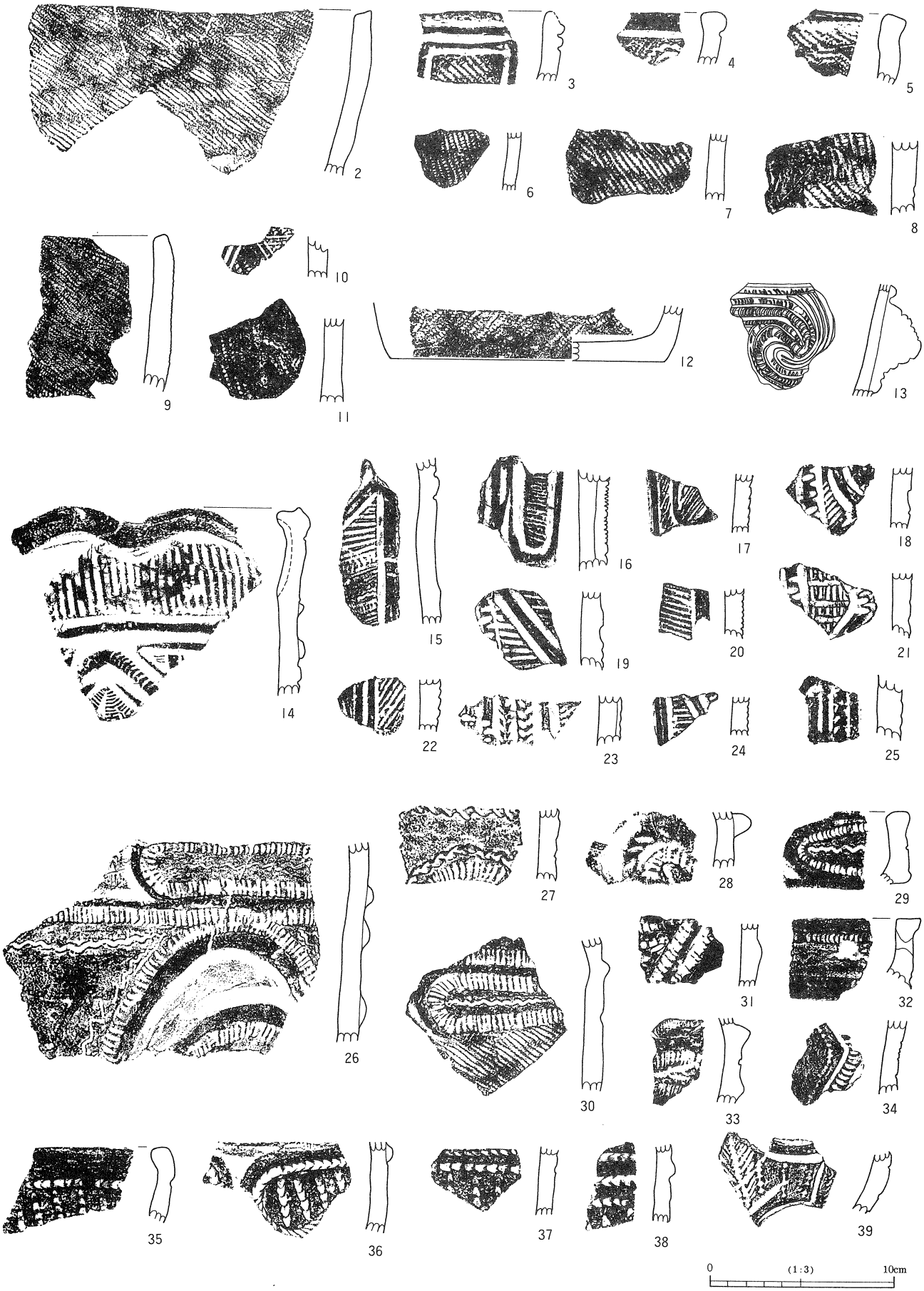
左



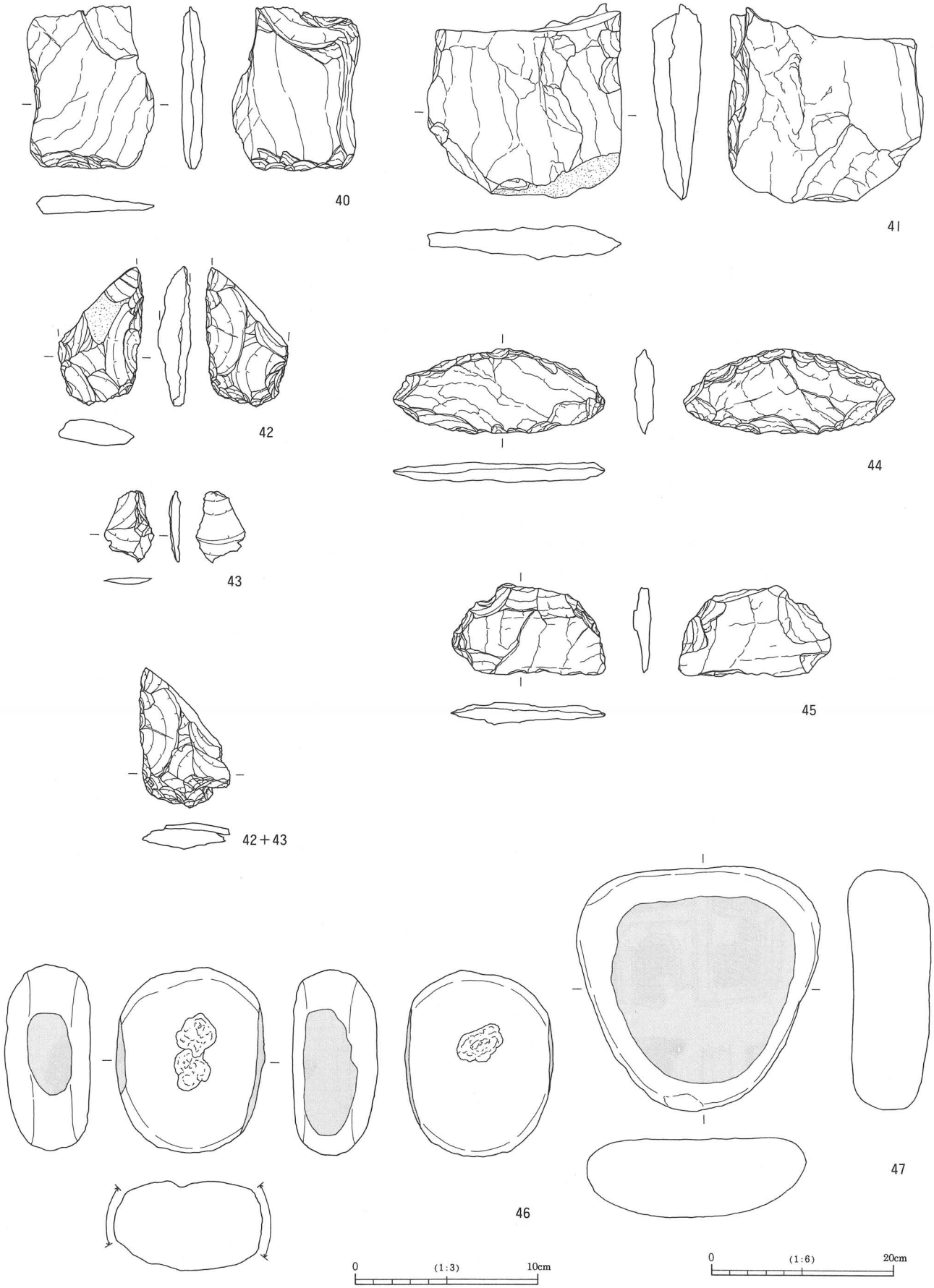
裏

0 (1:4) 10cm

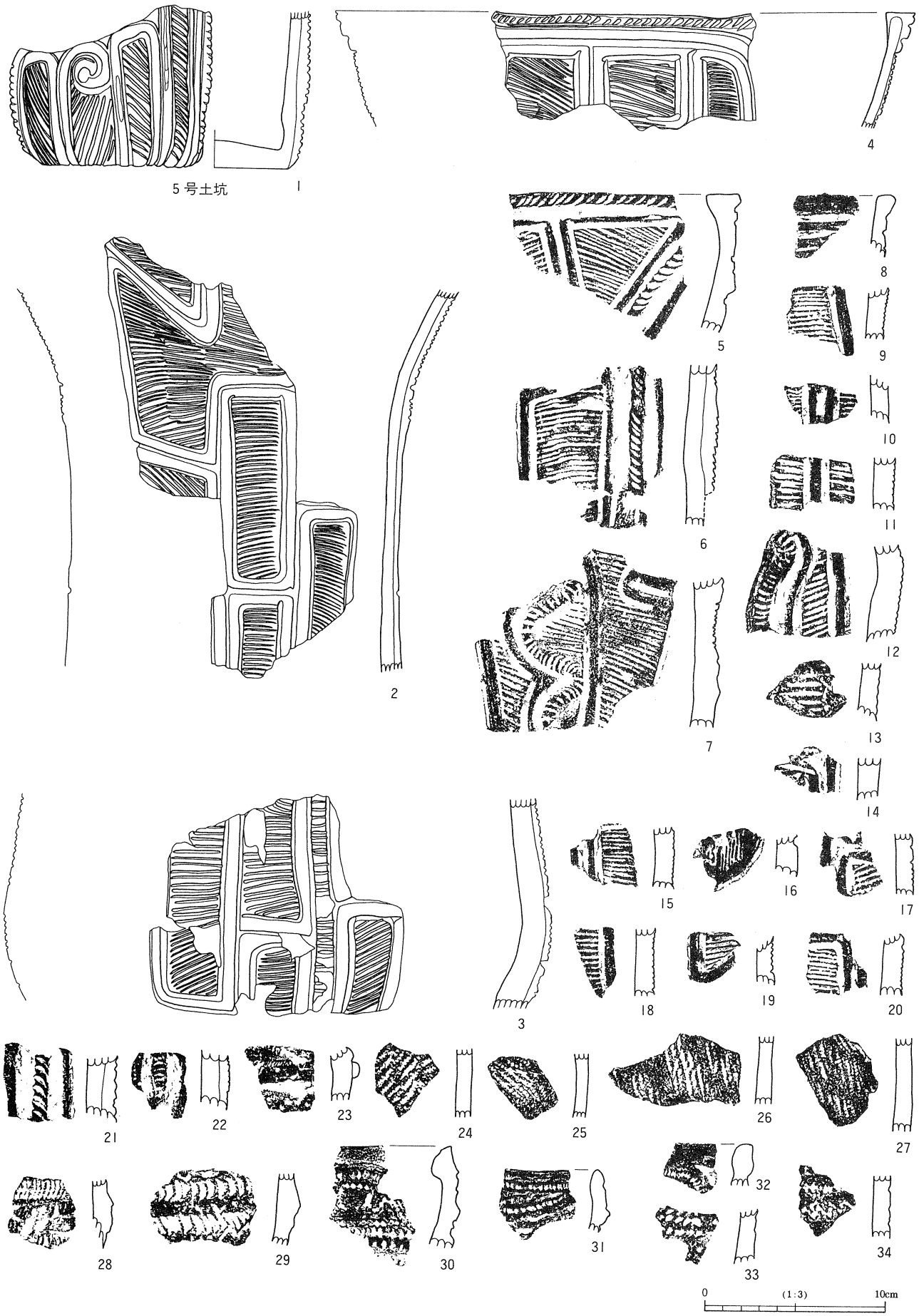
第8図　3号住居跡出土土器



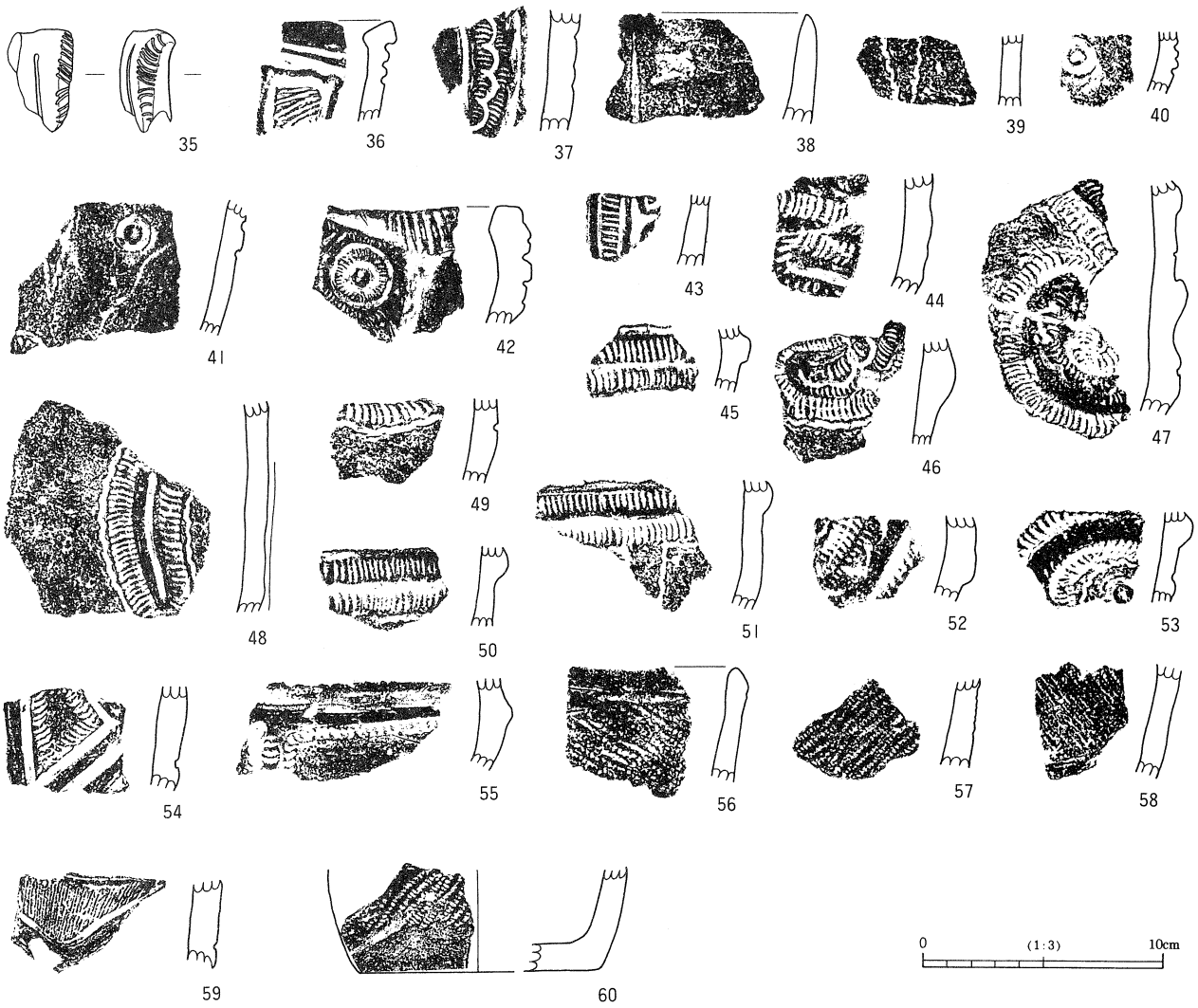
第９図　３号住居跡出土土器



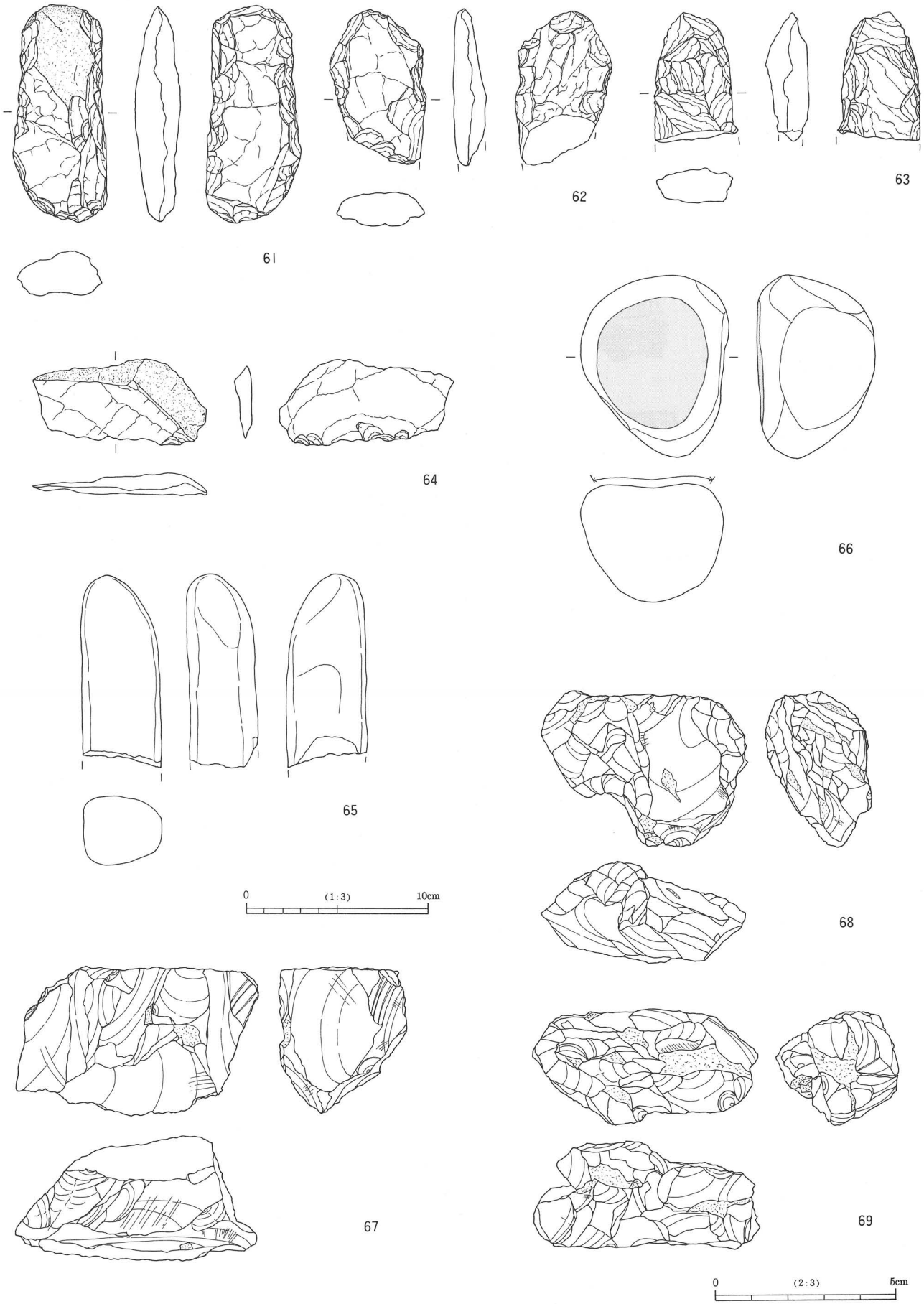
第10図　3号住居跡出土石器



第11図　5号土坑・遺構外出土土器

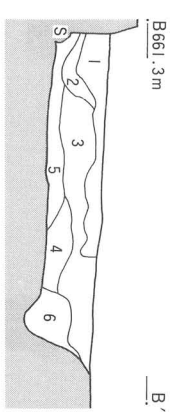


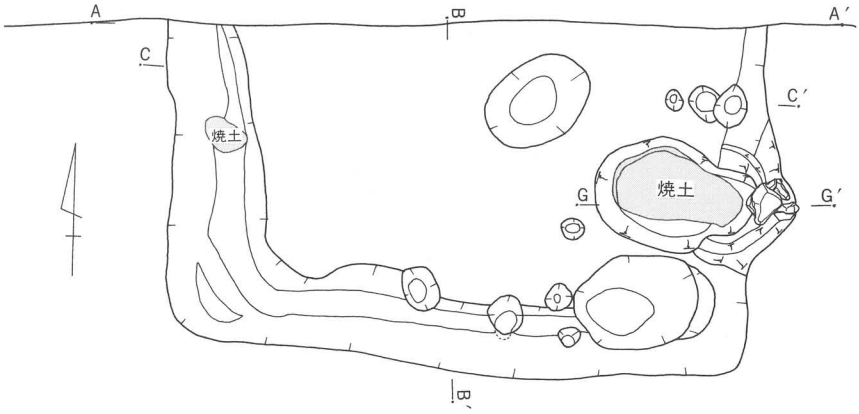
第12図　遺構外出土土器



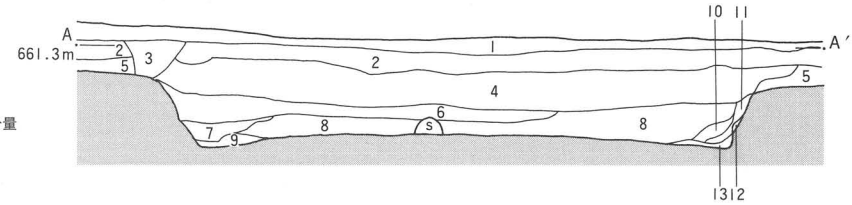
第13図　遺構外出土土器

1号住

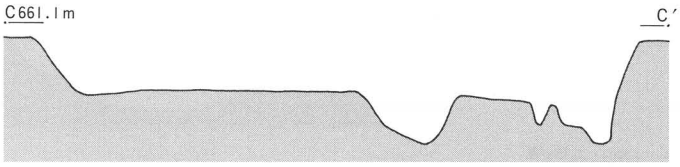




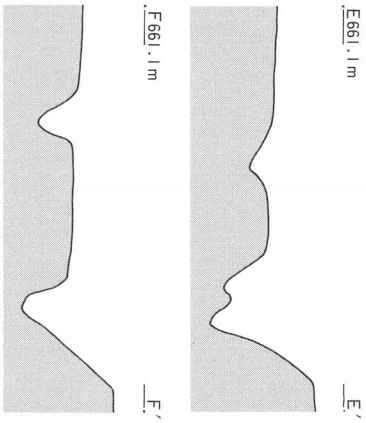
1号住(南北)
1　暗褐色土　1mmローム粒少量
2　褐色土　1mmローム粒少量、暗褐色土やや多量
3　暗褐色土　1層より明るい、1mmローム粒少量
4　褐色土　暗褐色土多量、1mmローム粒やや多量
5　暗褐色土　3層より暗い、1mmローム粒少量、炭化物少量
6　暗褐色土　3層より暗い、炭化物少量

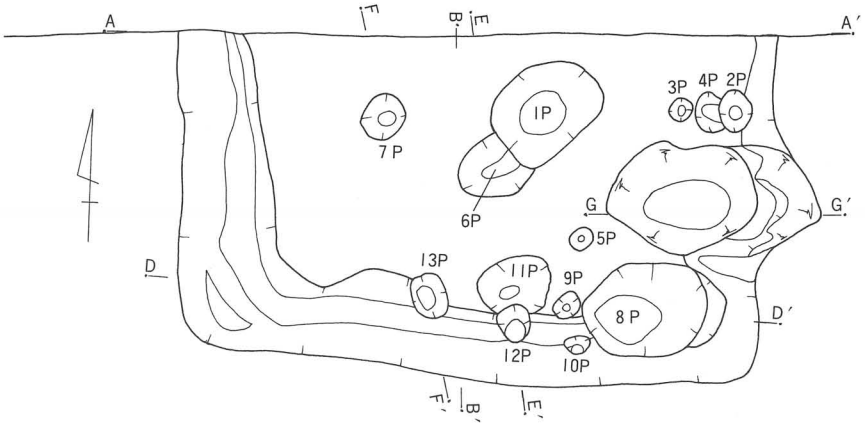


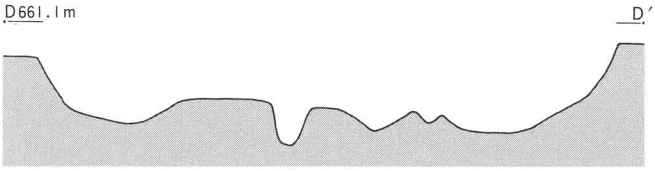
1号住(東西)
1　表　土　黒色腐植土
2　褐色土　炭化物少量
3　暗褐色土　根の攪乱
4　暗褐色土　炭化物少量
5　褐色土　2層より明るい、暗褐色土少量
6　褐色土　暗褐色土多量、炭化物少量、5mmローム粒少量
7　黒褐色土　暗褐色土多量、褐色土少量、炭化物多量
8　暗褐色土　4層より明るい、炭化物少量、褐色土・黒褐色土少量
9　暗褐色土　8層より明るい
10　褐色土　暗褐色土少量、炭化物少量
11　暗褐色土　4・8層より明るい、褐色土少量
12　黄褐色土
13　暗褐色土　8・11層より明るい、褐色土少量



1号住　完掘状況

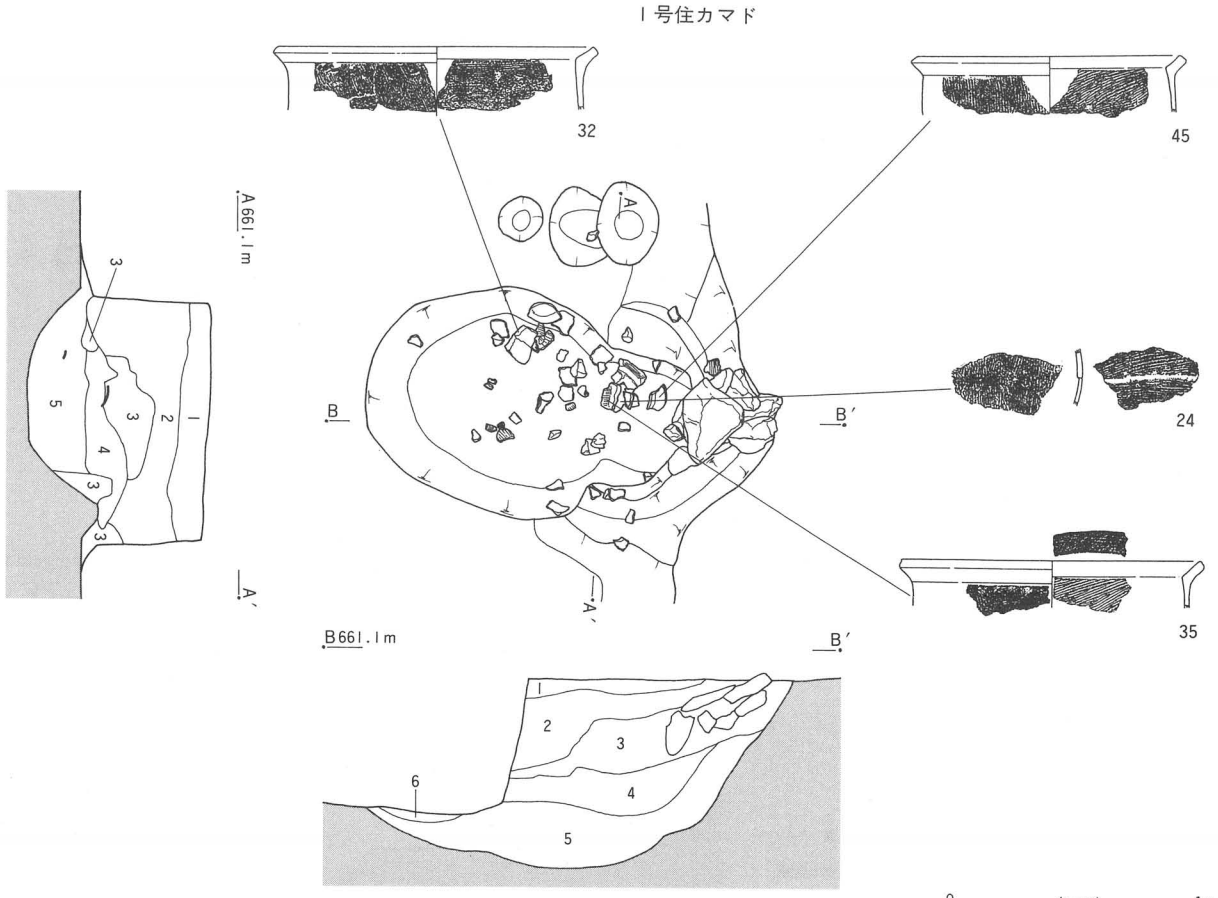






0　(1:60)　2m

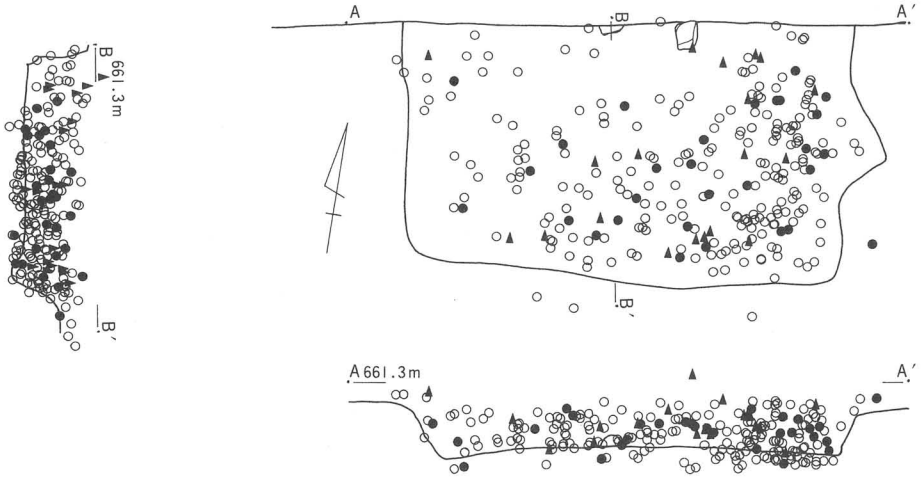
第14図　1号住居跡



1　暗褐色土　1mmローム粒少量
2　暗褐色土　焼土粒少量、褐色土少量、1層より明るい
3　灰褐色土　暗褐色土・黒褐色土少量、焼土・炭化物少量
4　暗褐色土　焼土少量、灰褐色土少量
5　暗褐色土　焼土やや多量、炭化物やや多量
6　黒褐色土　焼土粒やや多量、炭化物やや多量

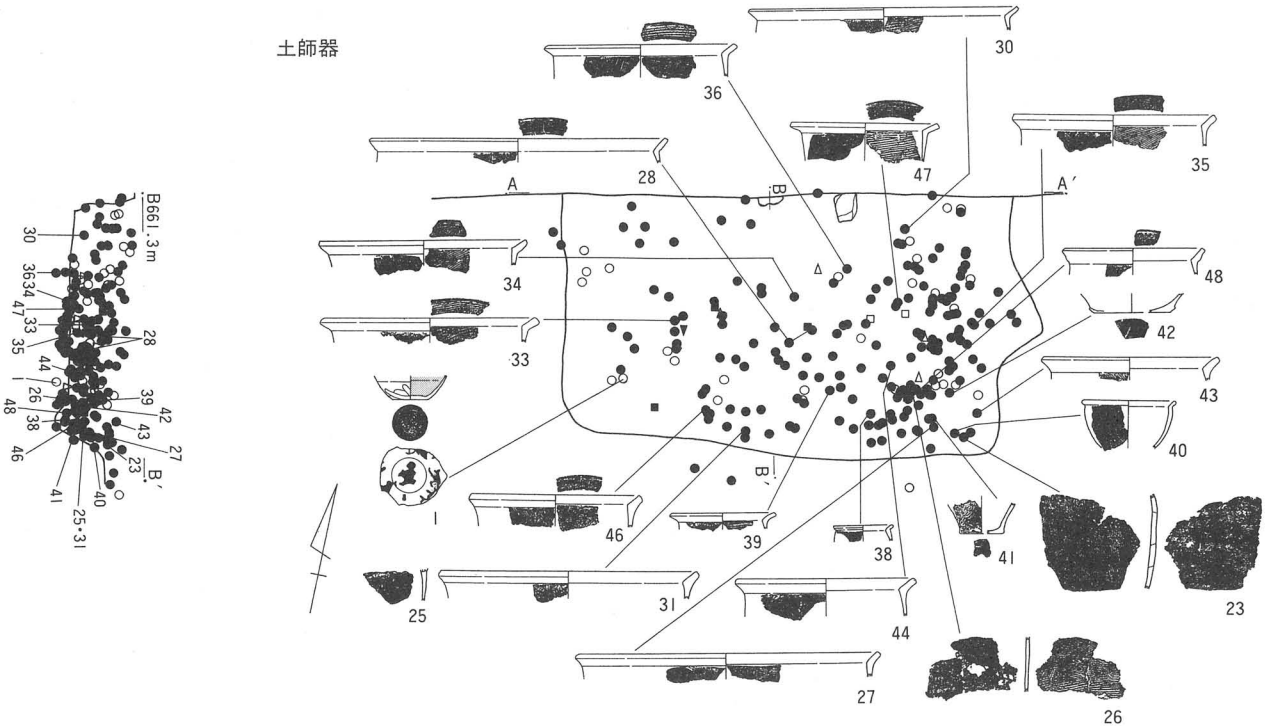
第15図　1号住居跡カマド遺物出土状況

土器全体

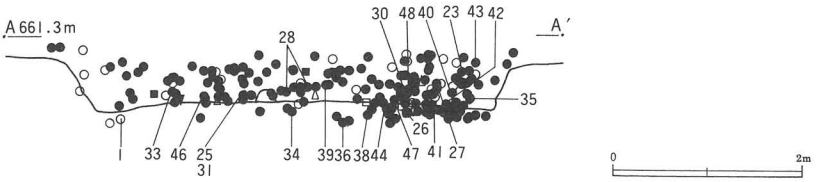


平安土器出土状況（全体）
○土師器
●黒色土器
▲須恵器・陶器

土師器

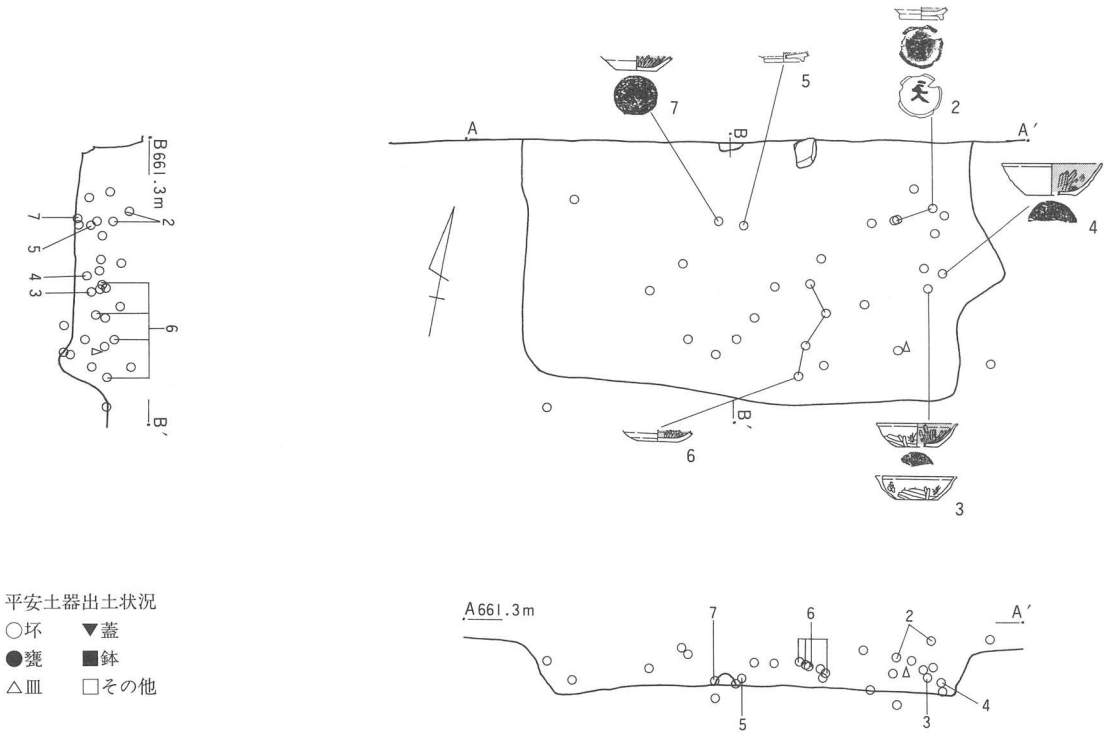


平安土器出土状況
○坏　▼蓋
●甕　■鉢
△皿　□その他

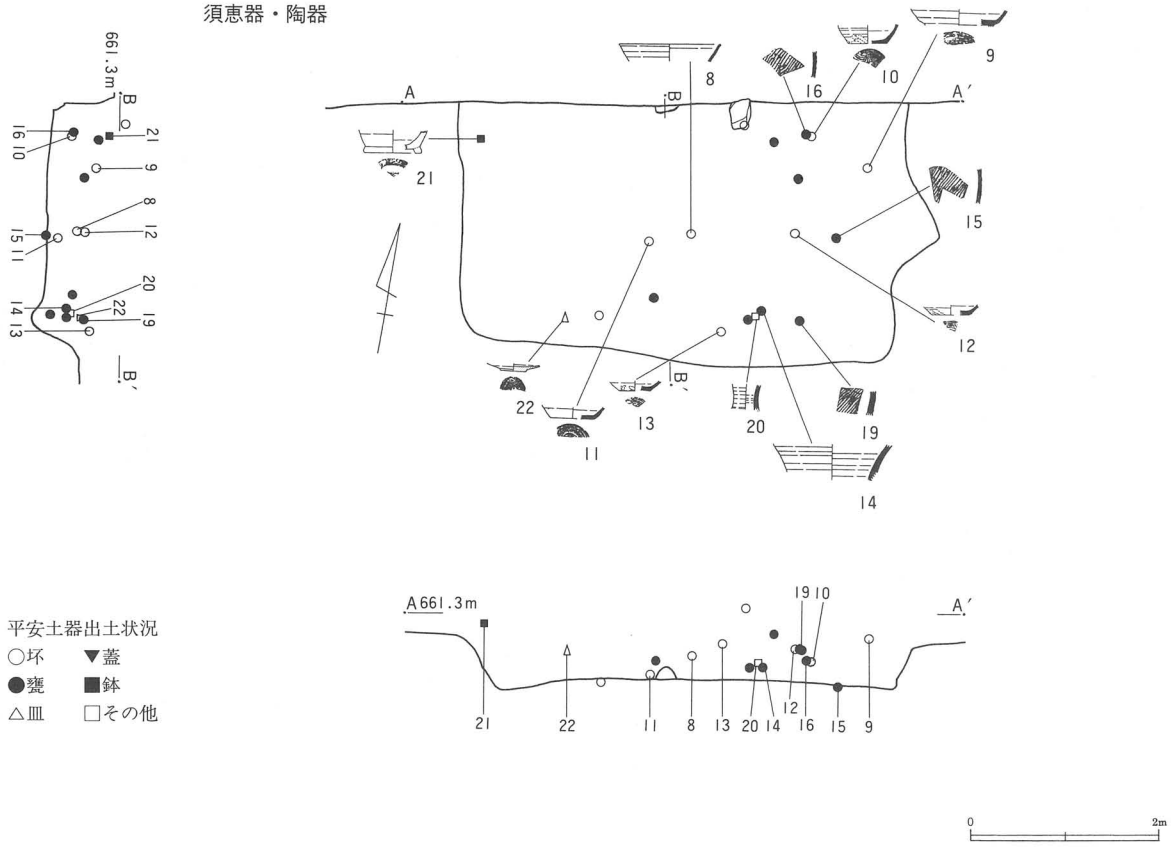


第16図　1号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、下：土師器）

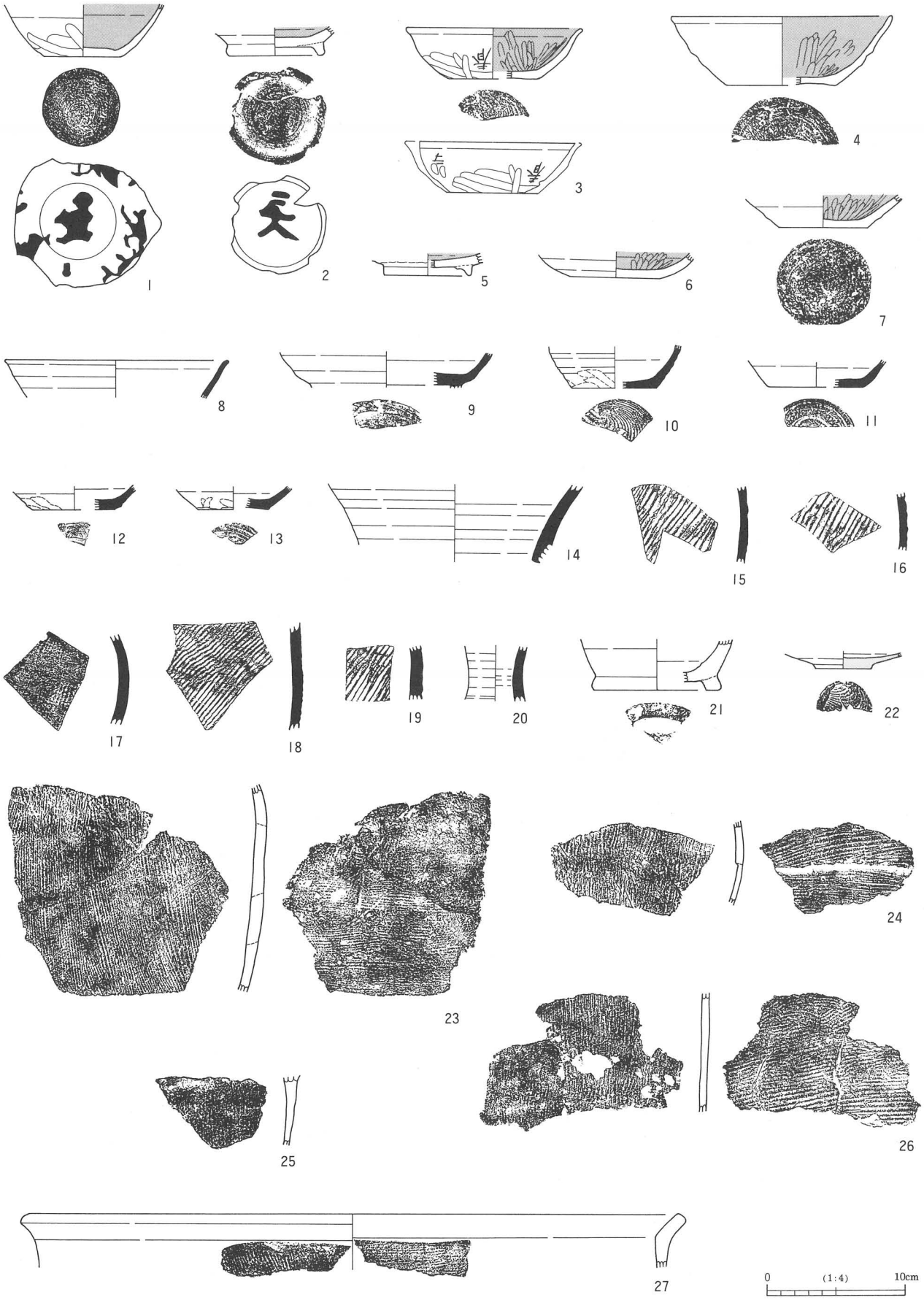
黒色土器



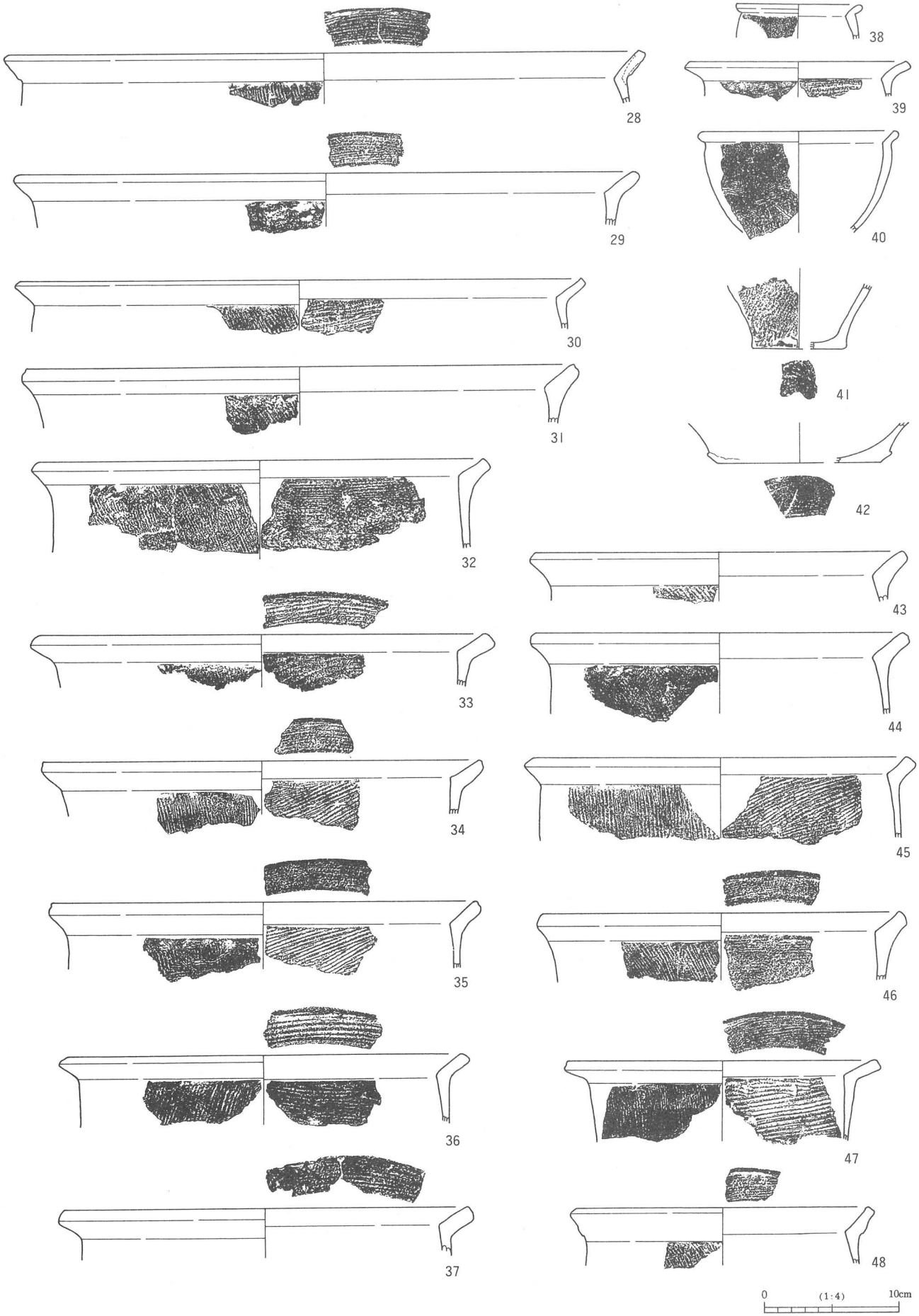
須恵器・陶器



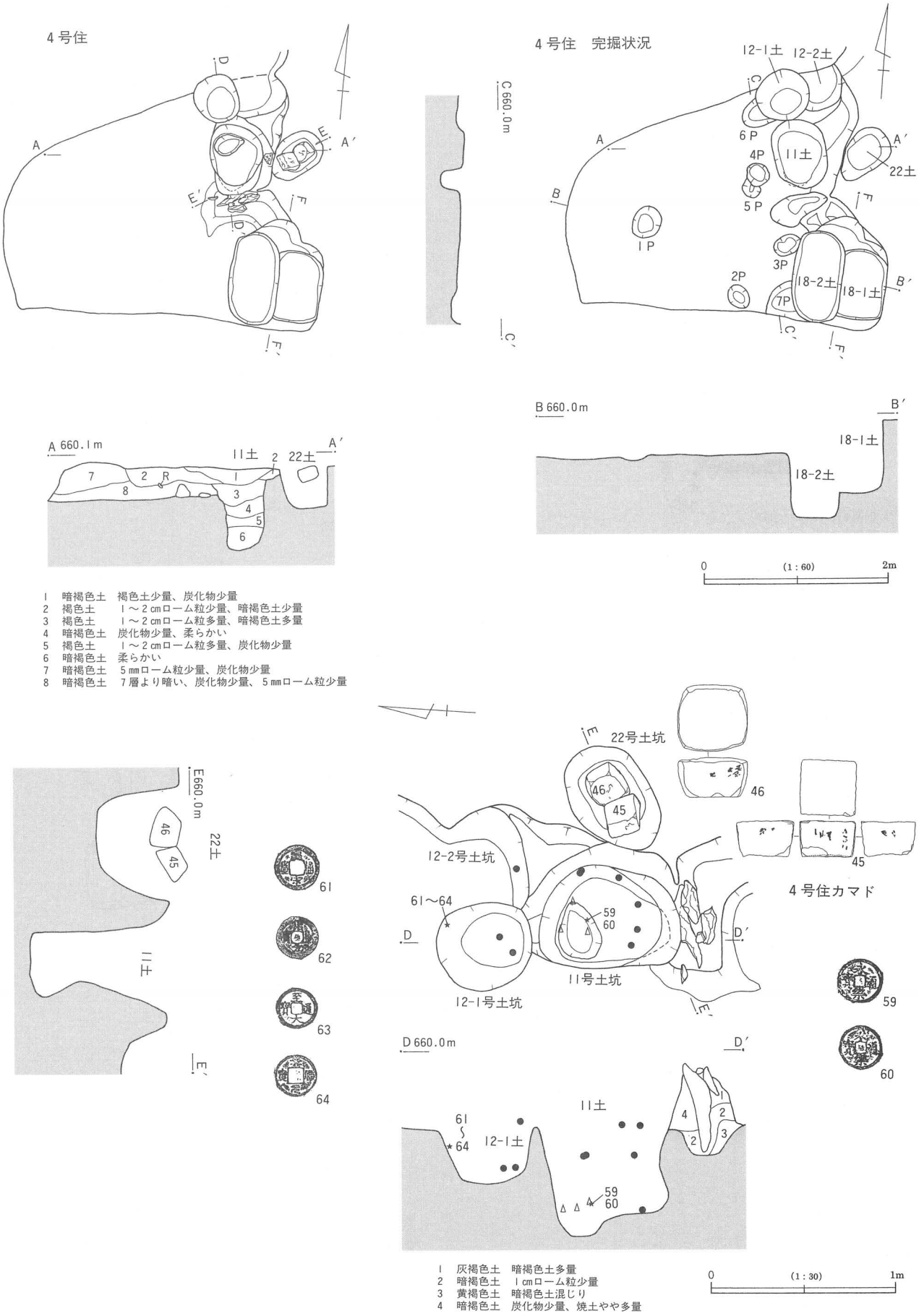
第17図　1号住居跡遺物出土状況（上：黒色土器、下：須恵器・陶器）



第18図　1号住居跡出土土器



第19図　1号住居跡出土土器

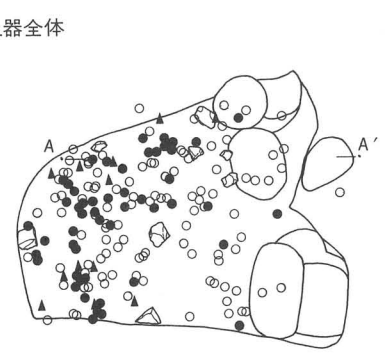


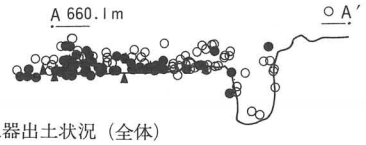
1　暗褐色土　褐色土少量、炭化物少量
2　褐色土　1～2cmローム粒少量、暗褐色土少量
3　褐色土　1～2cmローム粒多量、暗褐色土多量
4　暗褐色土　炭化物少量、柔らかい
5　褐色土　1～2cmローム粒多量、炭化物少量
6　暗褐色土　柔らかい
7　暗褐色土　5mmローム粒少量、炭化物少量
8　暗褐色土　7層より暗い、炭化物少量、5mmローム粒少量

1　灰褐色土　暗褐色土多量
2　暗褐色土　1cmローム粒少量
3　黄褐色土　暗褐色土混じり
4　暗褐色土　炭化物少量、焼土やや多量

第20図　4号住居跡、11・12－1・12－2・22号土坑

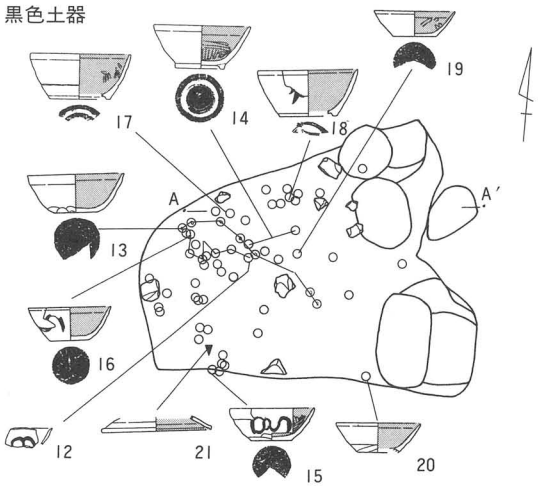
土器全体

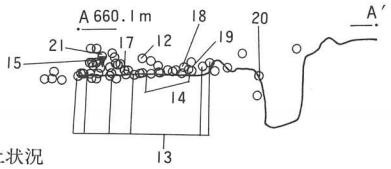




平安土器出土状況（全体）
○土師器
●黒色土器
▲須恵器・陶器

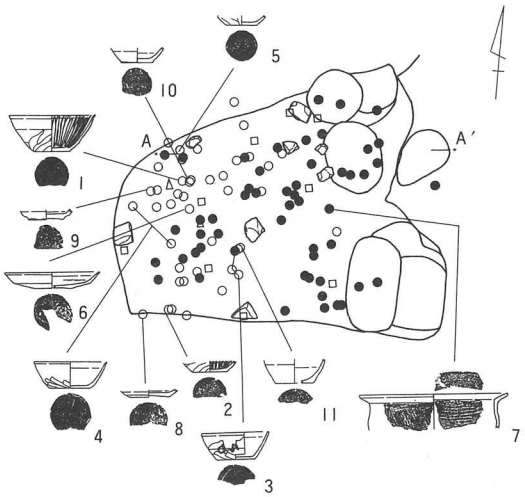
黒色土器

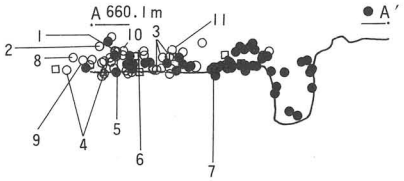




平安土器出土状況
○坏　▼蓋
●甕　■鉢
△皿　□その他

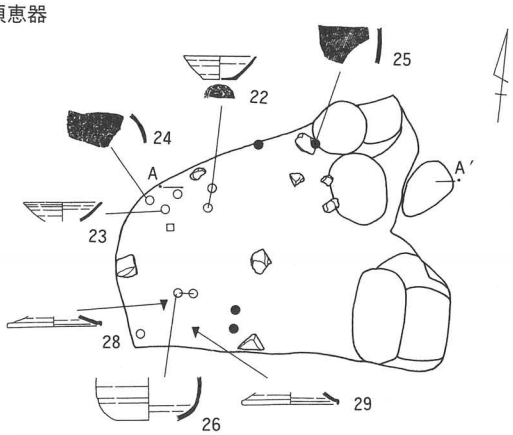
土師器

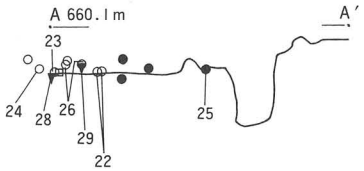




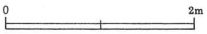
平安土器出土状況
○坏　▼蓋
●甕　■鉢
△皿　□その他

須恵器

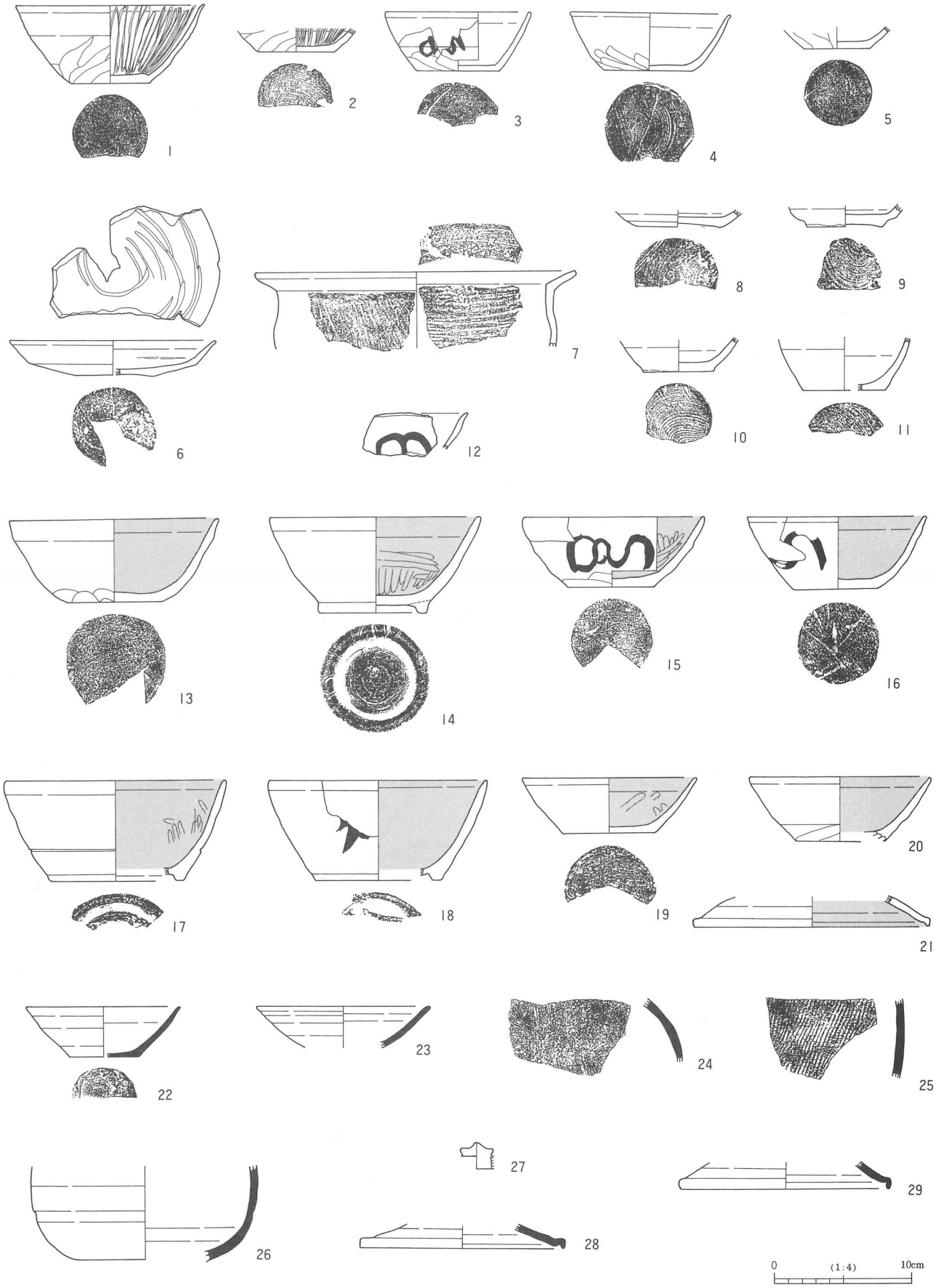




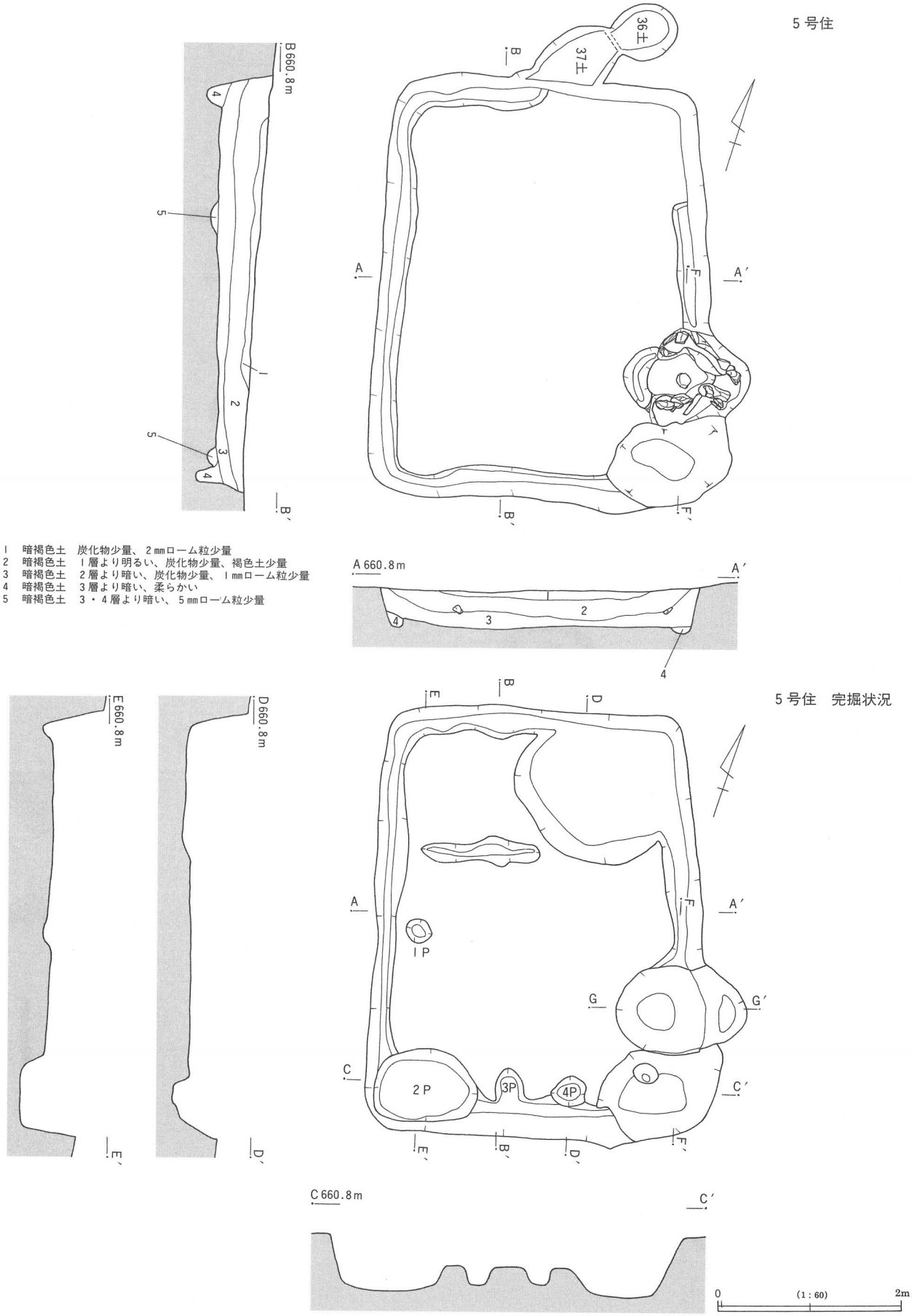
平安土器出土状況
○坏　▼蓋
●甕　■鉢
△皿　□その他



第21図　4号住居跡遺物出土状況

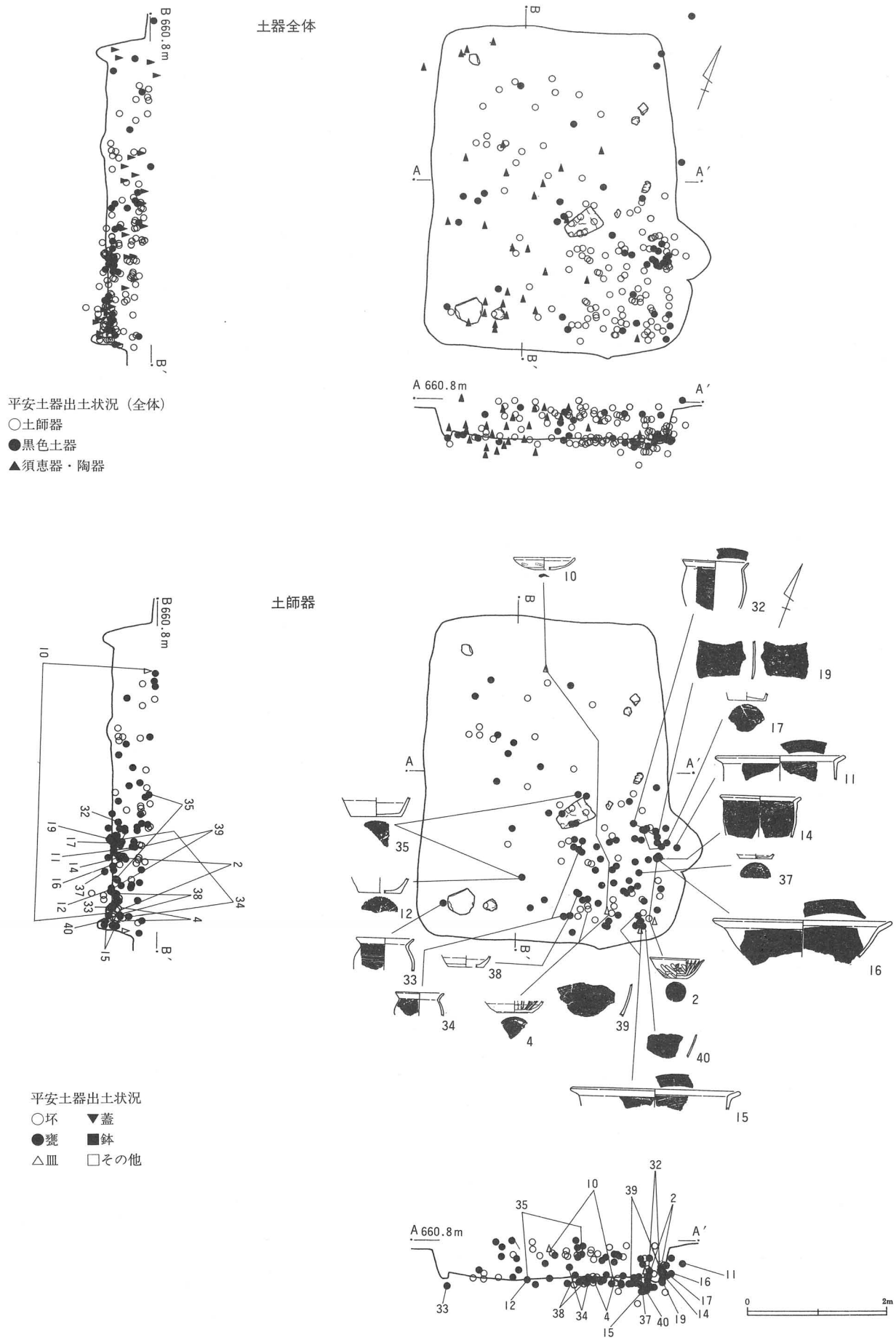


第22図　4号住居跡出土土器

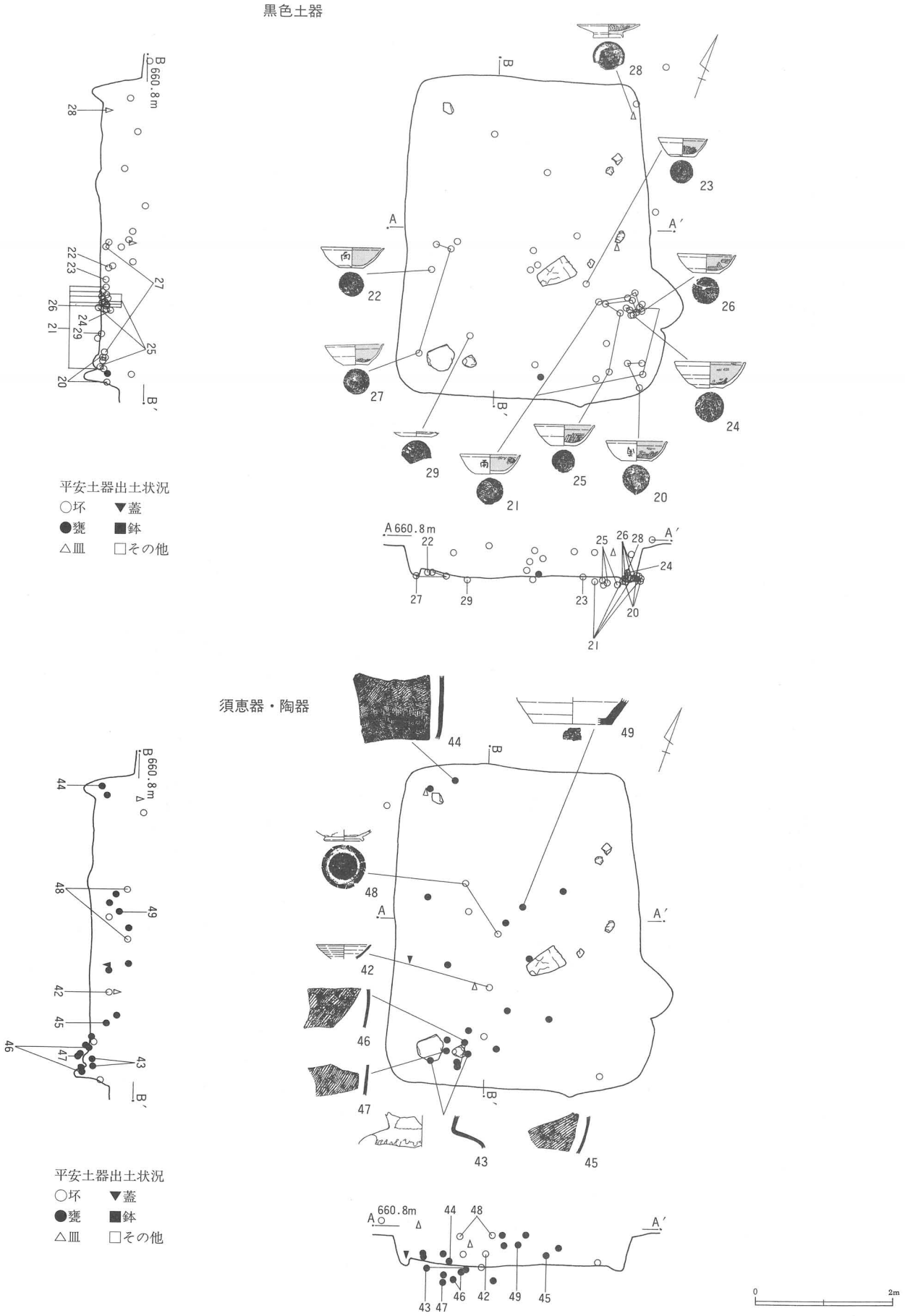


1　暗褐色土　炭化物少量、2㎜ローム粒少量
2　暗褐色土　1層より明るい、炭化物少量、褐色土少量
3　暗褐色土　2層より暗い、炭化物少量、1㎜ローム粒少量
4　暗褐色土　3層より暗い、柔らかい
5　暗褐色土　3・4層より暗い、5㎜ローム粒少量

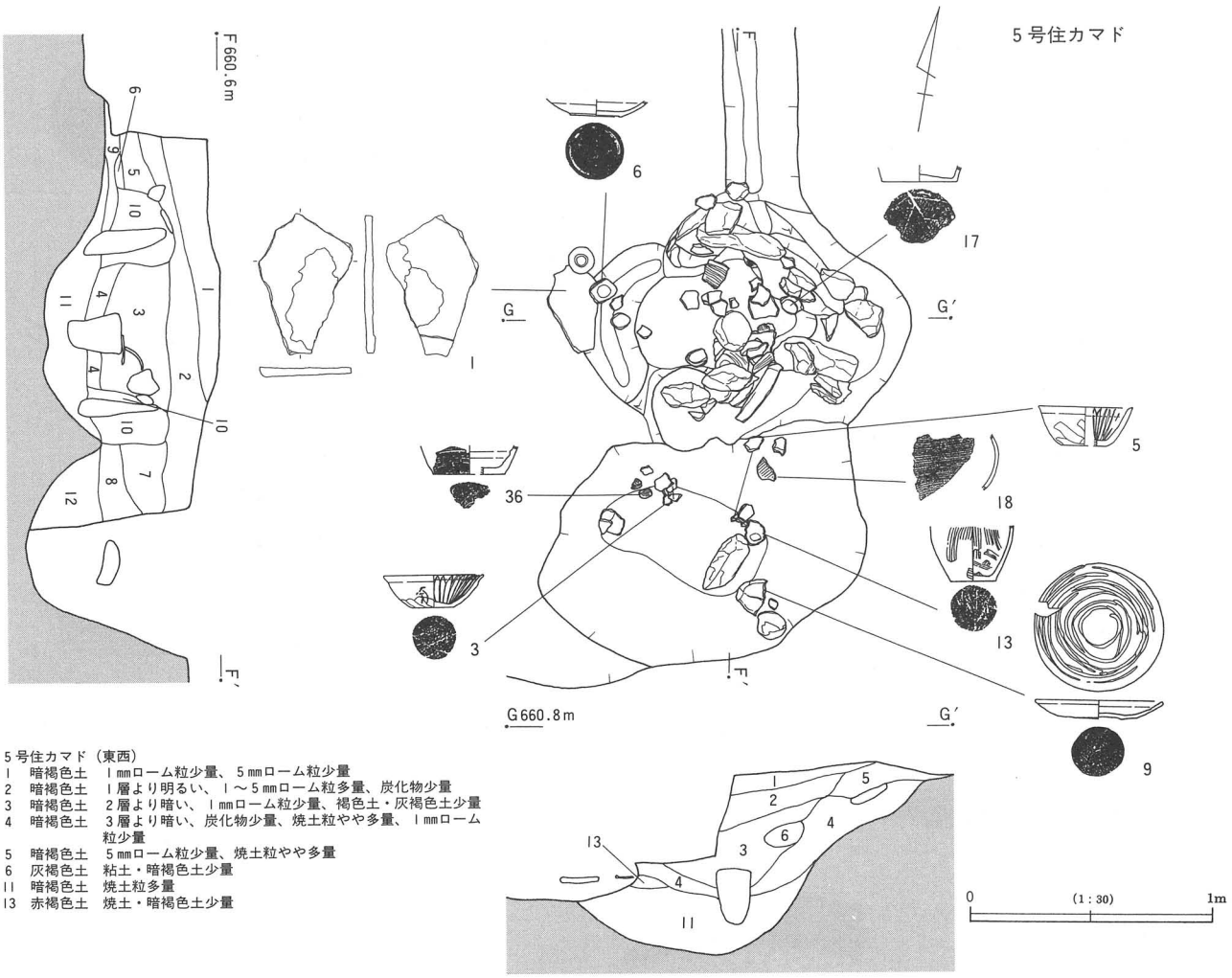
第23図　5号住居跡



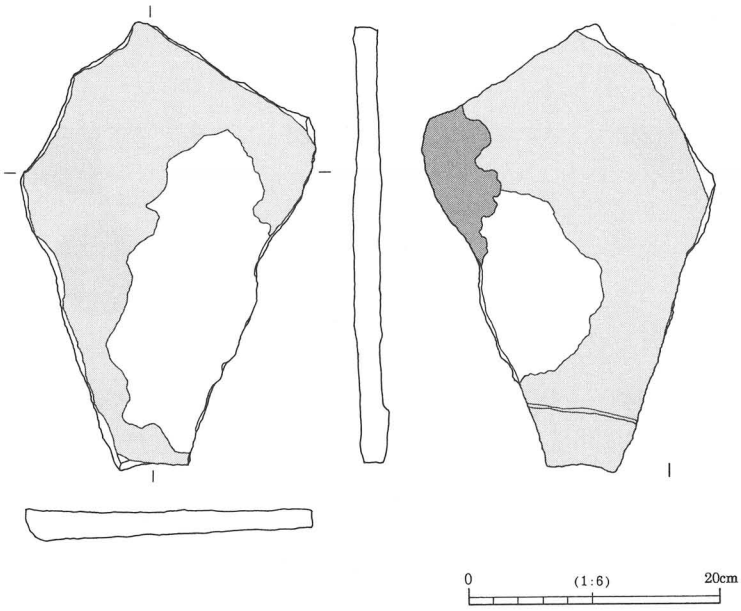
第24図　5号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、下：土師器）



第25図　5号住居跡遺物出土状況（上：黒色土器、下：須恵器・陶器）

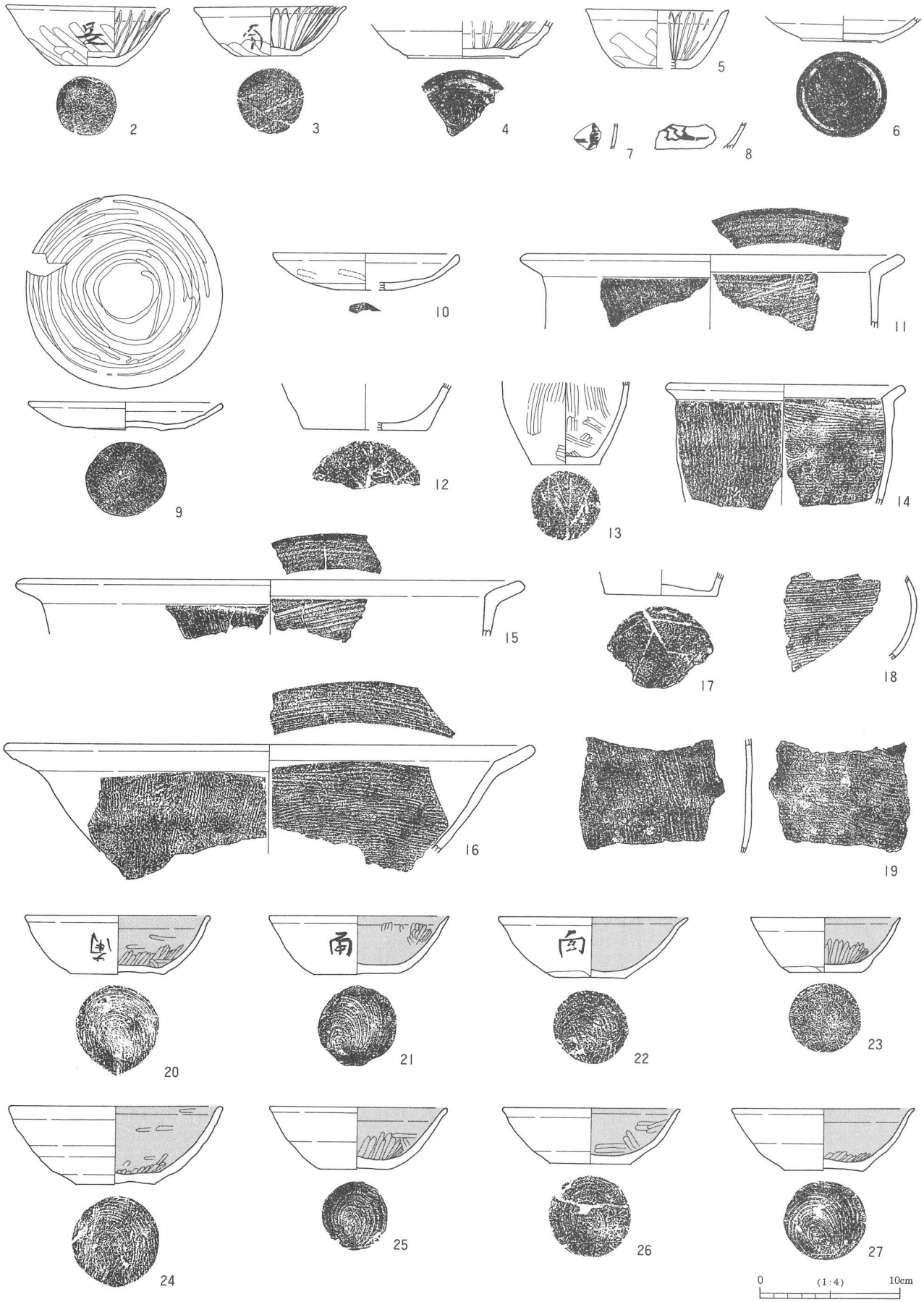


5号住カマド（東西）
1　暗褐色土　1mmローム粒少量、5mmローム粒少量
2　暗褐色土　1層より明るい、1～5mmローム粒多量、炭化物少量
3　暗褐色土　2層より暗い、1mmローム粒少量、褐色土・灰褐色土少量
4　暗褐色土　3層より暗い、炭化物少量、焼土粒やや多量、1mmローム粒少量
5　暗褐色土　5mmローム粒少量、焼土粒やや多量
6　灰褐色土　粘土・暗褐色土少量
11　暗褐色土　焼土粒多量
13　赤褐色土　焼土・暗褐色土少量

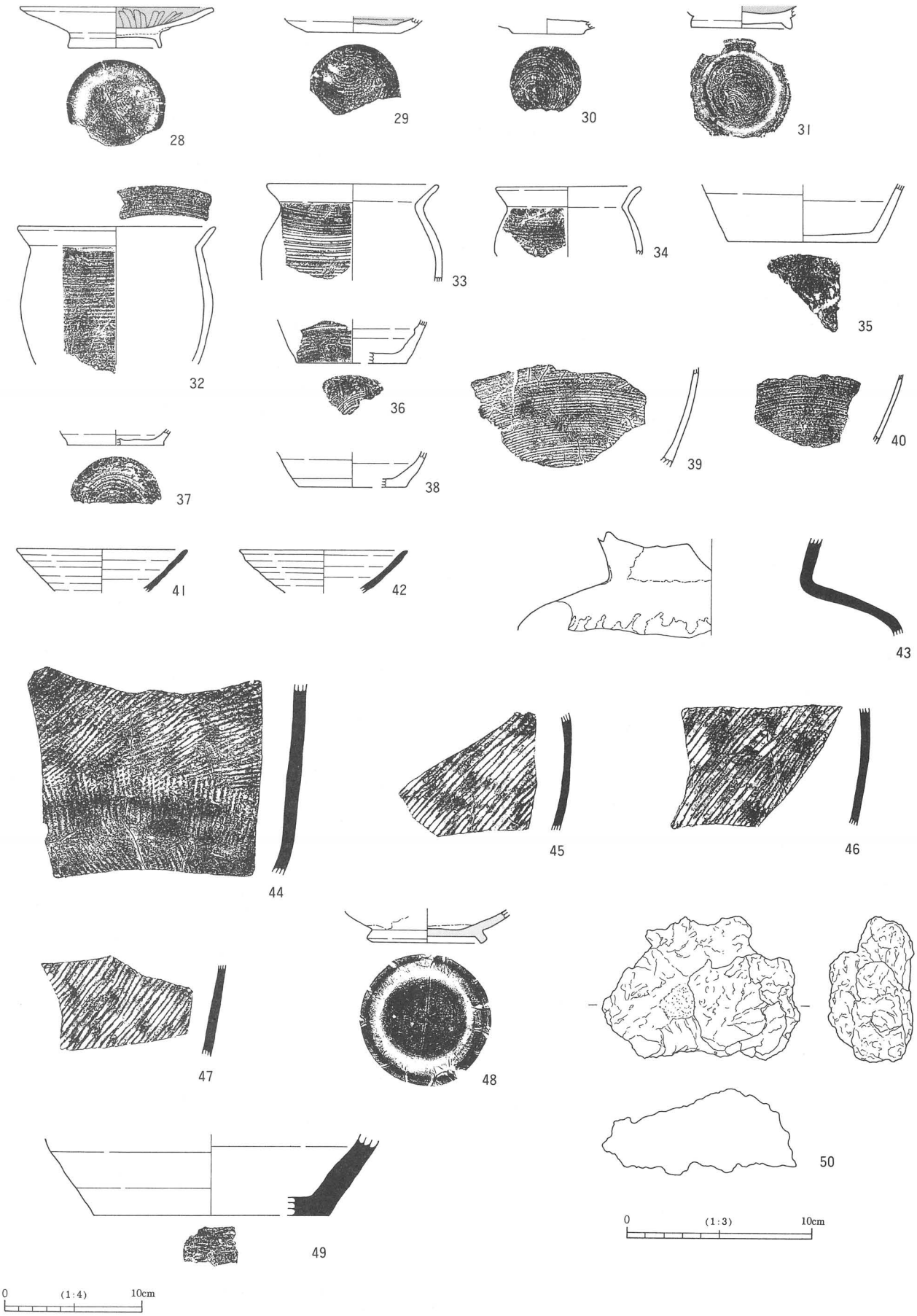


5号住カマド（南北）
1　暗褐色土　1mmローム粒少量、5mmローム粒少量
2　暗褐色土　1層より明るい、1～5mmローム粒多量、炭化物少量
3　暗褐色土　2層より暗い、1mmローム粒少量、褐色土・灰褐色土少量
4　暗褐色土　3層より暗い、炭化物少量、焼土粒やや多量、1mmローム粒少量
5　暗褐色土　2層より明るい、1～5mmローム粒少量
6　灰褐色土　暗褐色土少量
7　暗褐色土　1～5mmローム粒やや多量、炭化物少量
8　暗褐色土　7層より明るい、1mmローム粒少量、炭化物少量、灰褐色土少量
9　暗褐色土　褐色土少量
10　灰褐色土　暗褐色土少量、褐色土少量
11　暗褐色土　焼土粒多量
12　暗褐色土　8層より暗い、1mmローム粒やや多量

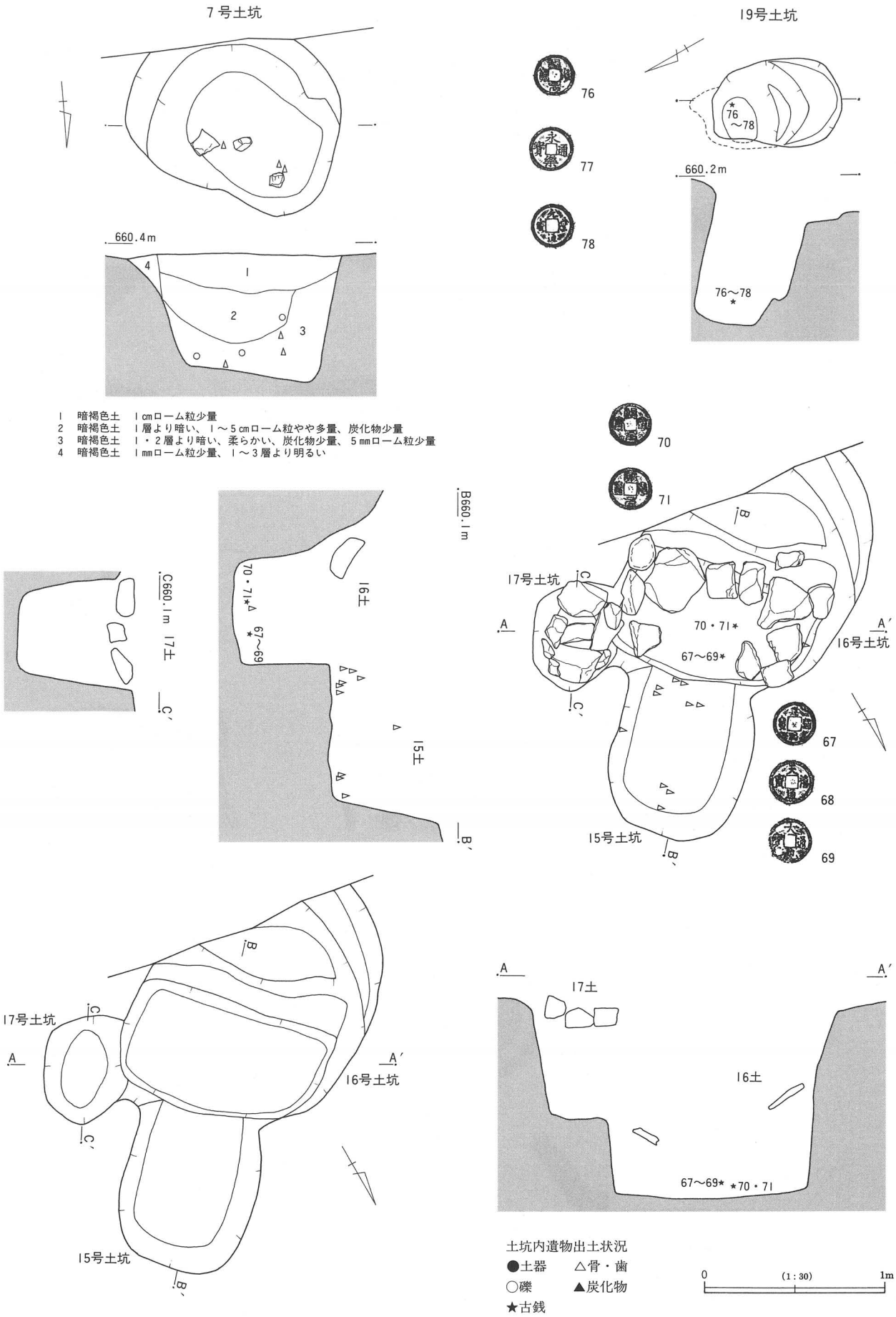
第26図　5号住居跡カマド遺物出土状況、出土石器



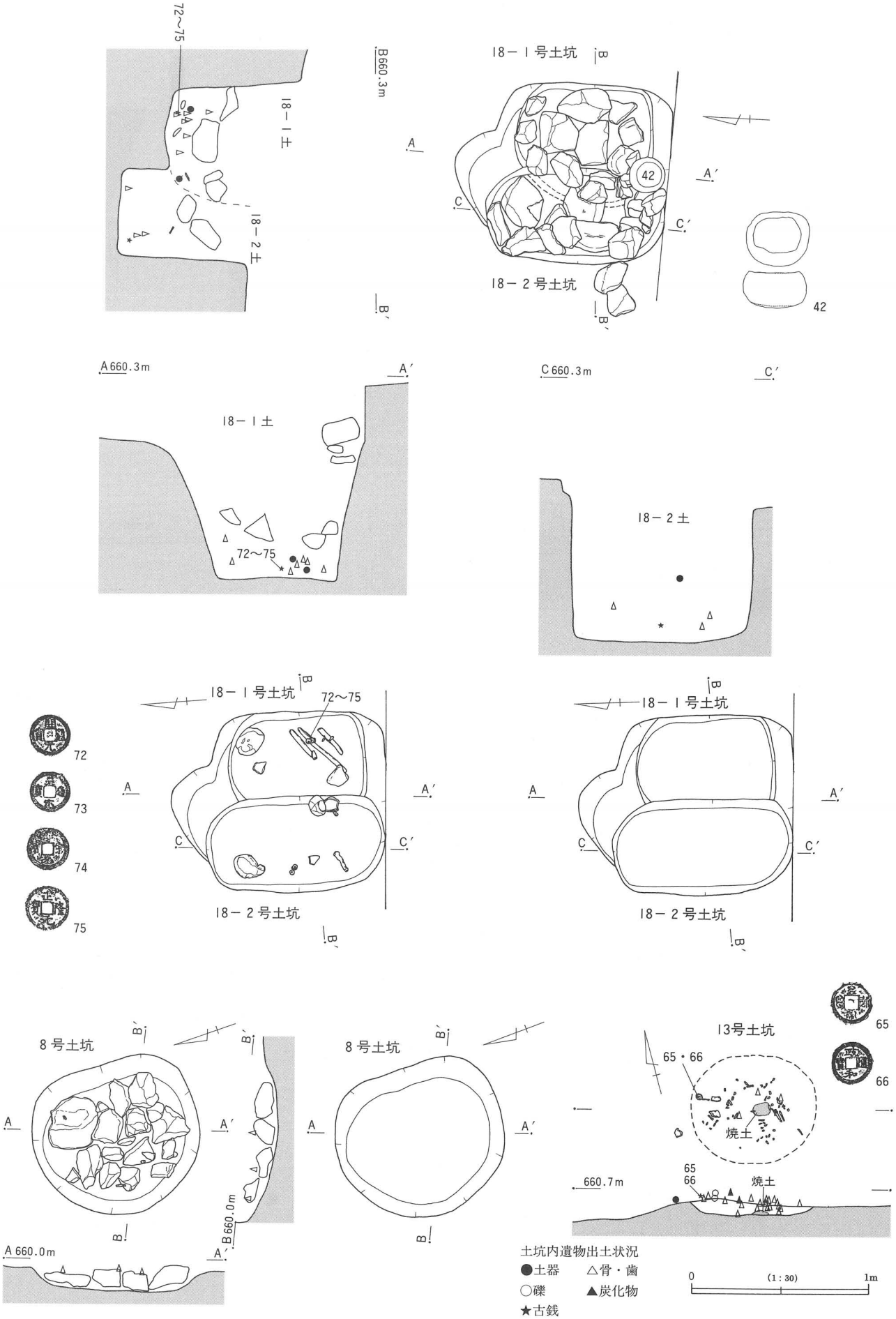
第27図　5号住居跡出土土器



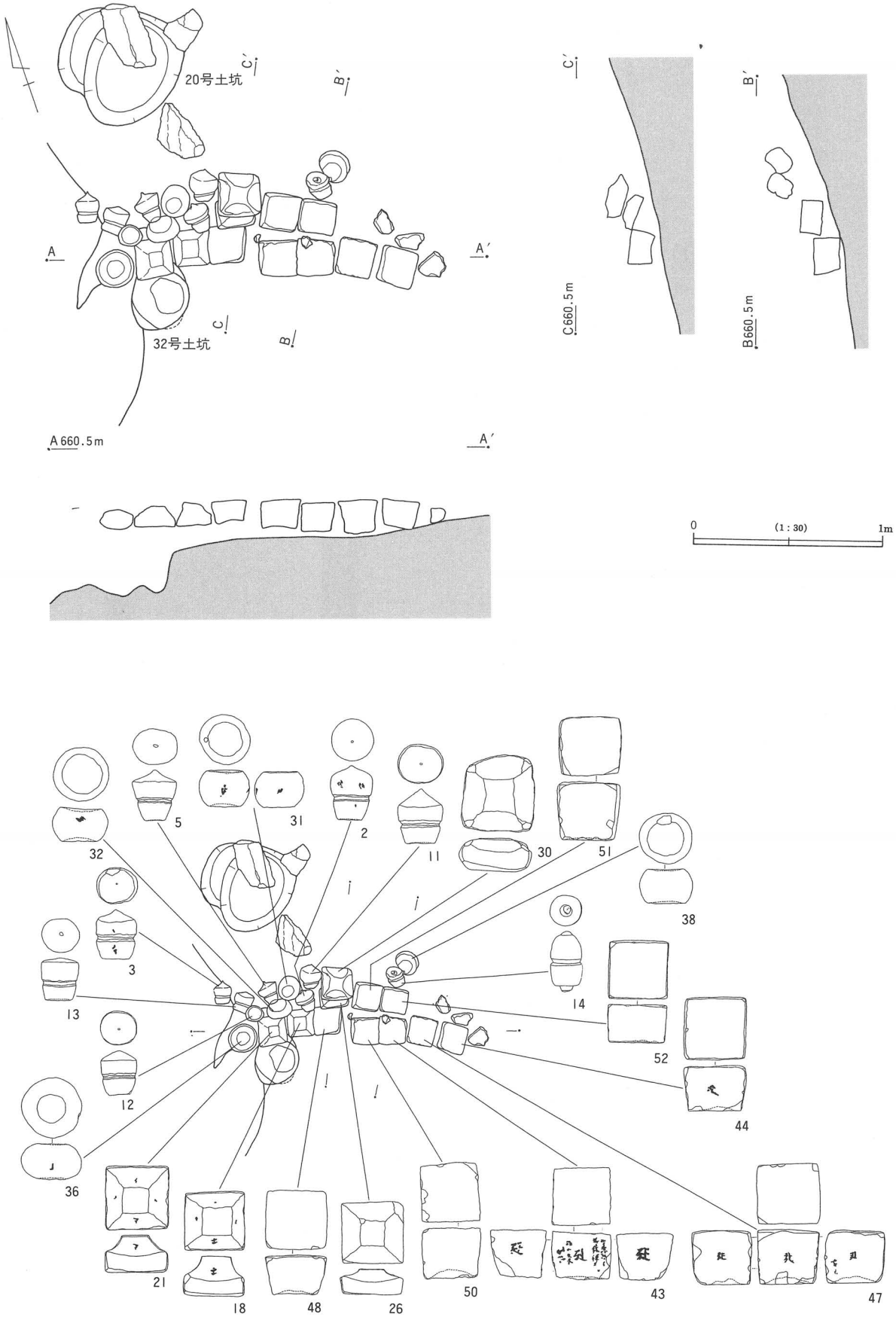
第28図　5号住居跡出土土器・鉄滓



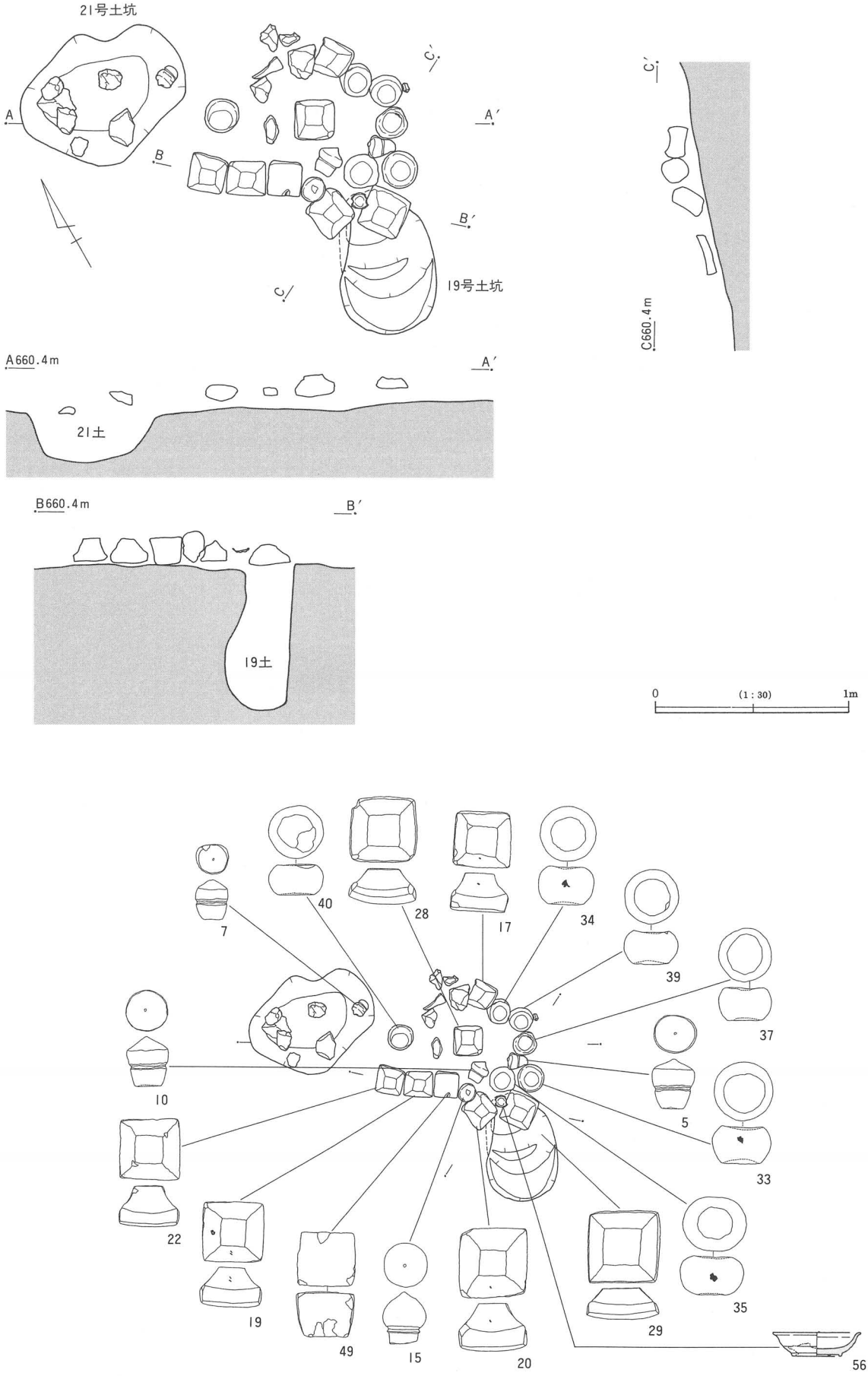
第29図 7・15・16・17・19号土坑



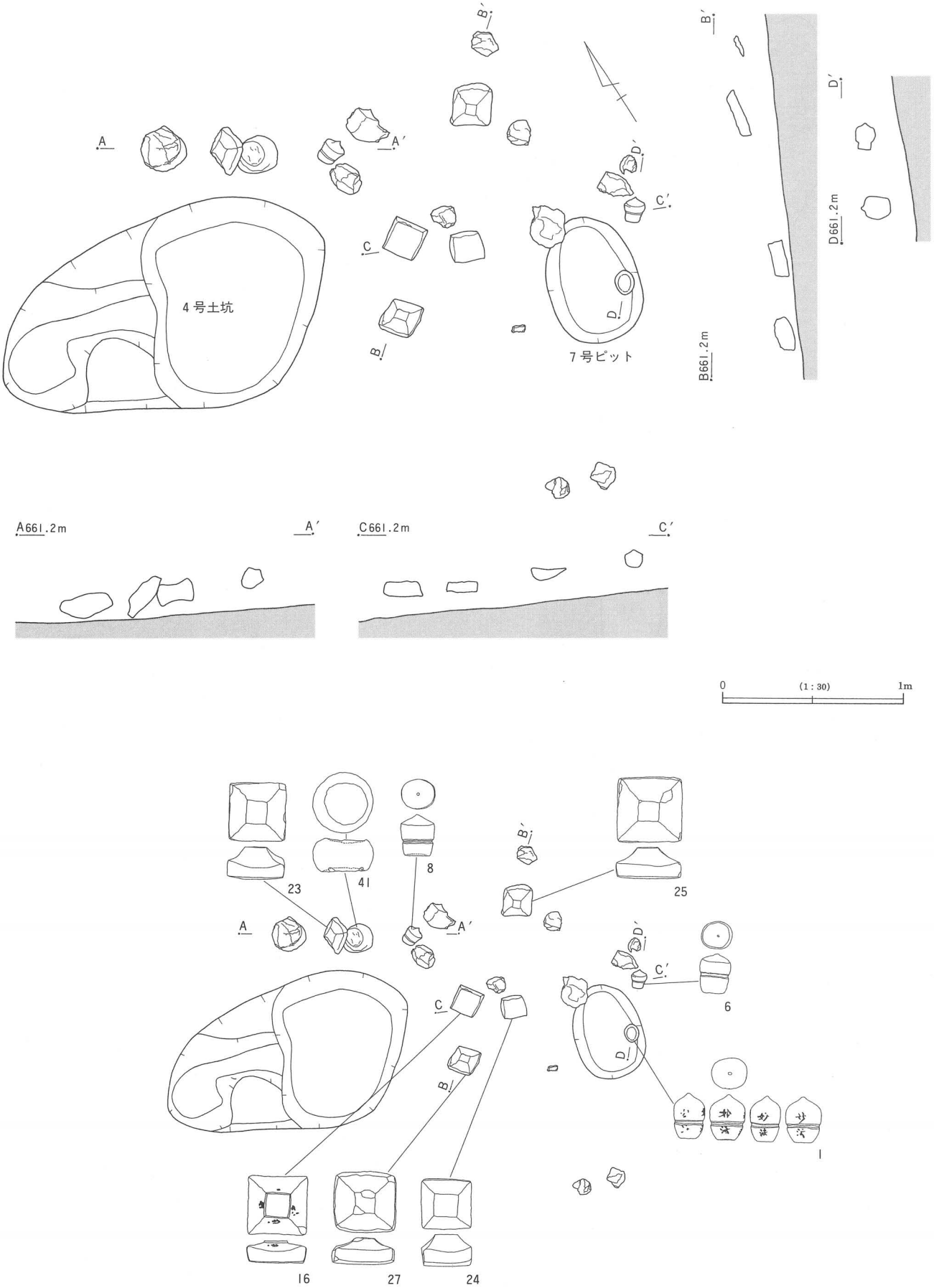
第30図　8・13・18－1・18－2号土坑



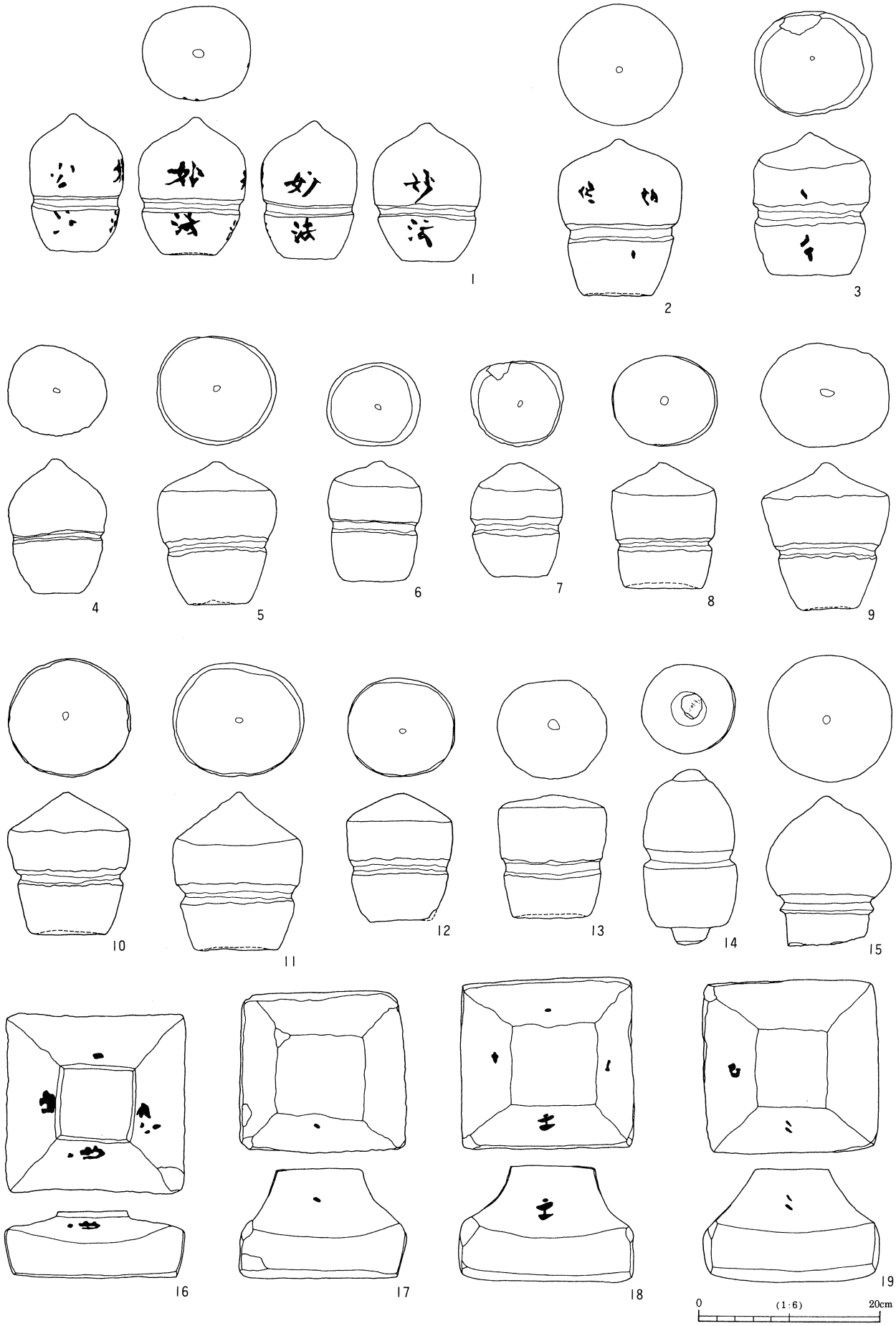
第31図　1号五輪塔集中地点



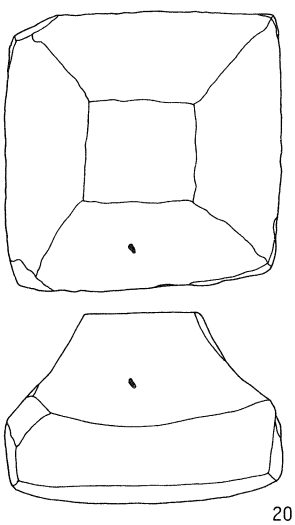
第32図　2号五輪塔集中地点

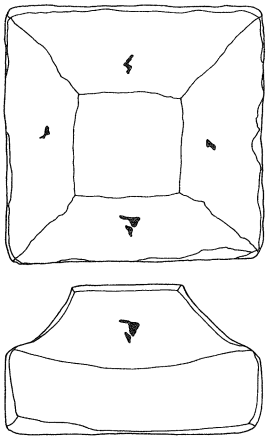


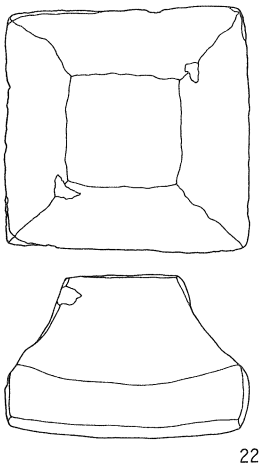
第33図　五輪塔散在地点

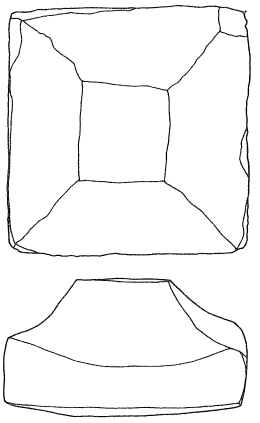


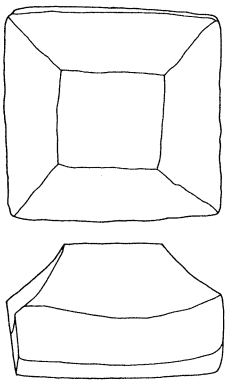
第34図　五輪塔

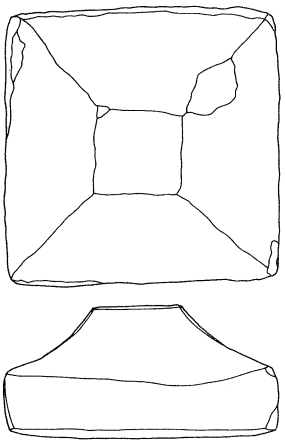


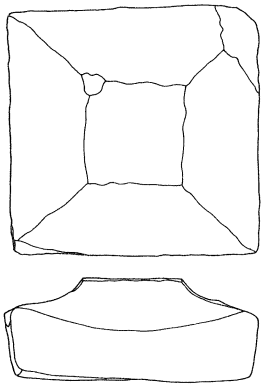


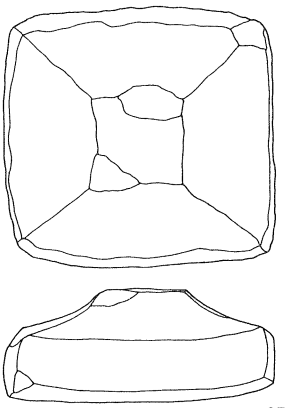


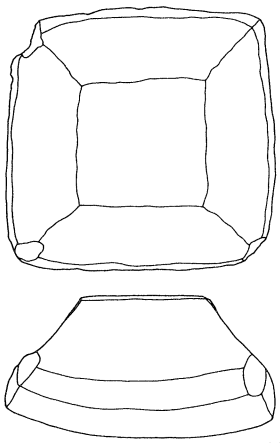


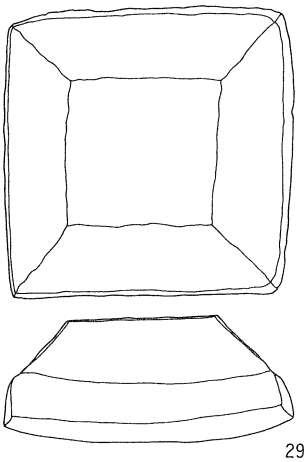


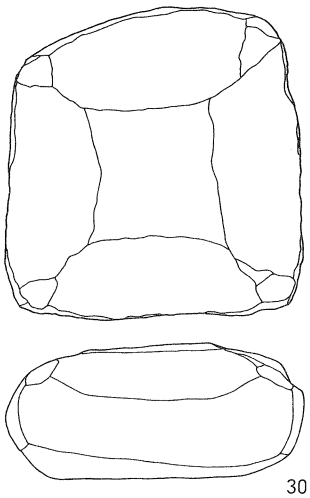


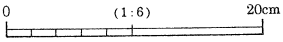




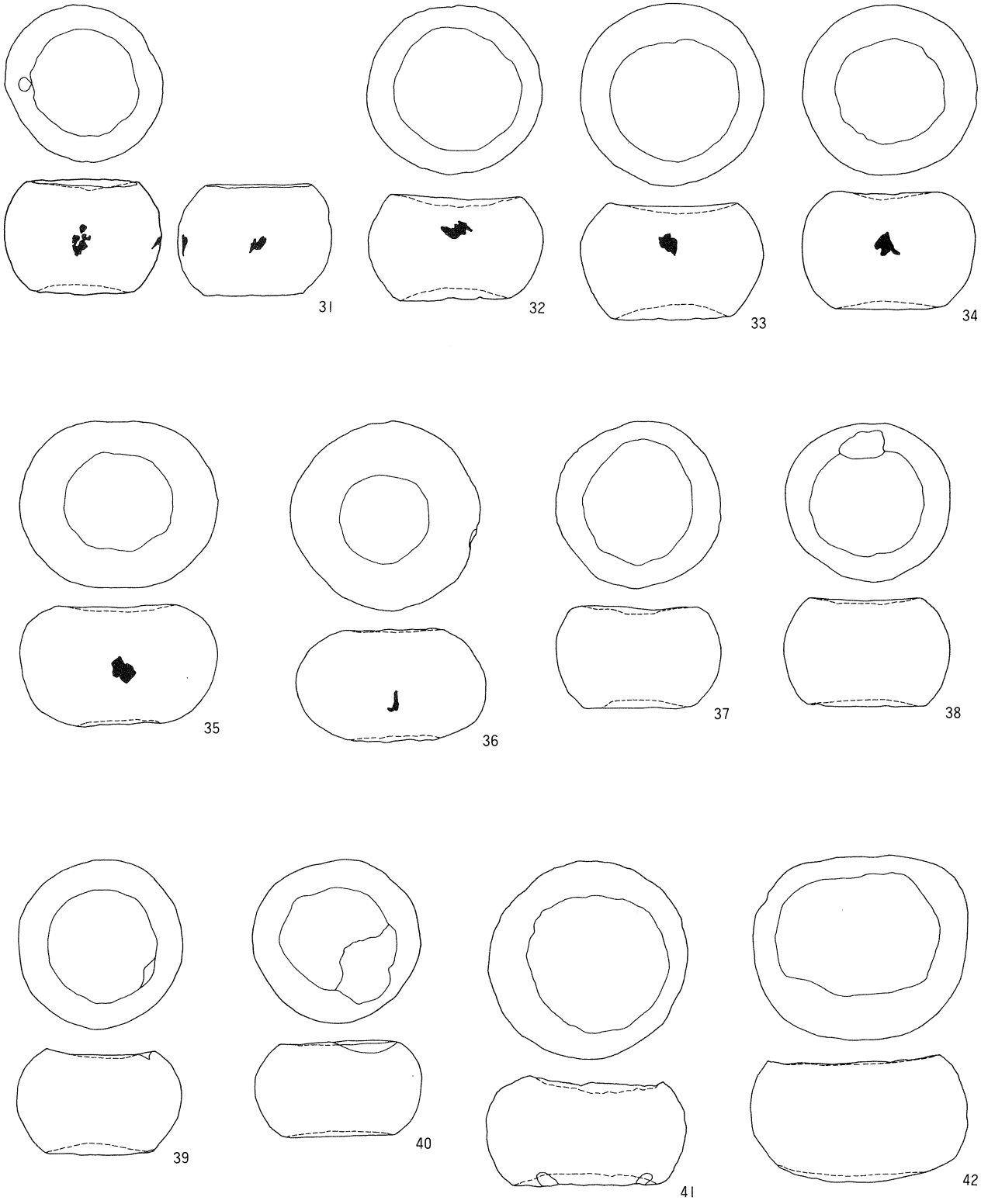




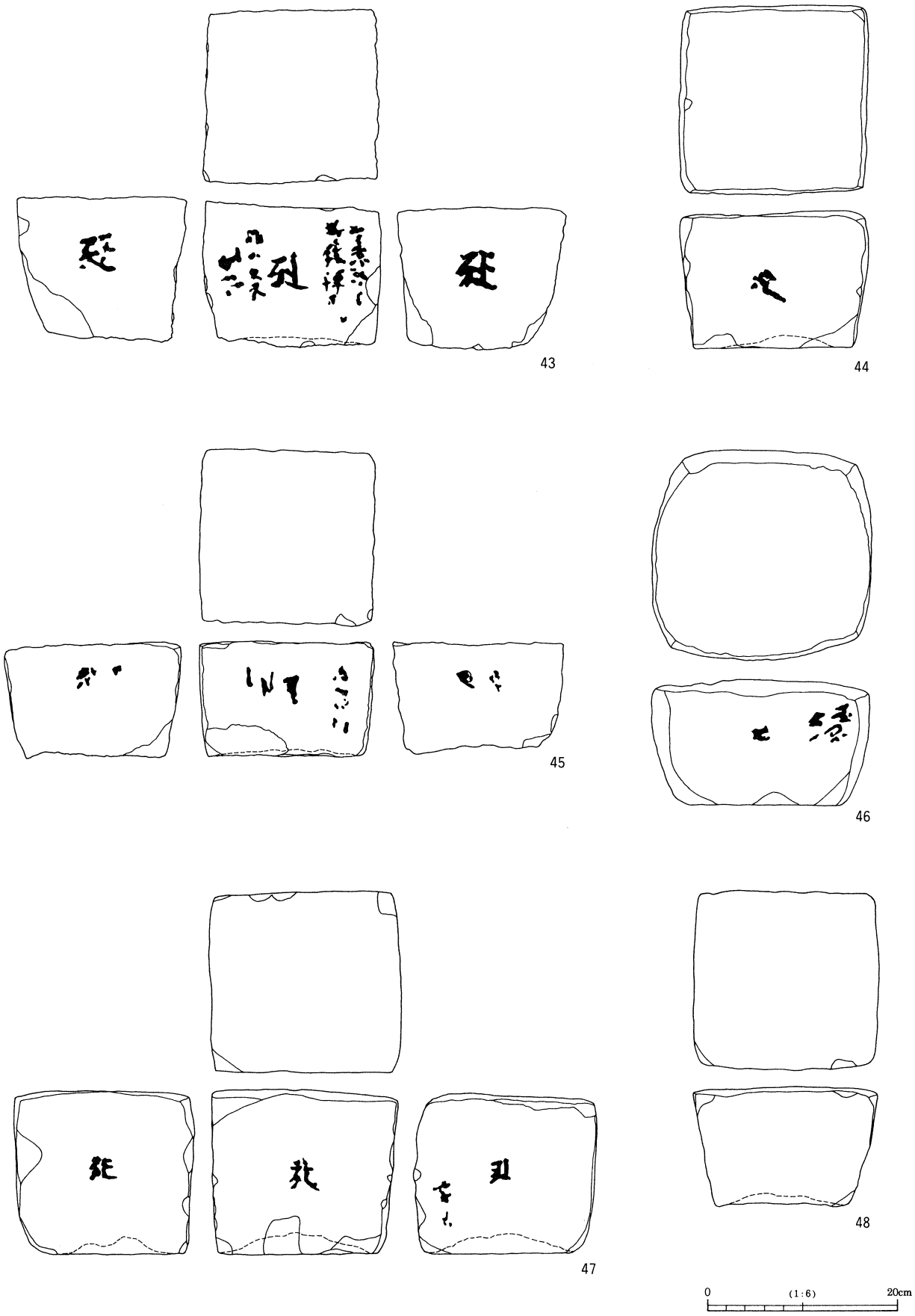




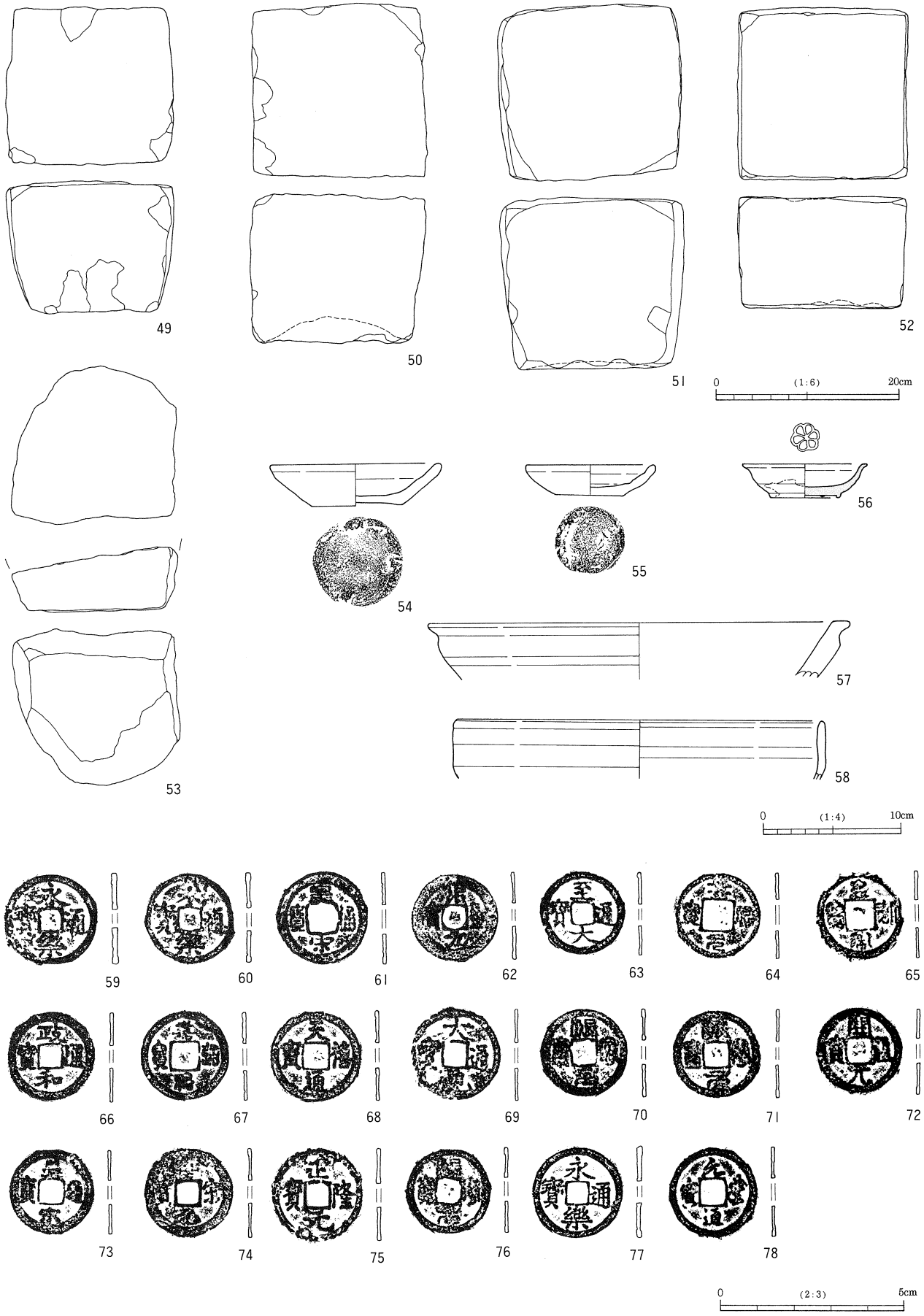
第35図　五輪塔



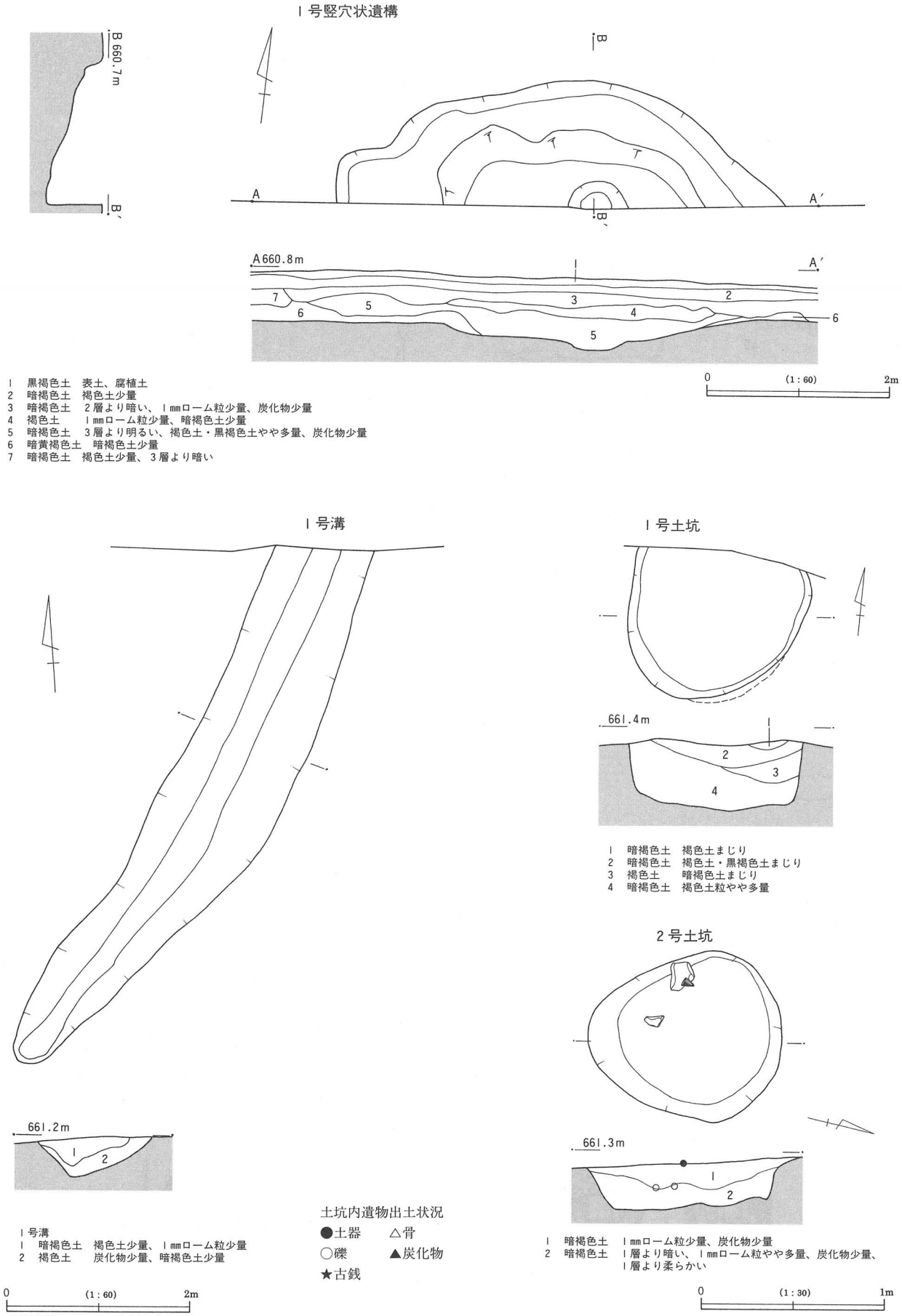
第36図　五輪塔



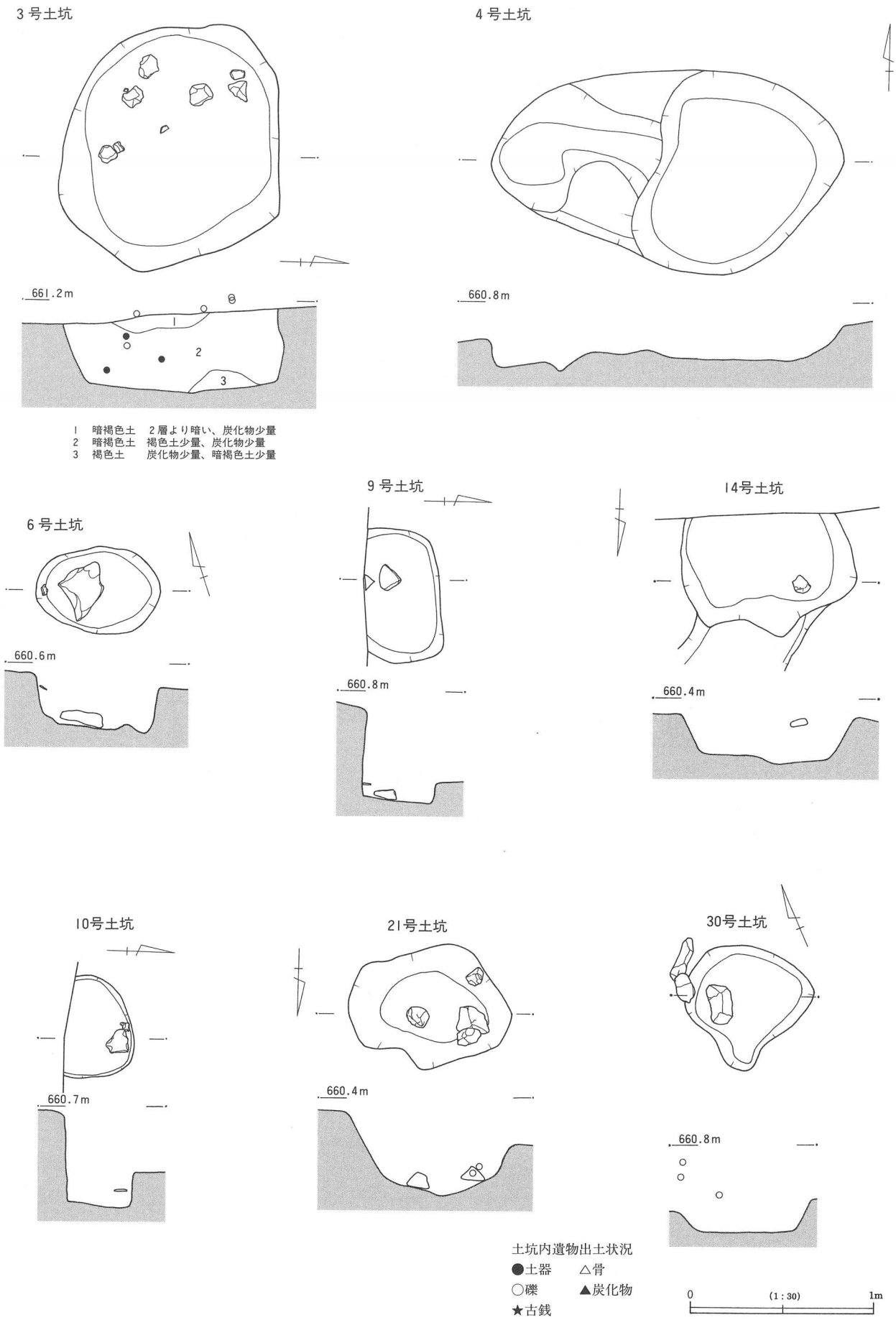
第37図　五輪塔



第38図　五輪塔・中世土器・古銭

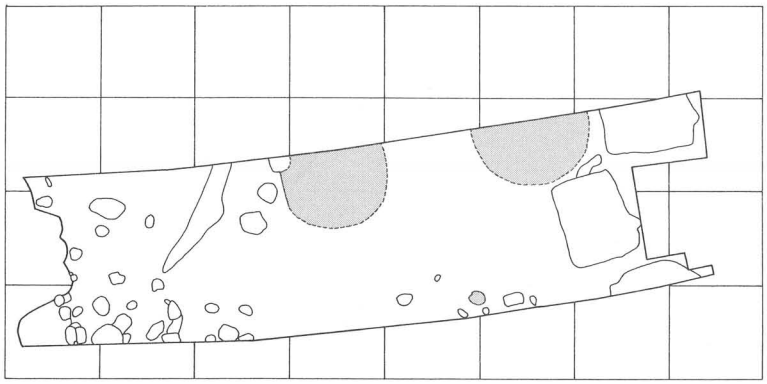


第39図 1号竪穴状遺構、1号溝、1・2号土坑

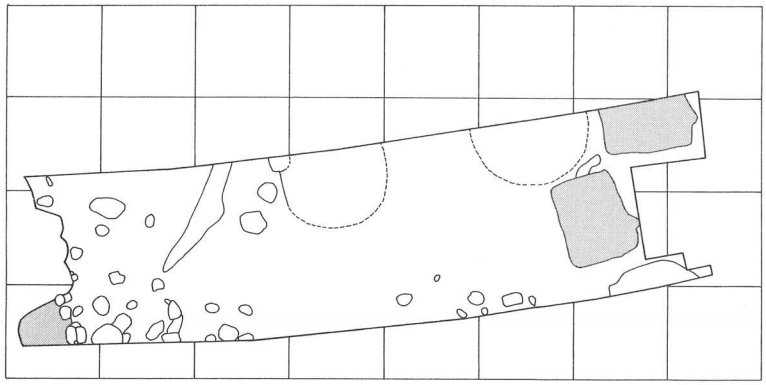


第40図　3・4・6・9・10・14・21・30号土坑

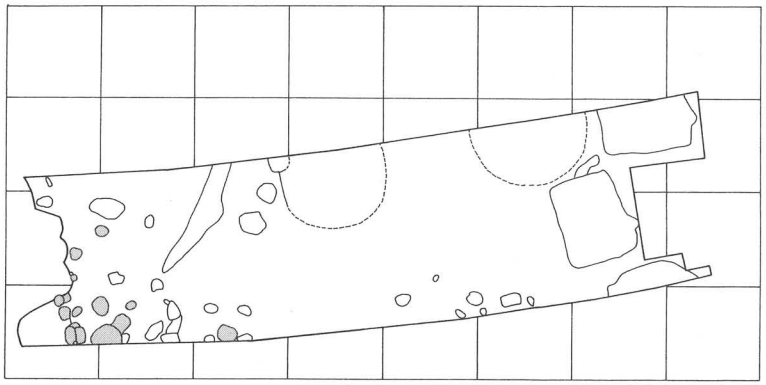
縄文時代



平安時代

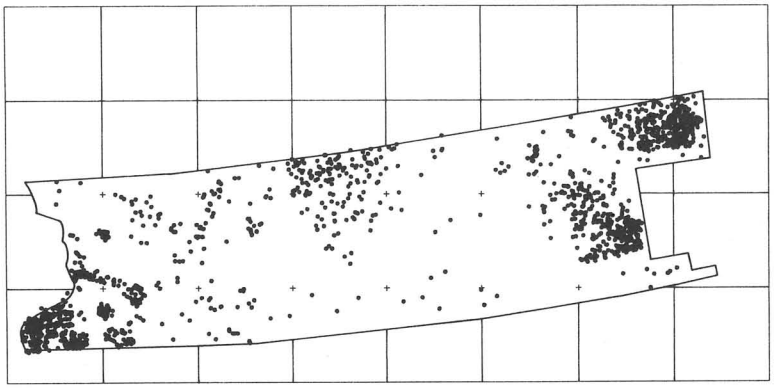


中世

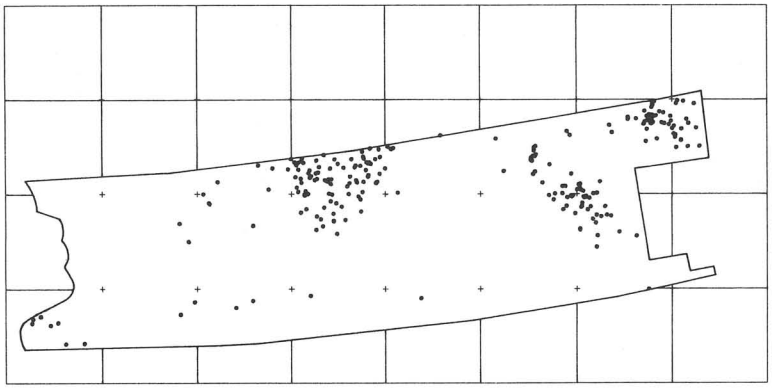


第41図　遺構変遷

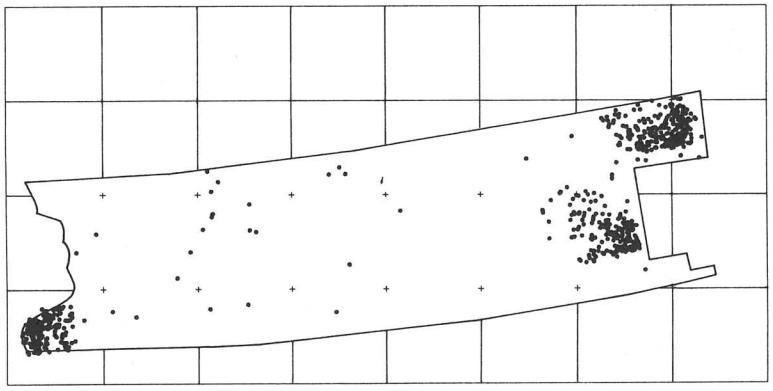
全体



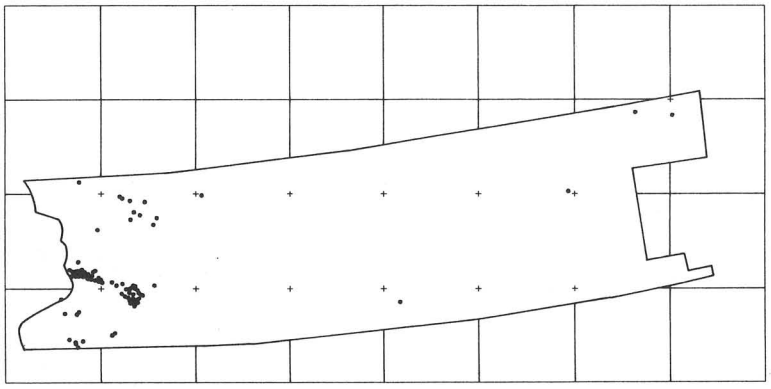
縄文時代



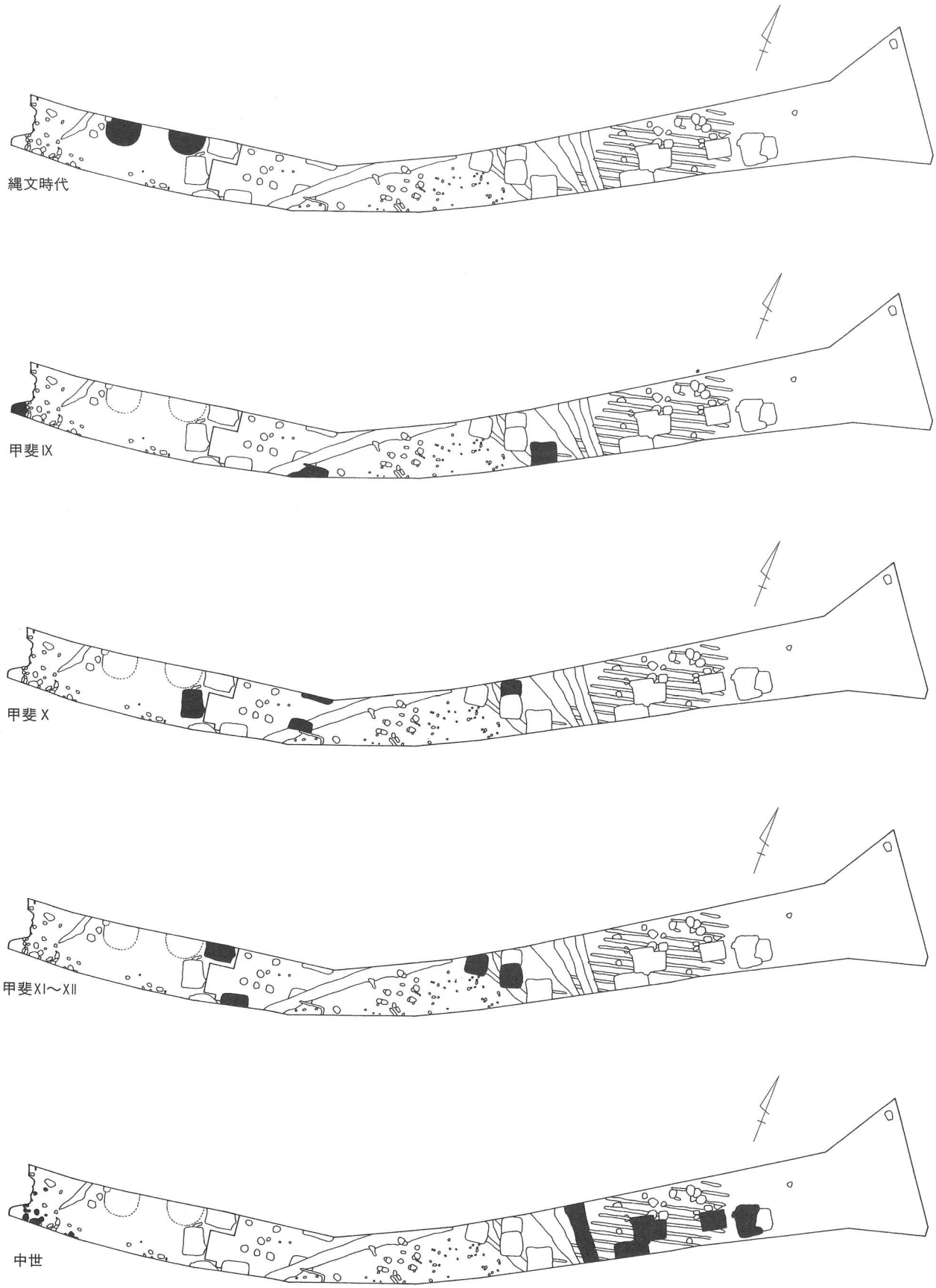
平安時代



中世



第42図　遺物分布



第43図　第１・２次調査区遺構変遷

第2表　土坑・ピット一覧

墓坑

番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	古銭		人骨・歯			形態
								枚数		性別	年齢	
7	29	X－52	119	93	59.3～76.8				○	不明	壮年前半	A(隅丸長方形・礫なし)
11	20	X－54	63	57	58～73.4		○	3	○	不明	小児(10才前後)	C(小円形・礫なし)
12-1	20	X－54	53	(48)	19～28		○	6				C(小円形・礫なし)
15	29	X－53	(88)	74	42.7～58.9				○	女性	壮年	A(隅丸長方形・礫なし)
16	29	X－53・54	(118)	(121)	99.2～101.3		○	6	○	不明	不明	B(隅丸長方形・礫あり)
17	29	X－53	59	(43)	57～63							D(小円形・礫あり)
18-1	30	X－54	78	(42.5)	42～76.1	かわらけ、五輪塔	○	6	○	男性	壮年	B(隅丸長方形・礫あり)
18-2	30	X－54	110	55	66.9～73		○	6	○	男性	壮年前半	B(隅丸長方形・礫あり)
19	29	X－53	52	49	64.5～81		○	3				C(小円形・礫なし)
22	20	X－54	63	44	40.4～44.8	五輪塔						D(小円形・礫あり)

火葬墓または火葬施設

番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	古銭		人骨・歯			形態
								枚数		性別	年齢	
8	30	X－53・54	95	90	2～6				○	不明	成人	礫密集
13	30	W－53・54	(69)	(61)	5～9		○	2	○	不明	青年	礫なし、焼土のみ

その他の土坑

番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1	39	V－52	(84.0)	(97.0)	33.4～92.6	
2	39	V－52, W－52	145.0	94.0	17.7～23.4	
3	40	W－52	132.5	113.0	34～41.5	
4	40	W－53, W－54	192.5	112.5	10.2～16.1	
5	4	V－49	86.0	70.5	17.3～24.3	2住内土坑
6	40	X－52	68.5	48.5	21.5～24.4	
9	40	X－52	74.0	(41.0)	16.8～19.2	
10	40	X－52	56.0	(38.0)	17.5～18.3	
12-2	20	X－54	52.0	(42.0)	20.9～30.7	中世墓？
14	40	X－53	94.0	(60.0)	12.6～24.4	
20	31	W－54	62.0	48.0	65～90	中世墓？
21	40	W－53	87.0	70.0	19.7～42.5	
23		X－49, X－50	(86.0)	(79.0)	37～42	縄文貯蔵穴？
24		X－49	98.0	64.0	18	
25		X－50	76.0	66.0	20	
26		X－52	65.0	53.0	14	
27		X－53	99.0	64.0	21	
28		X－53	129.0	63.0	8	
29		X－53	(77.0)	48.0	15	
30	40	X－53	71.5	69.5	4.9～18.3	
31		V－54, W－54	84.0	58.0	43	
32	31	W－54, X－54	32.0	30.0	61.5～71.5	中世墓？
33		W－51	88.0	69.0	11	3住内
34	6	V－51	49.0	50.0	48～50.2	3住内、貯蔵穴
35		W－51	69.0	61.0	43	3住内
36		V－48	70.0	55.0	10	
37		V－48	(77.0)	59.0	7	

ピット

番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1		X－49	46	37	25	
2		X－49	38	33	32	
3		X－50	55	33	20	
4		W－50	34	29	18	
5		X－50	25	20	38	
6		X－53	27	19	9	
7		W－53	70	50	8	
8		V－54	53	10.5	11	

第3表　石器一覧

図	出土位置	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
5	2住	9	横刃形石器	5.3	12.2	1.2	90.0	ホルンフェルス	
5	2住	10	凹石	10.3	6.9	4.2	432.0	閃緑岩	表裏に凹あり
10	3住	40	二次加工のある剥片	9.0	6.9	1.2	83.0	ホルンフェルス	
10	3住	41	打製石斧	(10.7)	(10.7)	(2.8)	(300.0)	ホルンフェルス	短冊形
10	3住	42	打製石斧	(7.7)	(4.6)	(1.8)	(52.0)	頁岩	短冊形・43と接合
10	3住	43	剥片	4.0	2.7	0.7	3.0	頁岩	42と接合
10	3住	44	横刃形石器	4.6	11.6	1.1	68.0	ホルンフェルス	
10	3住	45	横刃形石器	5.0	8.4	1.2	49.0	ホルンフェルス	
10	3住	46	凹石	10.2	8.1	4.6	513.0	安山岩	表裏に磨面・凹あり、側面整形痕あり
10	3住	47	石皿	27.4	27.0	9.3	9500.0	輝石安山岩	作業面は平坦
13	5住	61	打製石斧	11.9	5.2	2.5	178.0	砂岩	短冊形
13	5住	62	打製石斧	(8.6)	(5.4)	(1.9)	(93.0)	ホルンフェルス	撥形
13	5住	63	打製石斧	(7.2)	(4.6)	(2.3)	(81.0)	ホルンフェルス	撥形
13	5住	64	横刃形石器	4.7	9.5	1.3	51.0	ホルンフェルス	
13	5住	65	棒状礫	(10.6)	(4.4)	(3.8)	(300.0)	砂岩	ハンマー？
13	遺構外	66	磨石	10.0	8.2	6.5	648.0	安山岩	磨面は1
13	1号溝	67	原石	6.7	4.2	3.6	100.0	黒曜石	
13	1号溝	68	原石	2.8	4.4	3.0	53.0	黒曜石	
13	1号溝	69	原石	6.2	3.2	3.4	56.0	黒曜石	

第４表　平安・中世遺物観察表

図	遺物番号	出土位置	器種	器形	残存率	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	その他(cm)	重さ(g)	焼成	胎土	色調	調整	特徴
18	1	1号住	黒色土器	甲斐型坏	体～底部破片	－	－	5.7	－	72.8	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)明赤褐色(内)黒色	(外)ロクロナデ、下部ヘラケズリ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り、外周ヘラケズリ	(外)(底)黒斑あり
18	2	1号住	黒色土器	高台坏	底部破片	－	－	6.7	－	62.9	良好	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)(底)橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、高台付ケナデ	(底)墨書か?高台貼り付け
18	3	1号住	黒色土器	坏	30%	3.7	(12.4)	(6.4)	－	47.0	良好	長石、石英、黒雲母を含む	(外)(底)にぶい褐色(内)黒色	(外)ロクロナデ、下部ヘラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	(外)刻書2ヶ所(春?)
18	4	1号住	黒色土器	坏	40%	5.0	(15.6)	(8.0)	－	93.0	良好	長石、石英、黒雲母を含む	(外)(底)にぶい褐色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	
18	5	1号住	黒色土器	高台坏	底部破片	－	－	(6.2)	－	24.8	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい黄橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転ヘラケズリ、高台付ケナデ	(底)高台貼り付け
18	6	1号住	黒色土器	坏?	体～底部破片	－	－	6.4	－	78.3	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)明赤褐色(内)黒色	(外)ロクロナデ、下部回転ヘラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、回転ヘラケズリ	
18	7	1号住	土師器	坏	底部破片	－	－	6.5	－	73.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)(底)明赤褐色(内)明赤褐色～黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、ヘラケズリ	
18	8	1号住	須恵器	坏	口縁部破片	－	(16.0)	－	－	8.3	堅緻	長石、赤色粒子、黒色粒子を含む	灰黄色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
18	9	1号住	須恵器	高台坏	体～底部破片	－	－	－	－	30.8	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	暗灰黄色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)ロクロナデ	(底)高台貼り付け
18	10	1号住	須恵器	坏?	体～底部破片	－	－	(6.0)	－	20.6	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	暗灰黄色	(外)ロクロナデ、下部指ナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
18	11	1号住	須恵器	坏?	体～底部破片	－	－	(6.8)	－	18.5	堅緻	長石、黒色粒子を含む	灰黄色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転ヘラケズリ	
18	12	1号住	須恵器	坏?	体～底部破片	－	－	(6.0)	－	9.9	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)(底)灰黄褐色(内)灰褐色	(外)ロクロナデ、下部指ナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り、ヘラケズリ?	
18	13	1号住	須恵器	坏?	体～底部破片	－	－	(5.0)	－	11.3	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	暗灰黄色	(外)ロクロナデ、下部指ナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
18	14	1号住	須恵器	甕	頸部破片	－	－	－	－	58.0	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)暗青灰色(内)灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
18	15	1号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	22.0	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)灰色一部黄灰色(内)暗灰黄色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
18	16	1号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	14.2	堅緻	長石、石英、黒雲母を含む	オリーブ灰色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
18	17	1号住	須恵器	甕?	胴部破片	－	－	－	－	30.9	堅緻	長石、石英、赤色粒子を含む	(外)灰色(内)青灰色	(外)タタキメ、ロクロナデ(内)タタキメ、ロクロナデ	
18	18	1号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	54.2	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)青灰色(内)灰色	(外)タタキメ(内)タタキメ、ロクロナデ	
18	19	1号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	21.9	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)灰オリーブ色(内)灰白色	(外)タタキメ、釉薬ガケ(内)タタキメ、ロクロナデ	
18	20	1号住	須恵器	長頸壺	頸部破片	－	－	－	－	17.5	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)灰色一部黒色(内)暗灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
18	21	1号住	陶磁器	壺?	体～底部破片	－	－	(9.0)	－	40.4	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)暗褐色、釉薬部分灰オリーブ色(内)(底)褐灰色	(外)ロクロナデ、釉薬ガケ(内)ロクロナデ(底)ロクロナデ	(底)高台貼り付け
18	22	1号住	灰釉陶器	皿	体～底部破片	－	－	(4.0)	－	24.9	堅緻	長石、黒色粒子を含む	(外)(底)灰白色(内)灰オリーブ色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、釉薬ガケ(底)回転糸切り	(底)外周一部釉薬付着
18	23	1号住	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	219.0	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	暗赤褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
18	24	1号住	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	49.5	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)赤褐色(内)暗褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	(内)粘土の継ぎ目あり
18	25	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	－	－	－	32.1	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)黒褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ロクロナデ、胴部ヨコハケメ	
18	26	1号住	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	88.8	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	(外)赤褐色(内)黒褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
18	27	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(46.6)	－	－	57.3	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)黒褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	28	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(46.4)	－	－	36.7	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	橙色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ヨコハケメ、胴部ロクロナデ	
19	29	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(45.2)	－	－	37.2	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)明赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	30	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(41.6)	－	－	22.8	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)にぶい黄橙色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ロクロナデ、胴部ヨコハケメ	
19	31	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(40.4)	－	－	45.0	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子を含む	にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	32	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(32.8)	－	－	109.8	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)赤褐色(内)黒褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	33	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(32.5)	－	－	54.6	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母を含む	(外)暗赤褐色(内)黒褐色	(外)口縁部ヨコハケメ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	34	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(32.4)	－	－	49.3	良好	長石、石英、金雲母を含む	にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	35	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(31.2)	－	－	60.3	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子を含む	明赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ロクロナデ、胴部ナナメハケメ	
19	36	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(29.0)	－	－	63.8	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい橙色一部赤褐色(内)にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	37	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(29.8)	－	－	66.6	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ヨコハケメ、胴部ロクロナデ	
19	38	1号住	土師器	甲斐型小型甕	口縁部破片	－	(8.6)	－	－	7.3	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	39	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(16.0)	－	－	16.4	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子を含む	(外)暗赤褐色(内)にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	40	1号住	土師器	甲斐型小型甕	口縁～胴部破片	－	(14.0)	－	－	29.4	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)赤褐色(内)明赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	41	1号住	土師器	甲斐型甕	胴～底部破片	－	－	(6.7)	－	38.1	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	(外)赤褐色一部黒色(内)黒色一部赤褐色(底)赤褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ(底)木葉痕?	
19	42	1号住	土師器	甲斐型甕	胴～底部破片	－	－	(12.0)	－	34.7	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	にぶい赤褐色	(外)ロクロナデ(内)ヨコハケメ(底)木葉痕	
19	43	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(27.2)	－	－	34.5	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	にぶい橙色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ロクロナデ	
19	44	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(27.2)	－	－	84.4	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子を含む	(外)明赤褐色(内)にぶい褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部ナナメハケメ(内)ヨコハケメ	
19	45	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(27.6)	－	－	66.7	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)にぶい赤褐色一部黒色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ヨコハケメ、胴部ナナメハケメ	
19	46	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(26.4)	－	－	63.6	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	にぶい褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
19	47	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(22.7)	－	－	63.6	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	

図	遺物番号	出土位置	器種	器形	残存率	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	その他(cm)	重さ(g)	焼成	胎土	色調	調整	特徴
19	48	1号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	—	(21.4)	—	—	22.3	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ヨコハケメ、胴部ロクロナデ	
22	1	4号住	土師器	甲斐型坏	50%	5.7	(13.4)	5.5	—	?	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	(内)暗文(みこみ部にはなし)
22	2	4号住	土師器	甲斐型坏	底部破片	—	—	(5.5)	—	21.3	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい赤褐色(内)明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、ヘラケズリ	(内)暗文(みこみ部にはなし)
22	3	4号住	土師器	甲斐型坏	30%	4.3	(10.4)	(6.0)	—	34.5	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	(外)墨書
22	4	4号住	土師器	甲斐型坏	70%	4.2	(11.4)	6.2	—	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り、ヘラケズリ	
22	5	4号住	土師器	甲斐型坏	底部破片	—	—	4.8	—	33.3	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部回転へラケズリ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り、へラケズリ	
22	6	4号住	土師器	甲斐型皿	30%	2.5	(14.7)	(5.4)	—	69.1	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、回転へラケズリ	(内)暗文
22	7	4号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	—	(23.0)	—	—	38.4	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)赤褐色(内)にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ロクロナデ、胴部ヨコハケメ	
22	8	4号住	土師器	坏	底部破片	—	—	(6.0)	—	37.2	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	にぶい黄橙色	(外)ロクロナデ、下部回転へラケズリ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
22	9	4号住	土師器	坏	底部破片	—	—	(5.5)	—	24.3	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(内)明赤褐色(底)にぶい黄橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
22	10	4号住	土師器	坏?	底部破片	—	—	(5.0)	—	28.0	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(内)にぶい橙色(底)にぶい褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
22	11	4号住	土師器	坏?	体～底部破片	—	—	(6.0)	—	33.7	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
22	12	4号住	黒色土器	坏	口縁部破片	—	(5.5)	—	—	11.0	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ	(外)墨書
22	13	4号住	黒色土器	坏	30%	6.2	(14.8)	(7.2)	—	?	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)(内)にぶい橙色(底)明赤褐色一部黒色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	
22	14	4号住	黒色土器	高台坏	60%	7.0	(15.0)	7.6	—	?	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい橙色(内)黒色(底)黒色一部にぶい橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転へラケズリ、高台付ケナデ	(底)高台貼り付け
22	15	4号住	黒色土器	坏	50%	6.0	(15.0)	(6.2)	—	?	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい橙色(内)黒色(底)にぶい橙色一部黒色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	(外)墨書
22	16	4号住	黒色土器	坏	70%	5.3	(12.9)	6.0	—	?	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい橙、一部明赤褐色(内)黒色(底)にぶい橙色	(外)ロクロナデ、下部回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、へラケズリ	(外)墨書
22	17	4号住	黒色土器	高台坏	口縁～底部破片	7.2	(15.8)	(9.7)	—	79.8	良好	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)(底)橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ、高台部回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ロクロナデ、回転へラケズリ	(底)高台削り出し
22	18	4号住	黒色土器	高台坏	口縁～底部破片	(7.3)	(15.6)	(9.0)	—	79.9	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ、高台部回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転へラケズリ	(外)墨書(底)高台削り出し
22	19	4号住	黒色土器	坏	口縁～底部破片	4.0	(12.4)	(6.0)	—	43.7	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)明赤褐色一部橙色(内)黒色(底)にぶい橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	
22	20	4号住	黒色土器	坏	25%	(4.7)	(13.0)	(6.8)	—	49.0	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ	(底)外周以外剝落
22	21	4号住	黒色土器	蓋	口辺部破片	—	(17.0)	—	—	12.8	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ	
22	22	4号住	須恵器	坏	30%	3.6	—	(5.0)	—	33.6	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)ヘラケズリ	
22	23	4号住	須恵器	坏	口縁～体部破片	—	(12.4)	—	—	14.4	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
22	24	4号住	須恵器	壺	胴部破片	—	—	—	—	38.3	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)褐灰色、釉薬部分オリーブ黒色(内)褐灰色	(外)ロクロナデ、釉薬ガケ(内)ロクロナデ	
22	25	4号住	須恵器	甕	胴部破片	—	—	—	—	36.2	堅緻	長石、石英、赤色粒子を含む	(外)黄灰色(内)黒褐色	(外)ロクロナデ、タタキメ(内)ロクロナデ	
22	26	4号住	須恵器	壺	胴部破片	—	—	—	—	52.3	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)暗灰黄色一部赤灰色(内)灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
22	27	4号住	黒色土器	蓋	つまみ部破片	—	—	—	—	8.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)にぶい橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ	
22	28	4号住	須恵器	蓋	口辺部破片	—	(15.0)	—	—	9.4	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)暗灰黄色(内)灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
22	29	4号住	須恵器	蓋	口辺部破片	—	(15.0)	—	—	14.5	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	黄灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
27	2	5号住	土師器	甲斐型坏	100%	4.3	11.8	4.3	—	92.3	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	(外)墨書(内)暗文(みこみ部にはなし)
27	3	5号住	土師器	甲斐型坏	70%	3.6	(11.0)	4.7	—	?	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、へラケズリ	(外)墨書(南?)(内)暗文(みこみ部にはなし)
27	4	5号住	土師器	甲斐型高台坏	体～底部破片	—	—	(8.0)	—	43.8	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、回転へラケズリ	(内)暗文(みこみ部にはなし)(底)高台削り出し
27	5	5号住	土師器	甲斐型坏	30%	4.3	(10.2)	(5.0)	—	35.5	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	にぶい赤褐色	(外)ロクロナデ、下部へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	(内)暗文(みこみ部にはなし)
27	6	5号住	土師器	高台坏	底部破片	—	—	5.7	—	79.1	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	橙色	(外)ロクロナデ、下部回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ヘラケズリ	(底)高台削り出し
27	7	5号住	土師器	甲斐型坏?	体部破片	—	—	—	—	1.1	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、へラケズリ(内)ロクロナデ	(外)墨書
27	8	5号住	土師器	甲斐型坏	体部破片	—	—	—	—	6.0	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、へラケズリ(内)ロクロナデ	(外)墨書
27	9	5号住	土師器	甲斐型皿	95%	1.9	14.0	5.4	—	?	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転へラケズリ	(内)暗文
27	10	5号住	土師器	甲斐型皿	口縁～底部破片	(2.7)	(13.3)	(4.0)	—	18.4	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、下部回転へラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転へラケズリ	
27	11	5号住	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	—	(26.6)	—	—	44.9	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
27	12	5号住	土師器	甲斐型甕	胴～底部破片	—	—	(8.9)	—	53.7	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)明赤褐色一部黒色(内)暗赤褐色(底)明赤褐色一部黒褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ(底)木葉痕	
27	13	5号住	土師器	甲斐型甕	胴～底部破片	—	—	5.0	—	83.6	やや不良	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(内)暗赤褐色(底)褐灰色一部にぶい橙色	(外)タテハケメ(内)タテハケメ(底)木葉痕	

図	遺物番号	出土位置	器種	器形	残存率	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	その他(cm)	重さ(g)	焼成	胎土	色調	調整	特徴
27	14	5号住	土師器	甲斐型小型甕	口縁～胴部破片	－	(16.8)	－	－	80.8	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)黄褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)口縁部ロクロナデ、胴部ヨコハケメ	
27	15	5号住	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	－	(35.8)	－	－	38.5	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	にぶい赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
27	16	5号住	土師器	甲斐型鉢	口縁～胴部破片	－	(38.0)	－	－	140.7	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部タテハケメ(内)ヨコハケメ	
27	17	5号住	土師器	甲斐型甕	底部破片	－	－	(8.0)	－	38.6	やや不良	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)褐灰色(内)暗赤褐色(底)暗赤褐色一部黒色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ(底)木葉痕	
27	18	5号住	土師器	小型甕	胴部破片	－	－	－	－	16.8	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)明赤褐色(内)橙色	(外)ロクロナデ、カキメ(内)ロクロナデ	
27	19	5号住	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	52.9	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)暗赤褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
27	20	5号住	黒色土器	坏	85%	4.3	13.0	6.2	－	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい黄橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	(外)墨書(南)
27	21	5号住	黒色土器	坏	50%	4.3	(13.0)	6.0	－	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい褐色口縁部黒色(内)黒色(底)褐灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	(外)墨書(南)
27	22	5号住	黒色土器	坏	90%	4.5	(13.6)	5.3	－	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい褐色口縁部黒色(内)黒色(底)にぶい褐色	(外)ロクロナデ、下部ヘラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	(外)墨書(南?)
27	23	5号住	黒色土器	坏	100%	4.0	10.5	5.1	－	114.3	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい橙色口縁部黒色(内)黒色(底)にぶい橙色	(外)ロクロナデ、下部回転ヘラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、回転ヘラケズリ	
27	24	5号住	黒色土器	坏	40%	5.7	(15.2)	5.8	－	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい褐色(内)黒色(底)黒色一部にぶい褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	
27	25	5号住	黒色土器	坏	60%	4.5	(12.8)	5.7	－	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい橙色(内)黒色一部橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	
27	26	5号住	黒色土器	坏	99%	4.1	12.9	6.8	－	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	
27	27	5号住	黒色土器	坏	90%	4.6	12.9	5.7	－	?	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい黄橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	
28	28	5号住	黒色土器	高台皿	95%	3.0	14.0	6.8	－	160.1	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)明赤褐色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ロクロナデ	(底)刻書(×)、高台貼り付け
28	29	5号住	黒色土器	坏	底部破片	－	－	(6.6)	－	36.7	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい黄橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	
28	30	5号住	黒色土器	皿?	底部破片	－	－	4.9	－	45.1	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい黄橙色一部黒色(内)黒色(底)にぶい黄橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、一部ヘラケズリ	
28	31	5号住	黒色土器	高台坏	底部破片	－	－	7.3	－	66.1	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)にぶい橙色(内)黒色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り、高台坏ケナデ	(底)高台貼り付け
28	32	5号住	土師器	小型甕	口縁～胴部破片	－	(14.2)	－	胴径(13.9)	97.9	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部カキメ(内)口縁部カキメ、胴部ロクロナデ	
28	33	5号住	土師器	小型甕	口縁～胴部破片	－	(12.2)	－	頸径(10.3)	37.8	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部カキメ(内)ロクロナデ	
28	34	5号住	土師器	小型甕	口縁～胴部破片	－	(10.2)	－	－	20.5	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)にぶい赤褐色(内)明黄褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部カキメ(内)口縁部カキメ、胴部ロクロナデ	
28	35	5号住	土師器	甲斐型甕	胴～底部破片	－	－	(10.9)	－	57.6	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	にぶい赤褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ(底)木葉痕?	
28	36	5号住	土師器	小型甕?	胴～底部破片	－	－	(8.0)	－	27.7	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、カキメ(内)ロクロナデ、回転ヘラケズリ(底)回転糸切り、外周ヘラナデ	
28	37	5号住	土師器	甕?	底部破片	－	－	(7.0)	－	17.2	良好	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)(内)にぶい橙色(底)にぶい橙色一部黒色	(外)ロクロナデ、カキメ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り、外周ヘラナデ	
28	38	5号住	土師器	小型甕	胴～底部破片	－	－	(7.6)	－	38.8	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	赤褐色	(外)カキメ、下部回転ヘラケズリ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り、ヘラケズリ	
28	39	5号住	土師器	小型甕	胴部破片	－	－	－	－	49.5	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	明赤褐色	(外)ロクロナデ、カキメ(内)ロクロナデ	
28	40	5号住	土師器	小型甕	胴部破片	－	－	－	－	22.1	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)明赤褐色(内)橙色	(外)ロクロナデ、カキメ(内)ロクロナデ	
28	41	5号住	須恵器	坏	口縁～体部破片	－	(12.3)	－	－	10.9	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
28	42	5号住	須恵器	坏	口縁部破片	－	(12.0)	－	－	13.8	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
28	43	5号住	須恵器	大甕	頸部破片	－	－	－	頸径(14.8)	255.0	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)暗灰色、釉薬部分オリーブ黒・黄褐色(内)暗灰色	(外)ロクロナデ、釉薬ガケ(内)ロクロナデ	
28	44	5号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	378.0	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)オリーブ黒色(内)灰オリーブ色	(外)タタキメ(内)タタキメ、ヨコハケメ	
28	45	5号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	55.2	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(内)灰オリーブ色	(外)タタキメ(内)ヨコハケメ	
28	46	5号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	82.0	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)オリーブ黒色(内)灰オリーブ色	(外)タタキメ(内)ヨコハケメ	
28	47	5号住	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	54.8	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)オリーブ黒色(内)灰オリーブ色	(外)タタキメ(内)ヨコハケメ	
28	48	5号住	灰釉陶器	高台坏	底部破片	－	－	8.0	－	95.7	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(内)浅黄色、釉薬部分緑灰色(底)浅黄色	(外)ロクロナデ、釉薬ガケ(内)ロクロナデ、釉薬ガケ(底)回転ヘラケズリ、高台付ケナデ	(底)高台貼り付け
28	49	5号住	須恵器	甕	底部破片	－	－	(16.8)	－	115.3	堅緻	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)暗灰黄色(内)黄灰色	(外)ロクロナデ、タタキメ、下部回転ヘラケズリ(内)ロクロナデ(底)ヘラケズリ	
28	50	5号住	鉄滓			最大長7.8	最大幅10.6	最大厚4.5		413.0					
26	1	5号住	石皿?			最大長36.1	最大幅23.6	最大厚3.0		2500.0	石材安山岩				
38	54	18-1号土坑	土師質土器	かわらけ(皿)	100%	3.0	12.2	6.5	－	171.5	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	(外)(底)橙色(内)橙色一部明赤褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
38	55	18-1号土坑	土師質土器	かわらけ(小皿)	99%	2.3	9.2	4.8	－	83.8	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子を含む	(外)(底)明赤褐色(内)橙色一部明赤褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
38	56	2号 五集	灰釉陶器	小型端反皿	80%	2.5	8.6	5.0	－	69.7	堅緻	長石、石英、黒色粒子を含む	(外)(内)灰オリーブ色一部オリーブ灰色(底)灰オリーブ色	(外)ロクロナデ、釉薬ガケ(内)ロクロナデ、釉薬ガケ(底)ロクロナデ、釉薬ガケ	(底)高台削り出し、焼成時の支えの粘土付着
38	57	1号溝	土師質土器	鉢	口縁部破片	－	(30.4)	－	－	98.3	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子を含む	橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
38	58	X－50	土師質土器	内耳土器	口縁部破片	－	(26.8)	－	－	16.5	良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子を含む	にぶい黄橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	(外)コゲ付着

第5表　墨書土器一覧

遺構名	遺物番号	釈文	種別	器　質	器種	記銘部位	方向	時　期	出土位置	備考
1号住	1	□	墨書？	甲斐型土器	坏	体外・底外		甲斐XI～XII		黒斑？
	2	天？	墨書	黒色土器	高台坏	底外			住居北東部上層	
	3	春	刻書	黒色土器	坏	体外	倒位		住居東部中層	
		春？	刻書			体外	正位			
4号住	3	□	墨書	甲斐型土器	坏	体外		甲斐VIII	住居中央南西寄り	
	12	□	墨書	黒色土器	坏	体外			住居中央西寄り中層	
	15	□	墨書	黒色土器	坏	体外			住居南壁際	
	16	□	墨書	黒色土器	坏	体外			住居北西部	
	18	□	墨書	黒色土器	高台坏	体外			住居北部	
5号住	2	足	墨書	甲斐型土器	坏	体外	正位？	甲斐X	住居南東部下層	
	3	南？	墨書	甲斐型土器	坏	体外	正位	甲斐X		
	7	□	墨書	甲斐型土器	坏？	体外				
	8	□	墨書	甲斐型土器	坏	体外				
	20	南	墨書	黒色土器	坏	体外	倒位		住居南東部下層	
	21	南	墨書	黒色土器	坏	体外	正位		住居南東部下層	
	22	南？	墨書	黒色土器	坏	体外	正位		住居西脇下層	
	28	×	刻書	黒色土器	高台坏	底外			住居北東壁際	

第6表　古銭一覧

No.	図	遺物番号	出土位置	銭貨名	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	初鋳年	備　考
1	38	59	11土	永楽通寶	2.5	2.3	0.15	4.8	1408	
2	38	60	11土	永楽通寶	2.45	2.5	0.12	3.2	1408	
3			11土	不明	2.35	2.4	0.18	2.3		拓本なし
4	38	61	12-1土	皇宋通寶	2.5	2.5	0.1	3.4	1038	
5	38	62	12-1土	紹聖元寶	2.4	2.28	0.12	3.2	1094	
6	38	63	12-1土	至大通寶	2.27	2.3	0.1	2.5	1285	
7		64	12-1土	○祐元寶	2.32	2.3	0.1	2.3		嘉祐元寶？・至道元寶？
8			12-1土	不明	2.4	2.4	0.1	3.2		拓本なし
9			12-1土	不明	2.42	2.32	0.1	2.8		拓本なし
10	38	65	13土	皇宋通寶	2.4	2.4	0.1	3.2	1038	
11	38	66	13土	政和通寶	2.42	2.42	0.1	2.7	1111	
12	38	67	16土	嘉○通寶	2.42	2.42	0.1	2.2		嘉祐通寶？・嘉熙通寶？
13	38	68	16土	天禧通寶	2.47	2.5	0.1	3.1	1017	
14	38	69	16土	大観通寶	2.85	2.8	0.1	2.6	1107	
15	38	70	16土	○○元寶	2.38	2.38	0.12	3.2		熙寧元寶？
16	38	71	16土	○○元寶	2.4	2.4	0.1	2.6		熙寧元寶？
17			16土	不明	2.5	2.45	0.15	3.3		拓本なし
18	38	72	18-1土	開元通寶	2.35	2.32	0.11	2.7	960	
19	38	73	18-1土	皇宋通寶	2.2	2.3	0.1	2.5	1038	
20	38	74	18-1土	聖宋元寶	2.45	2.45	0.1	2.8	1101	
21	38	75	18-1土	正隆元寶	2.48	2.48	0.18	3.3	1157	
22			18-1土	不明	2.55	2.53	0.1	3.2		拓本なし
23			18-1土	不明	2.4	2.5	0.15	3.1		拓本なし
24			18-2土	不明	－	－	－	6.6		拓本なし
25			18-2土	不明	－	－	－			拓本なし
26			18-2土	不明	－	－	－	9.5		拓本なし
27			18-2土	不明	－	－	－			拓本なし
28			18-2土	不明	－	－	－			拓本なし
29			18-2土	不明	－	－	－	－		拓本なし
30	38	76	19土	熙寧元寶	2.32	2.33	0.11	2.6	1068	
31	38	78	19土	天豊通寶	2.5	2.5	0.12	3.8	1078	
32	38	77	19土	永楽通寶	2.4	2.4	0.1	2.4	1408	
33			5住	不明	2.42	2.35	0.12	2.8		拓本なし

第７表　空風輪一覧

図	遺物番号	遺構名	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	J(cm)	K(cm)	重量(g)	石材	備　　考
34	1	五散在	11.9	10.6	10.9	5.5	15.3	9.5	0.6	5.2	10.5	0.3		2000.0	凝灰岩	墨書あり（空輪に「妙」、風輪に「法」が四方にある）
34	2	１五集	13.5	11.1	11.6	7.3	17.4	10.0	0.9	6.5	13.4	0.4		3050.0	凝灰岩	墨書あり（空輪２ヶ所、風輪１ヶ所）判読不能
34	3	１五集	12.9	11.3	12.3	8.4	15.9	8.7	0.7	6.5	11.6	0.0		1970.0	凝灰岩	墨書あり（空輪・風輪各７ヶ所）判読不能
34	4	遺構外	10.8	9.5	9.9	5.2	14.8	8.8	0.3	5.7	10.0	0.0		1400.0	安山岩	
34	5	２五集	13.1	10.8	11.1	6.5	15.9	9.8	0.3	5.8	12.0	0.4		2350.0	凝灰岩	
34	6	五散在	10.2	9.0	9.4	6.5	13.4	6.7	0.7	6.0	9.2	0.0		1160.0	凝灰岩	欠損あり
34	7	２五集	10.2	9.2	9.6	6.0	12.6	7.0	0.6	5.0	9.5	0.0		1180.0	凝灰岩	欠損あり
34	8	五散在	11.4	9.6	10.3	8.3	13.9	9.1	0.3	4.5	10.1	0.6		1600.0	凝灰岩	平面形が楕円形
34	9	１五集	14.0	10.6	10.8	6.3	16.2	9.6	0.5	6.1	11.5	0.2		1980.0	凝灰岩	平面形が楕円形、石質が縞模様あり
34	10	２五集	13.4	11.0	11.5	8.1	15.8	9.2	0.4	6.2	13.7	0.5		2580.0	凝灰岩	石質が縞模様
34	11	１五集	14.4	11.8	12.6	9.2	17.5	11.2	0.3	6.0	12.6	0.5		2620.0	凝灰岩	平面形が楕円形
34	12	１五集	11.6	10.2	10.6	(6.6)	14.3	8.2	0.4	5.7	10.9	0.5		2040.0	凝灰岩	
34	13	１五集	12.0	10.4	10.7	8.3	13.6	7.5	0.9	5.2	11.5	0.5		1840.0	凝灰岩	
34	14	１五集	9.9	8.5	10.1	7.0	19.1	9.9		7.5	9.9	2.0	4.2	2120.0	安山岩	ホゾあり

第８表　火輪一覧

図	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	J(cm)	K(cm)	L(cm)	重量(g)	石材	備　　考
34	16	五散在	19.8	7.4	1.7	4.9	0.8	2.8	3.5	0.3	8.1	19.0	20.0	7.9	3470.0	凝灰岩	上面部段の高さ0.7cm、墨書あり（４面）
34	17	２五集	18.2	12.1	6.1	5.5	0.5	7.6	3.7	0.8	9.2	17.5	17.7	9.3	4260.0	凝灰岩	墨書あり（１面）
34	18	１五集	19.3	12.9	(6.9)	(4.9)	1.1	8.5	4.2	0.7	9.1	18.6	18.9	9.1	4980.0	凝灰岩	墨書あり（４面）
34	19	２五集	19.3	12.6	6.2	4.5	1.9	7.1	4.2	1.2	8.0	17.8	19.0	8.7	5560.0	凝灰岩	墨書あり（２面）
35	20	２五集	21.7	15.1	7.1	5.7	2.3	9.0	4.6	1.4	8.8	(20.3)	22.1	8.3	6480.0	凝灰岩	墨書あり（１面）
35	21	１五集	20.1	11.9	5.3	5.7	0.9	6.2	4.9	0.2	8.6	19.6	20.4	8.3	6200.0	凝灰岩	墨書あり（４面）
35	22	２五集	19.2	13.0	7.2	4.3	1.5	8.5	3.3	0.9	8.7	18.3	19.5	8.8	4600.0	凝灰岩	
35	23	五散在	18.9	10.8	5.4	4.3	1.1	6.7	3.3	0.6	7.0	18.8	19.8	8.1	3800.0	凝灰岩	
35	24	五散在	17.0	10.6	4.2	3.6	2.8	9.0	3.7	1.0	7.7	16.2	16.9	7.9	4080.0	凝灰岩	
35	25	五散在	21.7	10.6	4.9	4.9	0.8	5.7	3.7	0.7	7.1	21.4	22.2	(6.8)	6020.0	凝灰岩	
35	26	１五集	19.8	8.2	2.5	4.9	0.8	4.0	3.9	0.2	7.8	19.4	19.8	8.2	4120.0	凝灰岩	
35	27	五散在	21.1	9.0	3.1	4.0	1.9	(5.2)	4.9	0.8	6.7	19.3	20.6	(7.0)	4860.0	凝灰岩	
35	28	２五集	21.1	11.2	(5.1)	(2.4)	(3.7)	6.4	2.3	2.2	9.6	(18.7)	20.8	10.1	5060.0	安山岩	
35	29	２五集	22.7	10.6	4.4	2.7	2.9	5.1	3.3	1.4	11.7	21.1	23.0	11.8	5170.0	安山岩	
35	30	１五集	23.2	10.6	(2.2)	(6.6)	1.8	3.9	4.9	1.3	9.6	21.4	24.8	11.2	7420.0	凝灰岩	

第９表　水輪一覧

図	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	重量(g)	石材	備　　考
36	31	１五集	16.1	11.4	11.3	10.3	1.0	0.8	15.9	10.7	9.5	3190.0	凝灰岩	墨書あり（2面）
36	32	１五集	17.6	10.9	13.3	10.9	1.5	1.3	17.0	12.5	11.5	3570.0	凝灰岩	墨書あり（1面）
36	33	２五集	18.5	12.0	12.7	12.0	1.2	1.6	18.5	12.5	12.7	3860.0	凝灰岩	墨書あり（1面）
36	34	２五集	17.4	12.1	10.6	10.0	0.9	0.9	17.3	10.7	10.3	3080.0	凝灰岩	墨書あり（1面）
36	35	２五集	19.9	12.4	11.5	8.3	0.8	0.7	16.9	10.1	8.3	5220.0	凝灰岩	墨書あり（1面）
36	36	１五集	19.1	11.2	9.9	9.6	0.6	0.6	19.2	9.0	8.9	5080.0	凝灰岩	墨書あり（1面）
36	37	２五集	16.6	10.5	11.8	10.9	1.0	0.9	17.2	12.8	(6.0)	(2490.0)	凝灰岩	4分の1欠損
36	38	１五集	16.6	11.1	11.3	11.8	0.6	0.8	16.1	10.5	11.5	2920.0	凝灰岩	
36	39	２五集	16.5	10.8	10.6	10.5	1.0	1.3	17.2	11.5	10.3	3700.0	凝灰岩	
36	40	２五集	17.0	9.7	12.1	11.3	0.3	0.6	16.6	10.5	10.3	3630.0	凝灰岩	
36	41	五散在	20.1	11.2	13.3	14.5	0.0	1.3	20.1	14.0	15.0	4350.0	凝灰岩	
36	42	１８土	21.8	13.2	17.1	14.6	1.1	0.9	18.8	12.5	(17.0)	7630.0	凝灰岩	

第10表　地輪一覧

図	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	重量(g)	石材	備　　考
37	43	１五集	18.5	15.6	18.4	(13.3)	(8.5)	1.1	(7500.0)	凝灰岩	墨書あり（3面）
37	44	１五集	19.8	14.4	20.0	11.5	(11.3)	1.4	(7840.0)	凝灰岩	墨書あり（1面）
37	45	２２土	18.5	12.4	18.7	(8.3)	(12.3)	0.9	(5770.0)	凝灰岩	墨書あり（3面）
37	46	２２土	22.9	13.3	22.3	(10.2)	(12.0)	－	(9000.0)	凝灰岩	墨書あり（1面）
37	47	１五集	20.1	17.4	19.2	17.3	17.5	2.2	10000.0	凝灰岩	墨書あり（3面）
37	48	１五集	19.3	12.6	19.2	(13.1)	(13.0)	1.4	(7360.0)	安山岩	
38	49	２五集	18.2	14.3	17.3	13.8	(14.0)	－	(8490.0)	凝灰岩	
38	50	１五集	19.2	16.2	18.9	17.4	16.0	3.0	8640.0	凝灰岩	
38	51	１五集	19.6	18.7	19.2	14.4	(11.8)	0.8	(12500.0)	安山岩	
38	52	１五集	18.4	12.2	18.7	17.1	(16.0)	0.9	(7800.0)	安山岩	
38	53	遺構外	18.0	7.1	17.1	－	－	－	－	安山岩	

第11表　宝篋印塔もしくは六地蔵幢

図	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	重量(g)	石材
34	15	２五集	13.7	9.5	10.4	9.2	(16.5)	11.8	1.2	(3.5)	14.1	2520.0	安山岩Ｂ

第12表　遺構別出土遺物内訳

遺構名		縄文	平安																														中世															時期不明	石器	黒曜石	金属製品	古銭	五輪塔	人骨・歯
			土師器							黒色土器						須恵器							陶磁器							土師質土器					陶磁器																	
			坏	甕	皿	蓋	鉢	不明	合計	坏	甕	皿	蓋	不明	合計	坏	甕	壺	皿	蓋	不明	合計	坏	甕	皿	壺	鉢	不明	合計	かわらけ	内耳土器	鉢	不明	合計	小皿	不明	合計															
1号住	個数	78	198	538	1	3		15	755	116					116	6	6	1			15	28			1		1	3	5				2	2				4		4											
	重量(g)	2298	939	4822	5	7		158	5931	763					763	99	201	18			83	401			25		40	4	69				32	32				4		7.1											
2号住	個数	19	1						1							1						1																	2											
	重量(g)	402	4						4							12						12																													
3号住	個数	55	1	3					4	2					2		1					1																	8	15										○
	重量(g)	1924	6	19					25	10					10		6					6																		15										
4号住	個数	4	88	122	2	2		20	234	82			5		87	2	7	2		3		14						1	1																						
	重量(g)	43	834	812	64	9		203	1922	1461			33		1494	48	127	91		26		292						11	11																						
5号住	個数	52	187	221	3	2			413	59		2	2		63	12	21			1		34	2						2									7	5	4		1									
	重量(g)	1290	865	2062	145	4			3076	1441		207	3		1651	49	1232			9		1290	97						97									48		19.4											
1号五集	個数																																																			22	
	重量(g)																																																				
2号五集	個数																																		1		1														17	
	重量(g)																																		70		70															
五散在	個数																																																			9	
	重量(g)																																																				
1号溝	個数	1	3				1	1	5																															5											
	重量(g)	6	24				99	4	127																															211.4											
1号竪穴	個数		1	2					3	2					2																1			1				1													
	重量(g)		2	8					10	6					6																30			30				2													
3号土坑	個数	1								2					2																																						
	重量(g)	17								29					29																																						
5号土坑	個数	1																																																			
	重量(g)	398																																																			
6号土坑	個数		1						1																																												
	重量(g)		9						9																																												
7号土坑	個数																																																				○
	重量(g)																																																				
8号土坑	個数																																																				○
	重量(g)																																																				
11号土坑	個数			6					6																																											3	○
	重量(g)			81					81																																												
12号土坑	個数			2					2	3					3																																				6	
	重量(g)			20					20	6					6																																					
13号土坑	個数			1					1																																										2	○
	重量(g)			5					5																																											
15号土坑	個数																																																				○
	重量(g)																																																				
16号土坑	個数																																																		6	○
	重量(g)																																																				
18号土坑	個数	1		1					1																					2				2																12	1	○
	重量(g)	3		20					20																					257				257																		
19号土坑	個数																																																		3	
	重量(g)																																																				
22号土坑	個数																																																			2	
	重量(g)																																																				
遺構外	個数	25	64	78					142	33					33	2	3			1		6						4	4		1								21	1	1										2	
	重量(g)	422	173	450					623	225					225	6	46			5		57						41	41		16								31		0.8											
合計	個数	237	544	974	6	7	1	36	1568	299	0	2	7	0	308	23	38	3	0	5	15	84	2	0	1	0	1	8	12	2	2	0	2	5	1	0	1	33	16	29	0	33	53								
	重量(g)	6803	2856	8299	214	20	99	365	11853	3941	0	207	36	0	4184	214	1612	109	0	40	83	2058	97	0	25	0	40	56	218	257	46	0	32	319	70	0	70	85	0	253.7	0	0	0								

図　　版

調査区全景①（西から）

図版２

調査区全景②（東から）

調査区全景③（西から）

図版 4

調査区全景④（真上から）

調査区近景①（東から）

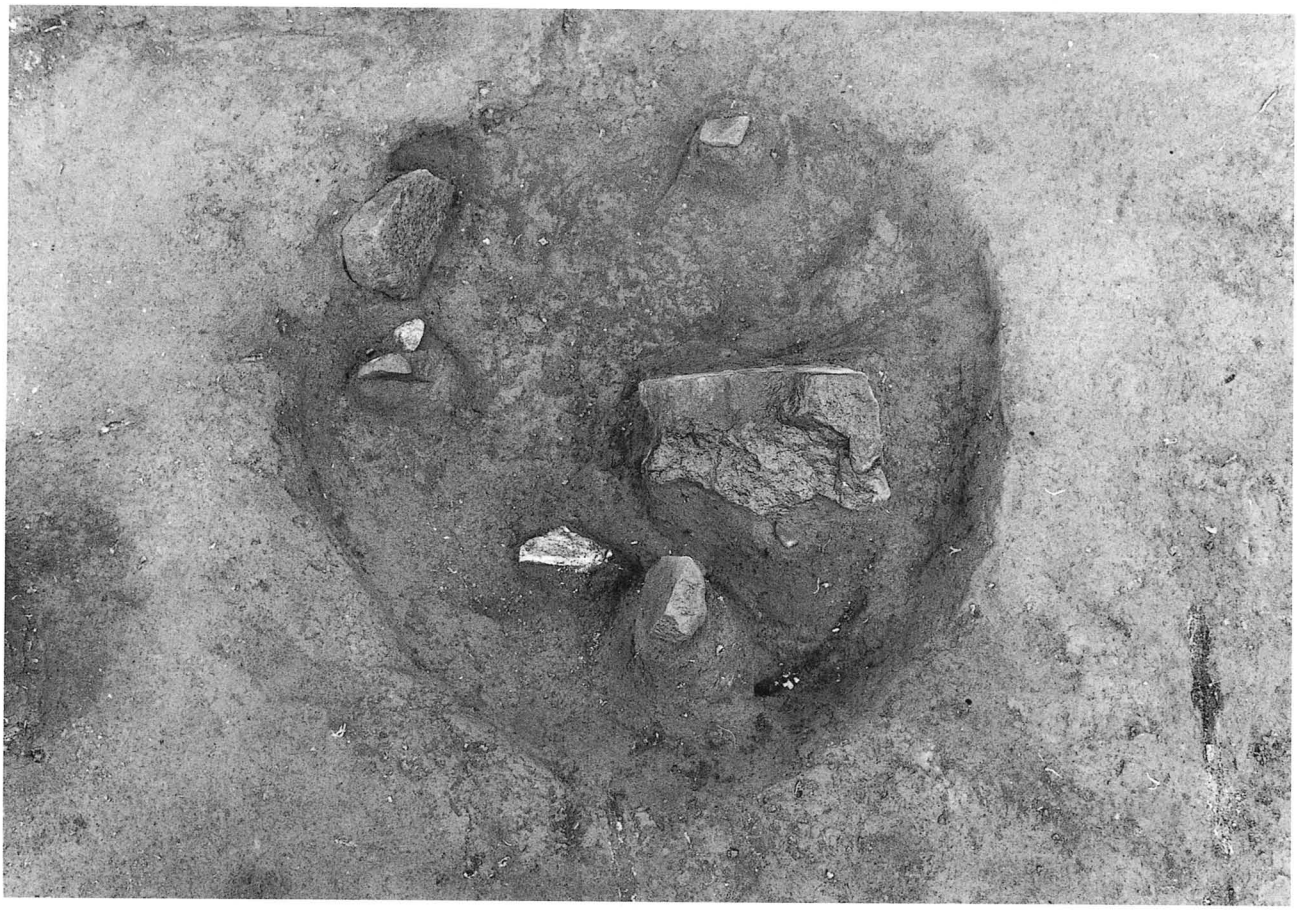
調査区近景②（西から）

2 号住居跡

2 号住居跡　地床炉

図版 6

3 号住居跡



3 号住居跡　地床炉

3 号住居跡遺物出土状況①

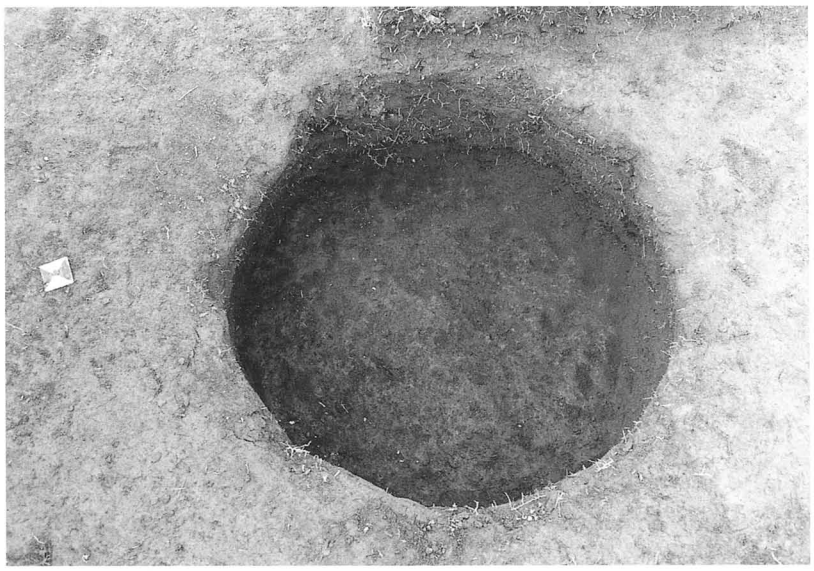
3 号住居跡遺物出土状況②

3 号住居跡遺物出土状況③

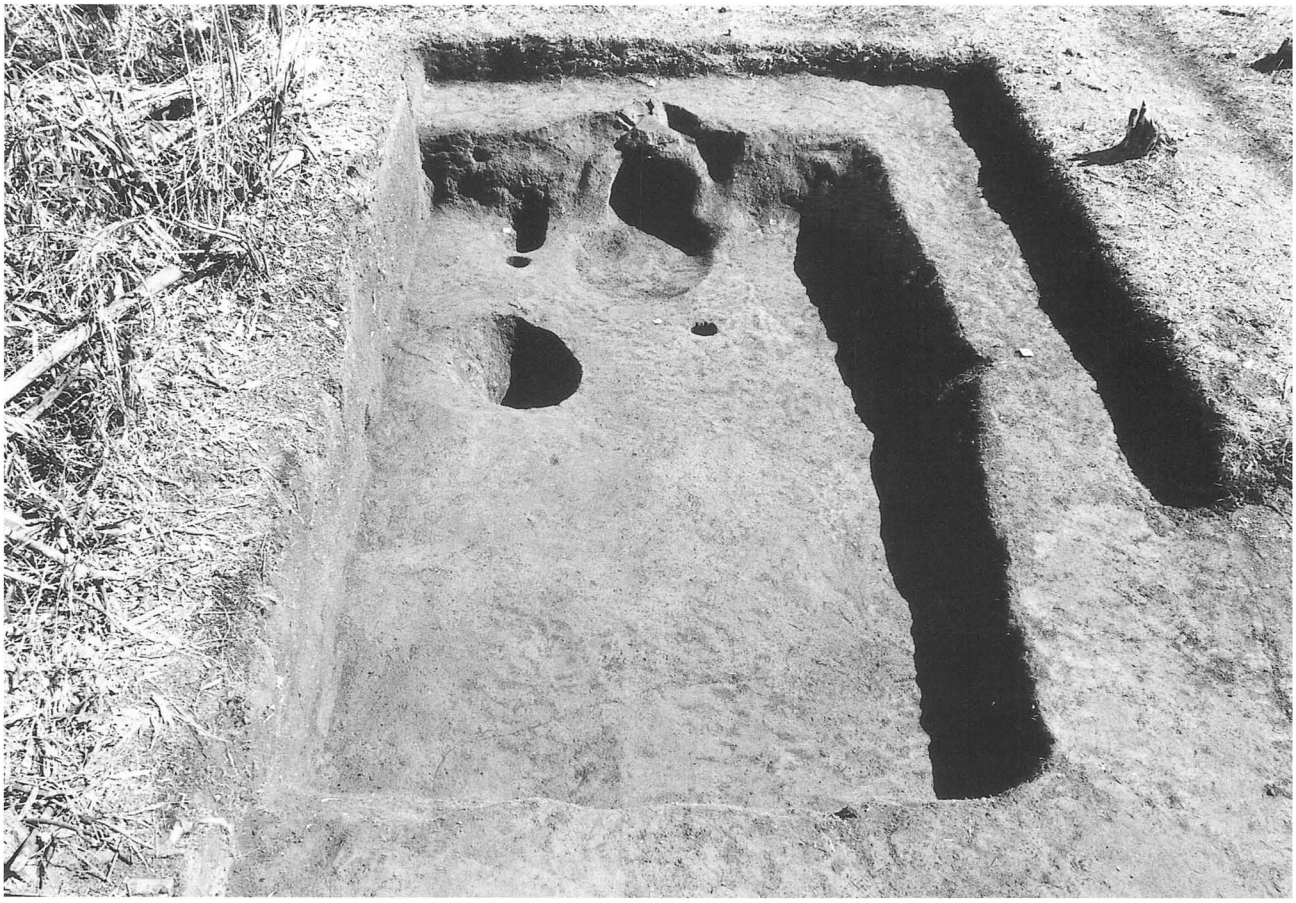
図版 8

5 号土坑

5 号土坑　遺物出土状況



23号土坑

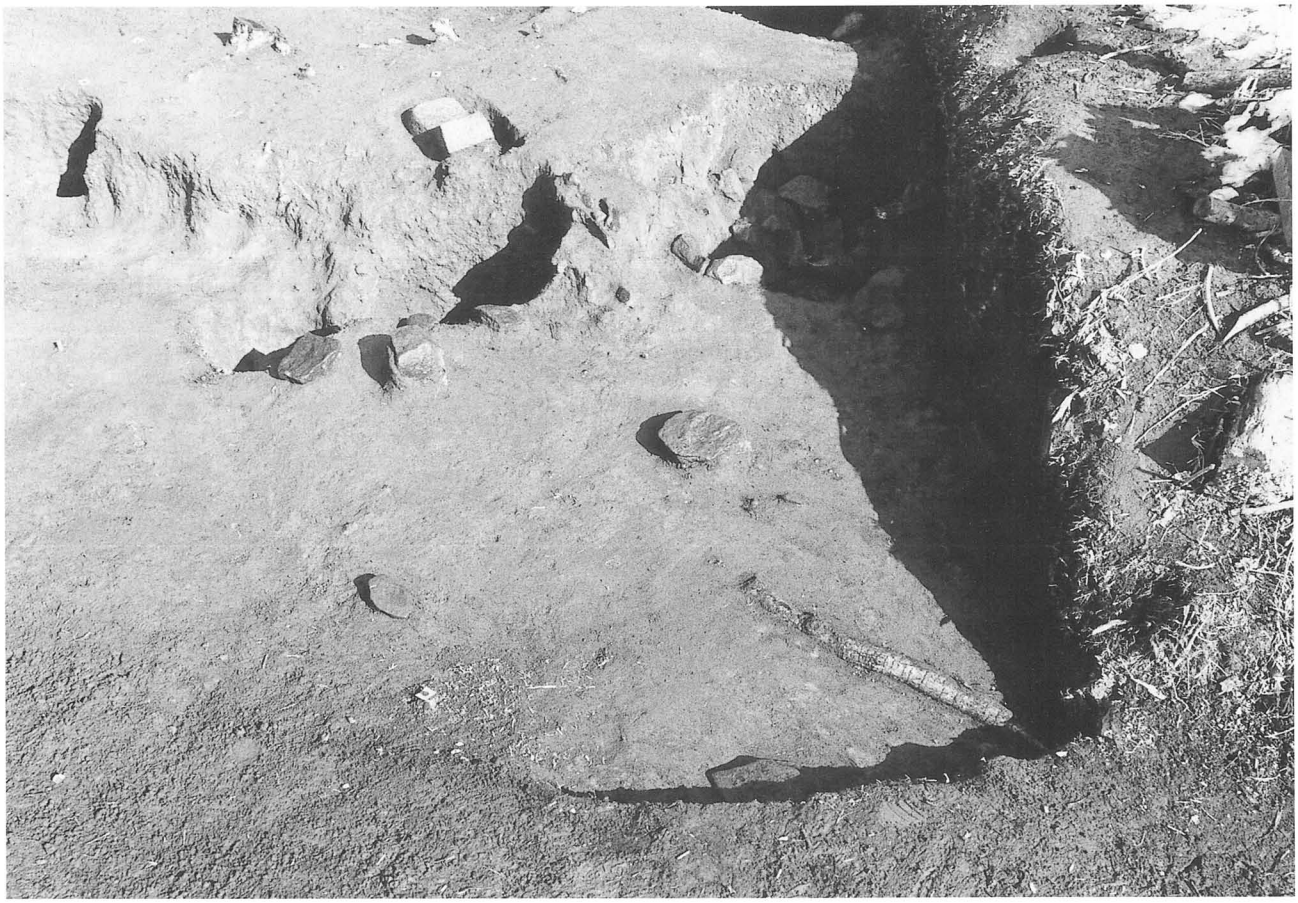


1 号住居跡

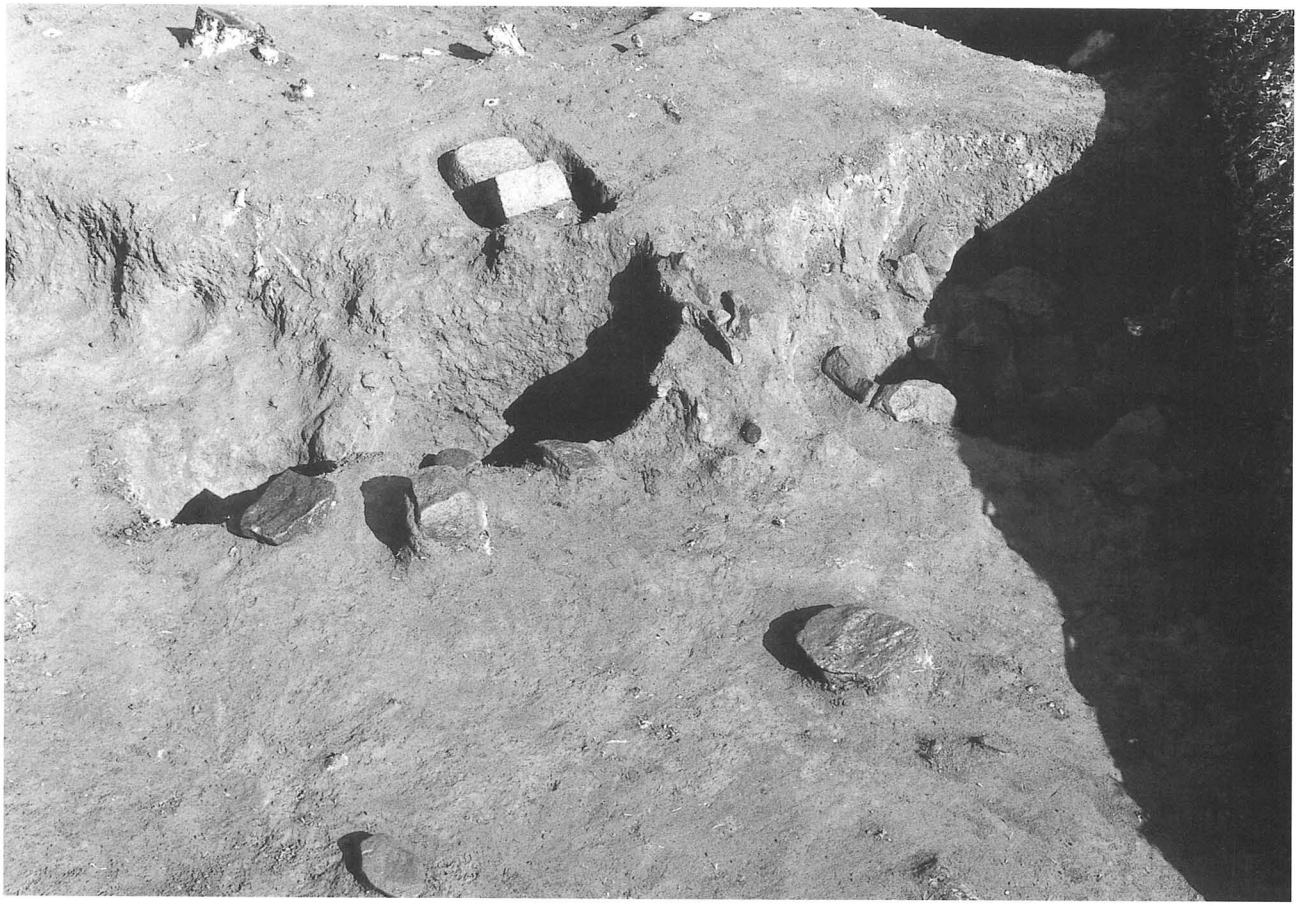
1 号住居跡　カマド

図版10

1号住居跡　完掘状況



4号住居跡



4号住居跡　カマド

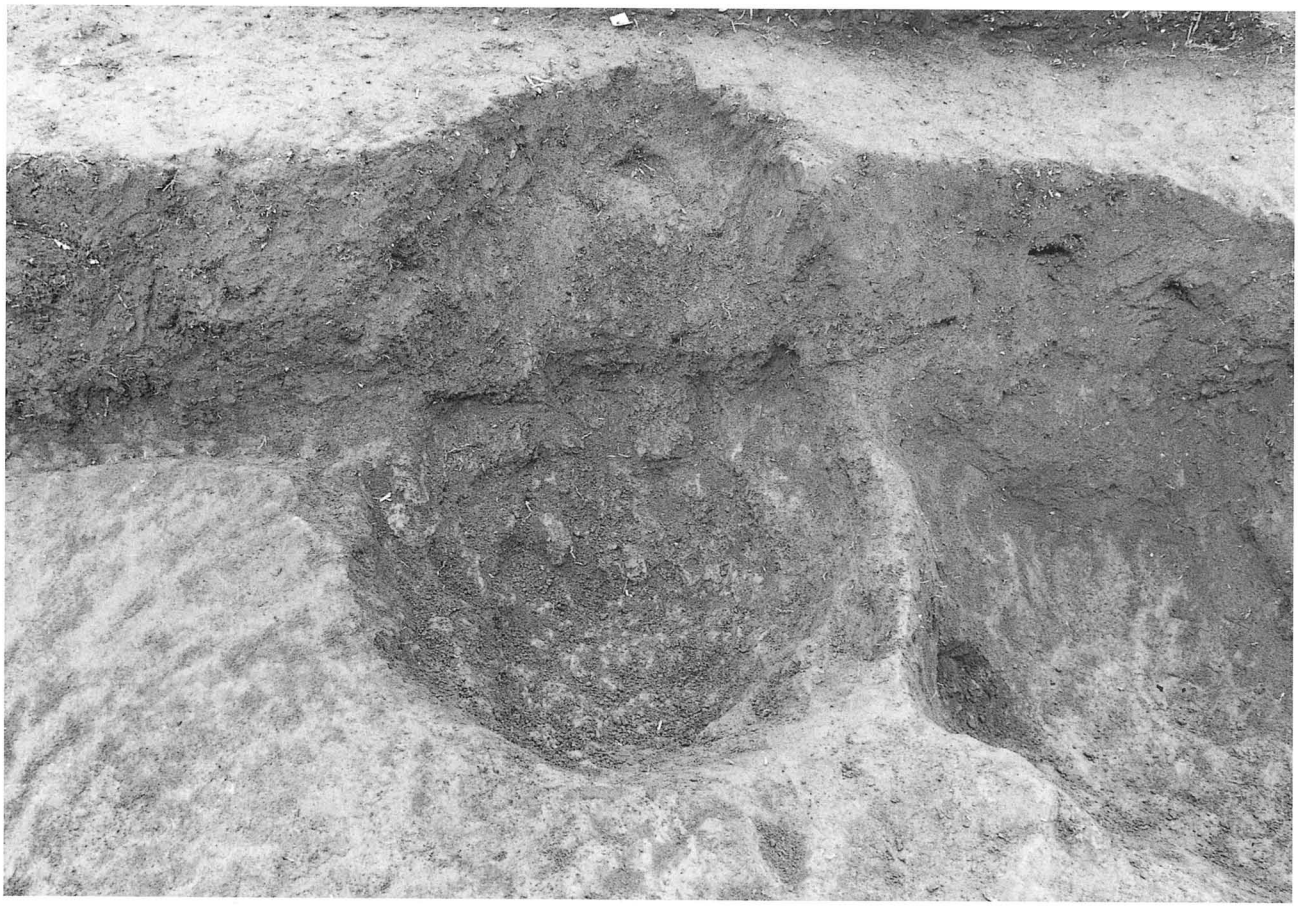
4号住居跡　完掘状況

図版12

5号住居跡

5号住居跡　カマド①

5号住居跡　完掘状況①（西から）

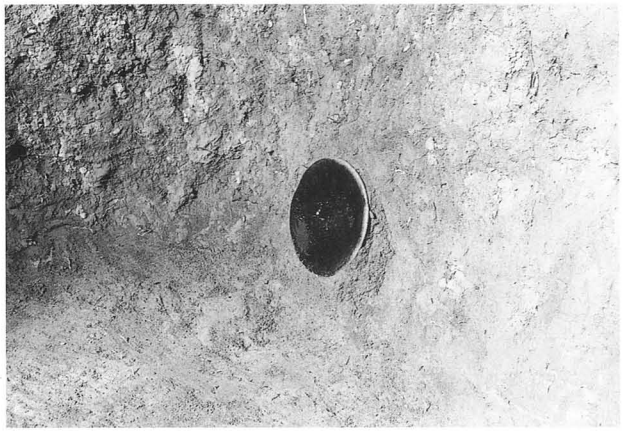


5号住居跡　カマド完掘状況

図版14

5号住居跡　カマド②

5号住居跡　完掘状況②（北から）



5号住居跡　遺物出土状況①

5号住居跡　遺物出土状況②

5号住居跡　遺物出土状況③

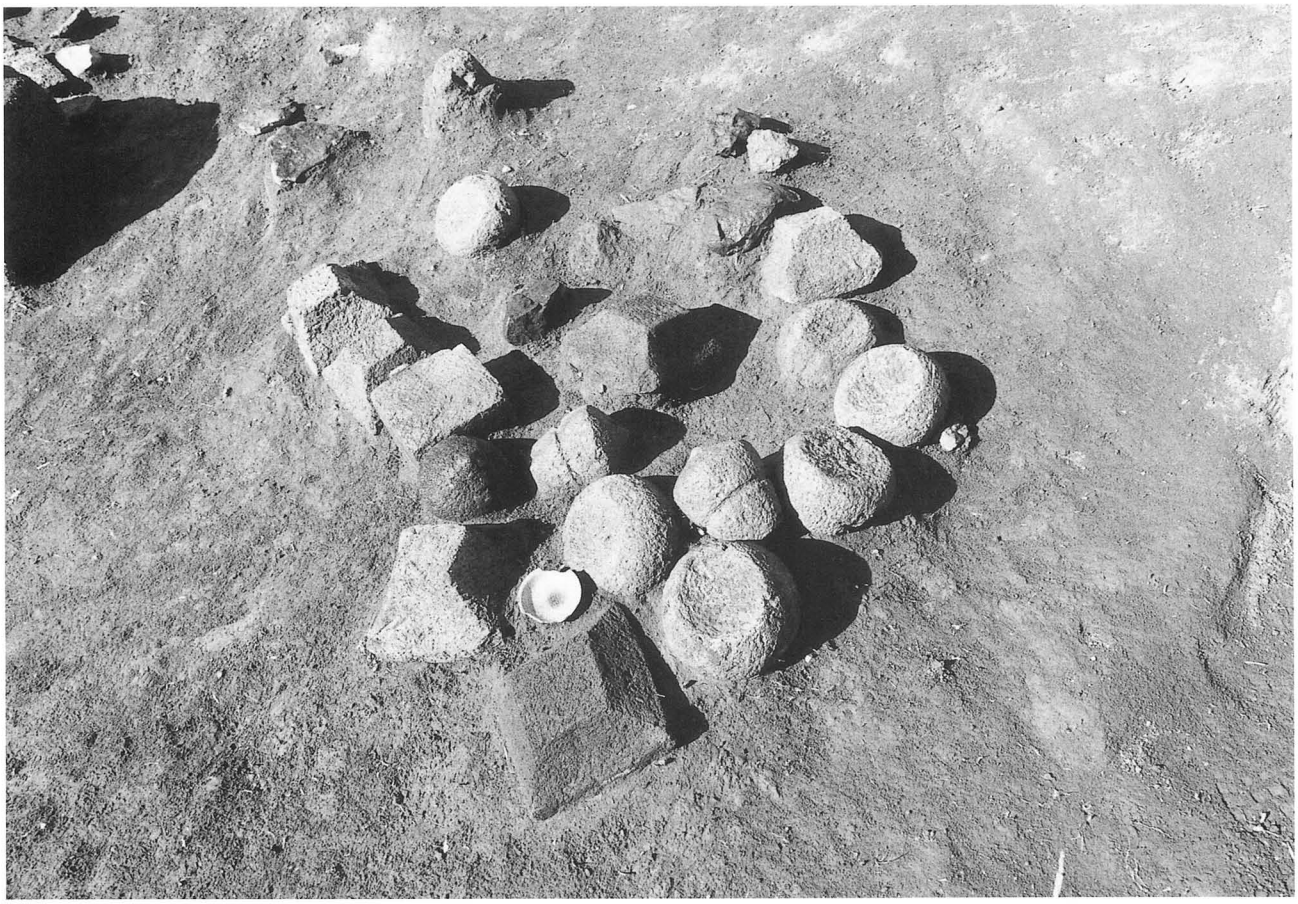
1・2号五輪塔集中地点①（西から）

1・2号五輪塔集中地点②（東から）

図版16

1号五輪塔集中地点①（南東から）

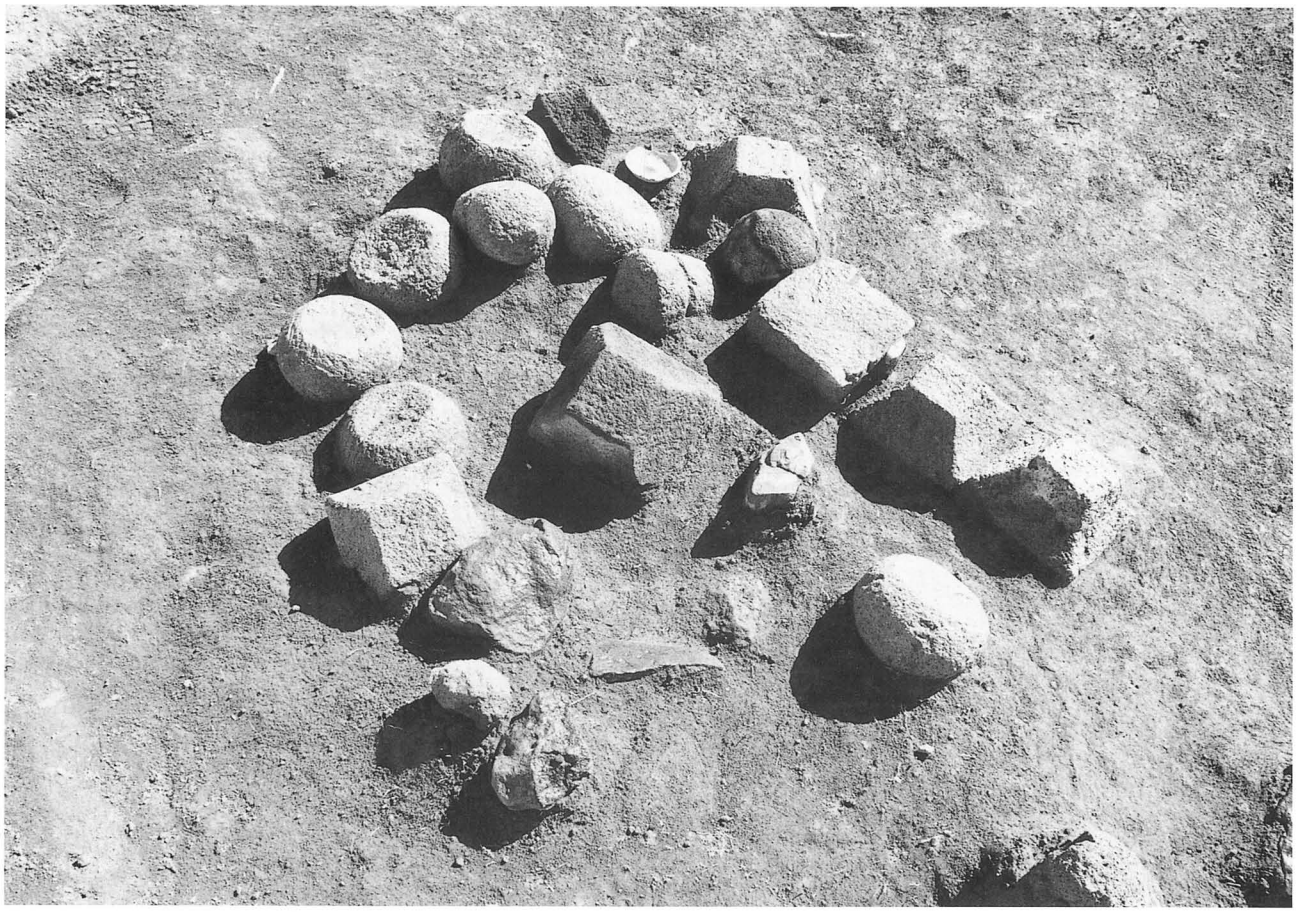
1号五輪塔集中地点②（西から）



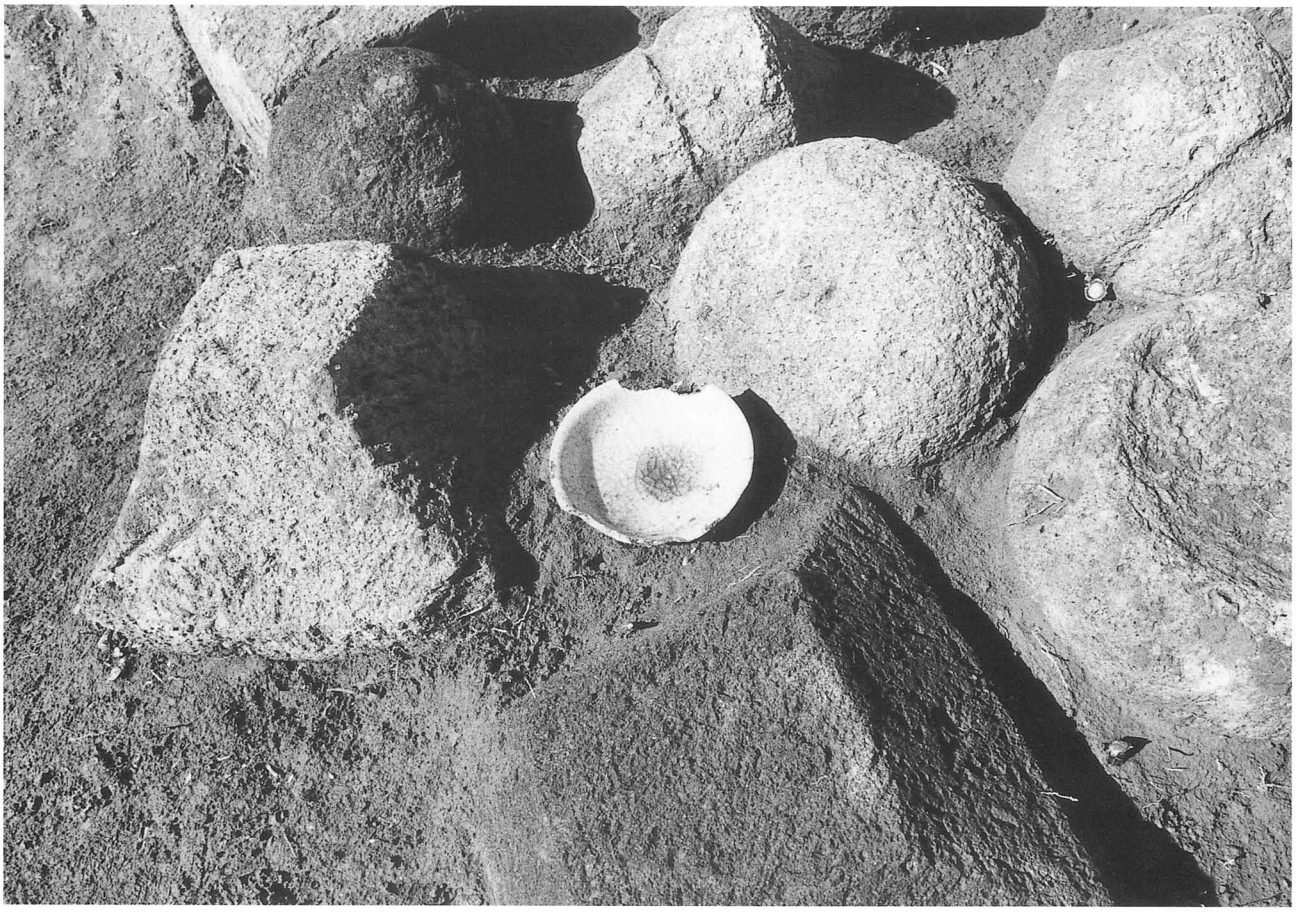
2号五輪塔集中地点①（東から）

2号五輪塔集中地点②（西から）

図版18



2号五輪塔集中地点③（北西から）



2号五輪塔集中地点　灰釉陶器出土状況

五輪塔散在地点①（南西から）

五輪塔散在地点②（西から）

図版20

調査区西端土坑群①（北西から）

調査区西端土坑群②（南西から）

調査区西端土坑群③（西から）

7号土坑①（南西から）

7号土坑②（北から）

11（右）・12（左）号土坑

11号土坑

15・16・17号土坑①（北西から）

15・16・17号土坑②（西から）

16号土坑①（西から）

16号土坑②（北から）

図版24

16号土坑　完掘状況

17号土坑

15・16・17号土坑　完掘状況①（北西から）

15・16・17号土坑　完掘状況②（南東から）

18－1・2号土坑①（北東から）

18－1・2号土坑②（北から）

18－1号土坑　人骨出土状況（西から）

18－2号土坑　人骨出土状況（東から）

18－１・２号土坑　完掘状況①（北から）

18－１・２号土坑　完掘状況②（西から）

18－１・２号土坑　完掘状況③（東から）

18－１・２号土坑③（北から）

18－１号土坑　かわらけ出土状況

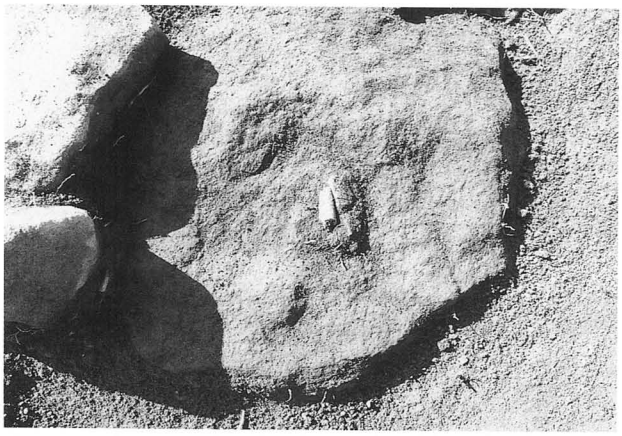
19号土坑

20号土坑

22号土坑

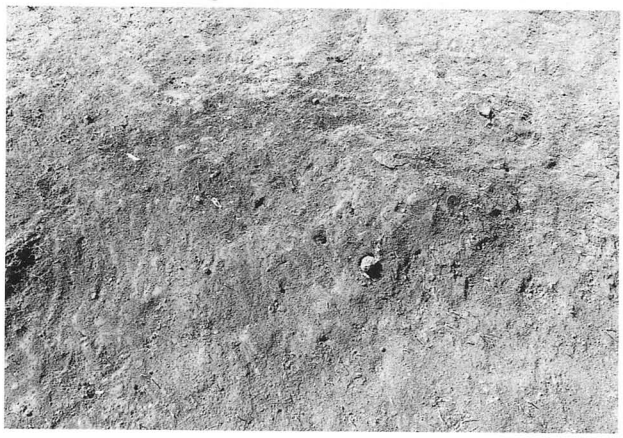
図版30

8 号土坑

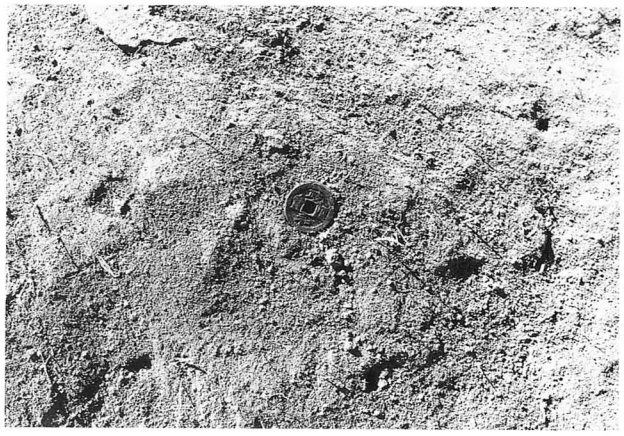


8 号土坑　人骨出土状況

8 号土坑　完掘状況



13号土坑



13号土坑　古銭出土状況

1号土坑

2号土坑

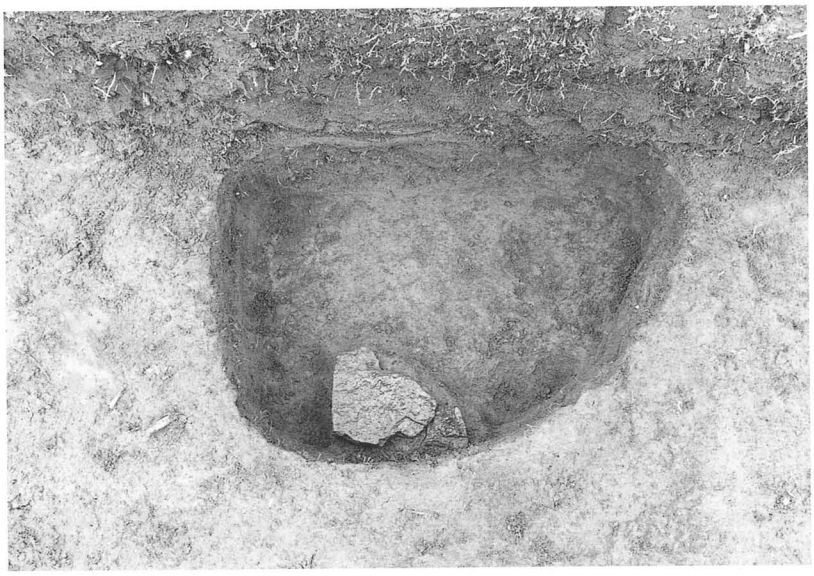
3号土坑

図版32

4号土坑

6号土坑

9号土坑



10号土坑

14号土坑

21号土坑

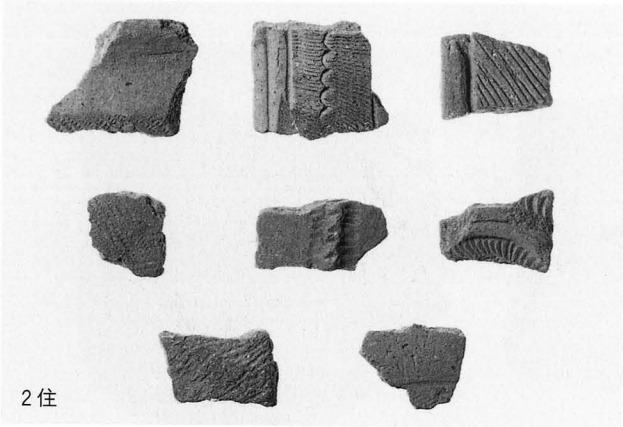
3住－1（正面）

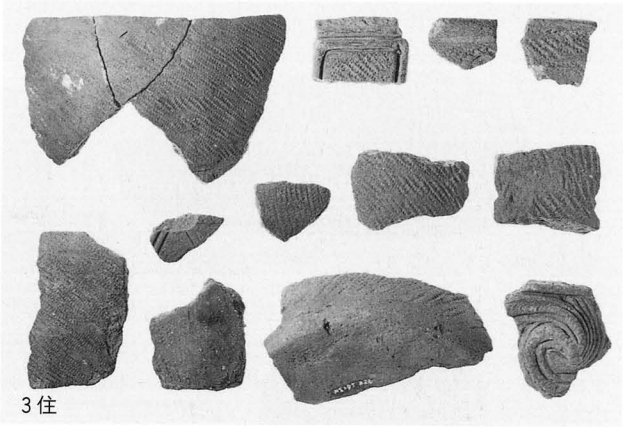
3住－1（右）

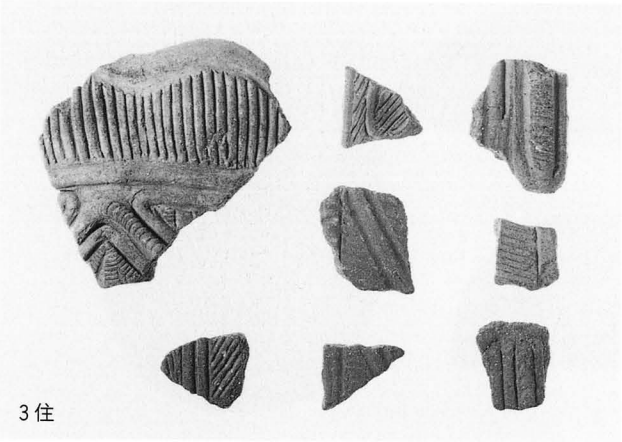
3住－1（左）

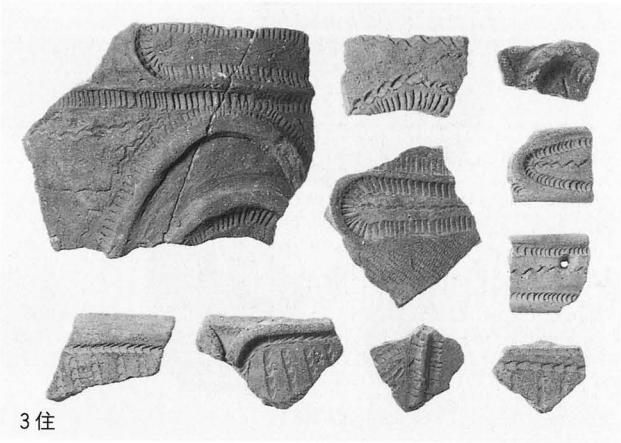
3住－1（裏）

出土土器①

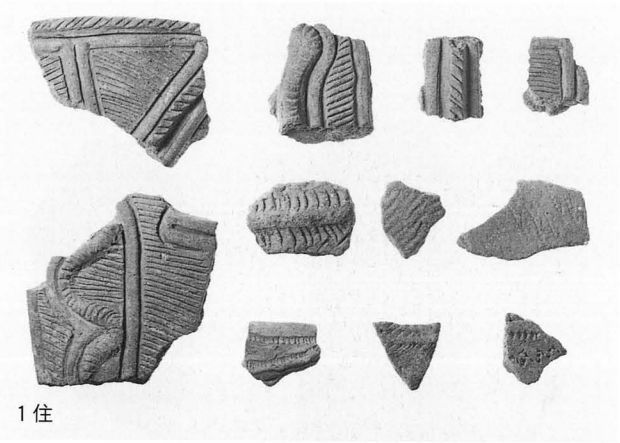

2住

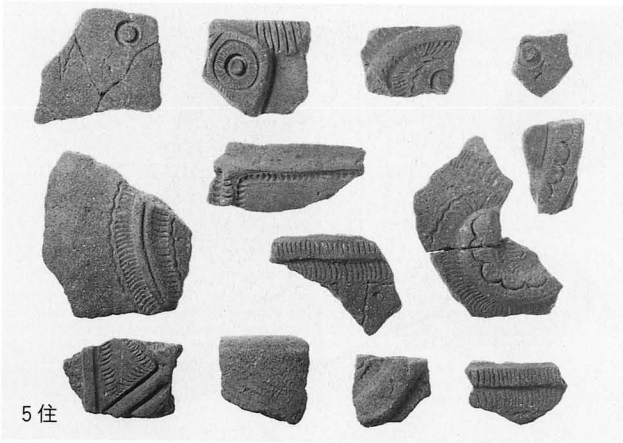

3住


3住


3住

1住

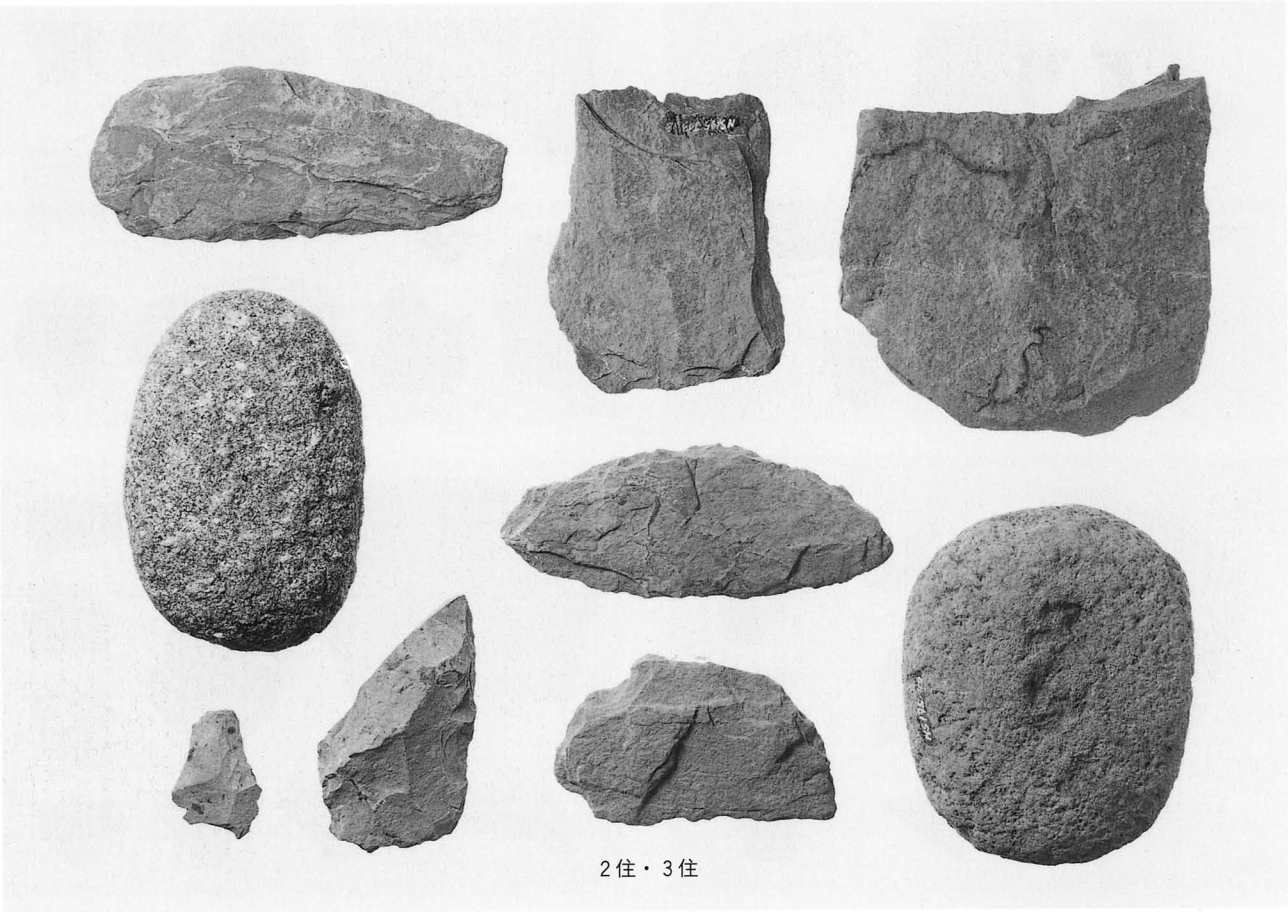

1住


5住

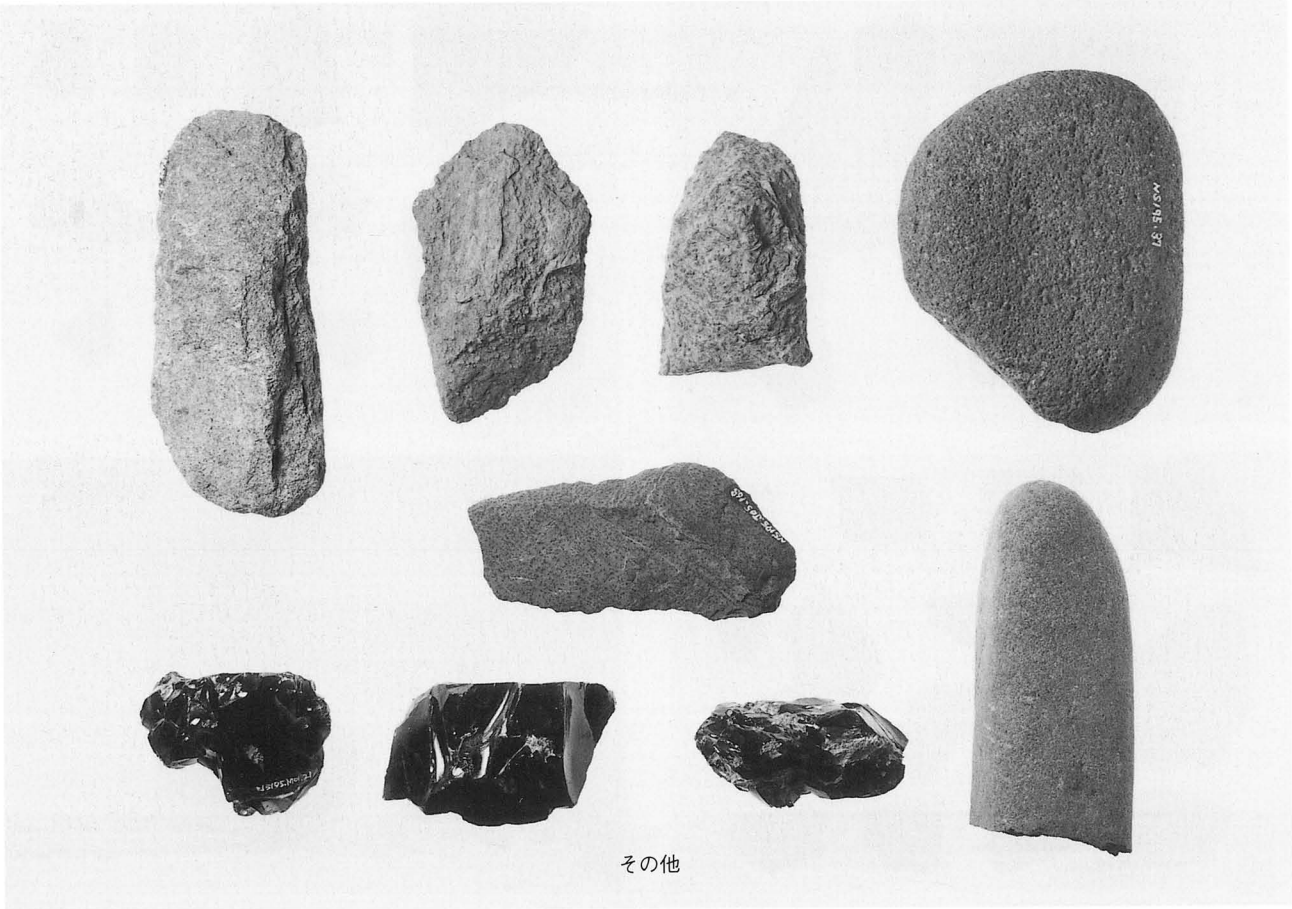
5土

出土土器②

図版36

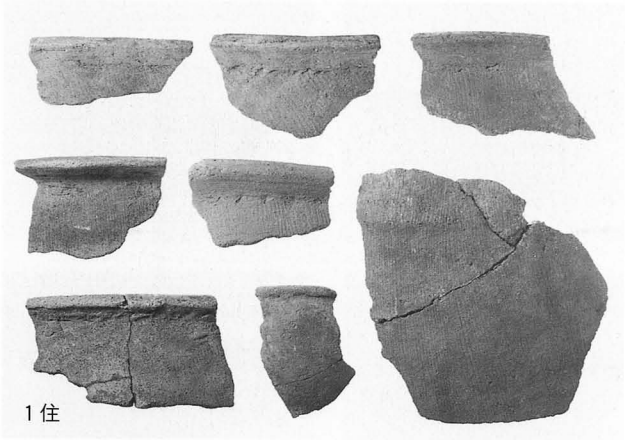


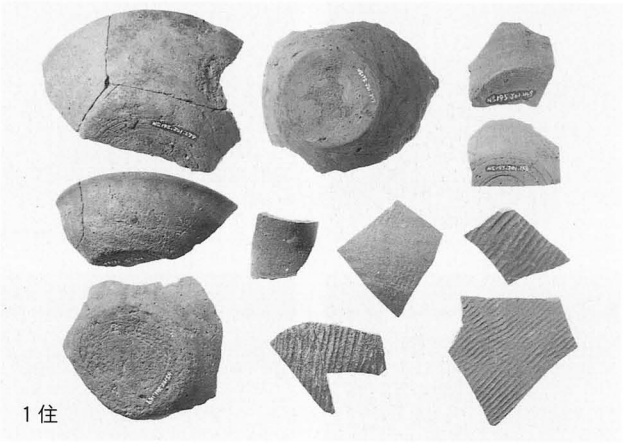
2住・3住

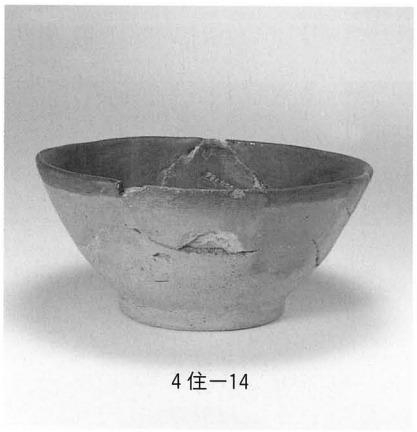


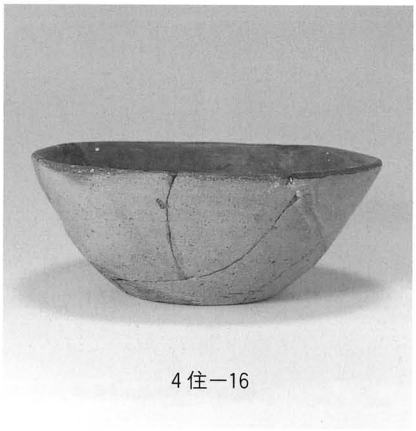
その他

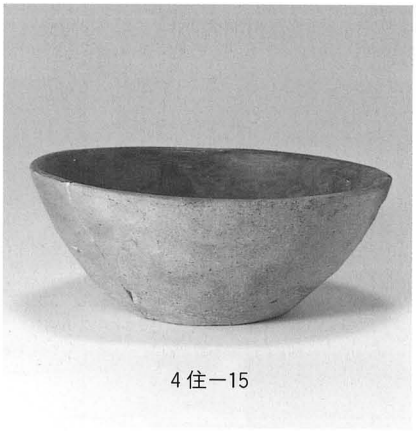
出土石器

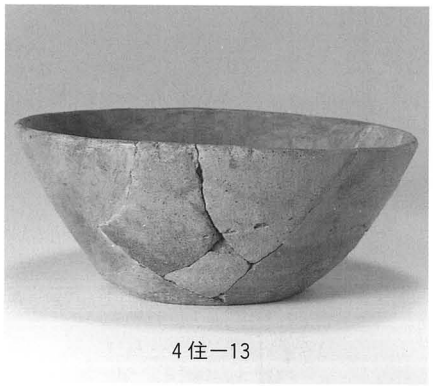

1住


1住


4住ー14


4住ー16

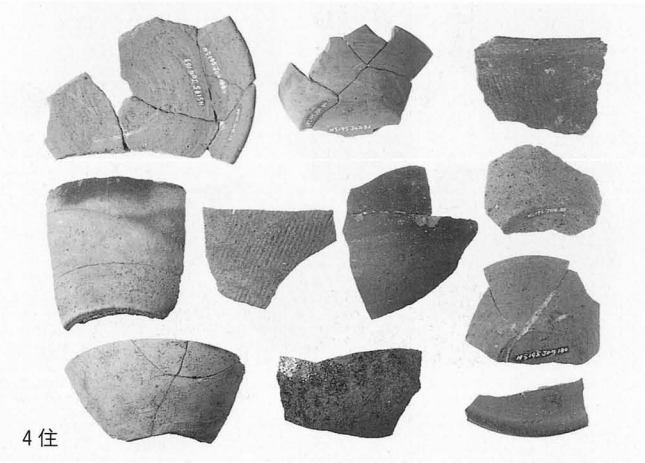

4住ー15


4住ー13

4住ー1

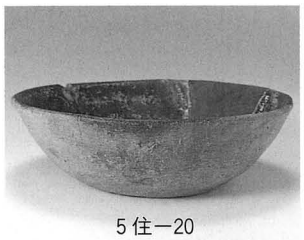
4住ー4

4住出土土器


4住

出土土器③

図版38

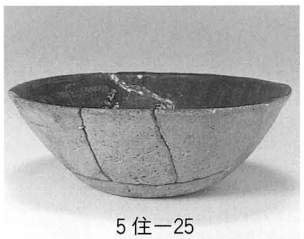

5住ー20

5住ー21

5住ー22

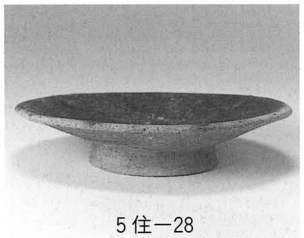
5住ー23

5住ー24


5住ー25

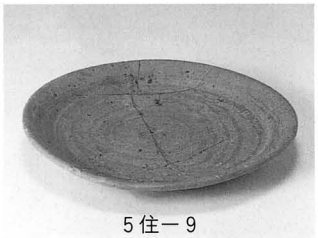
5住ー26

5住ー27


5住ー28

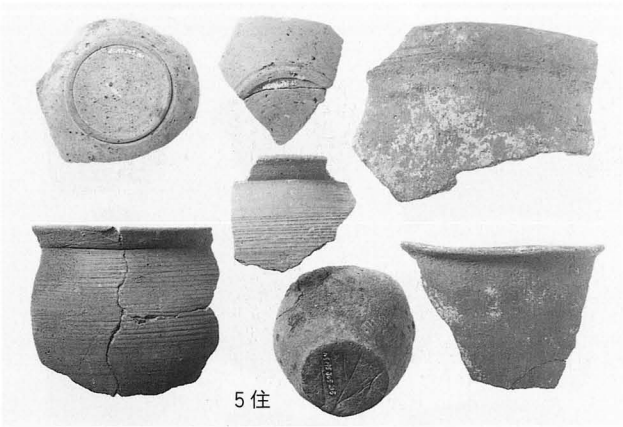
5住ー3

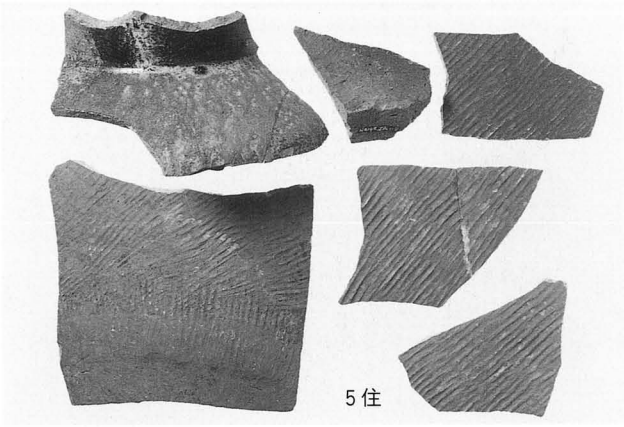
5住ー2


5住ー9

5住出土黒色土器

5住ー出土土師器


5住

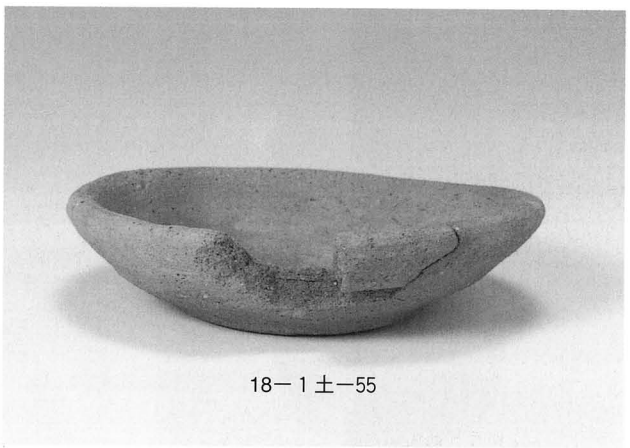

5住

出土土器④

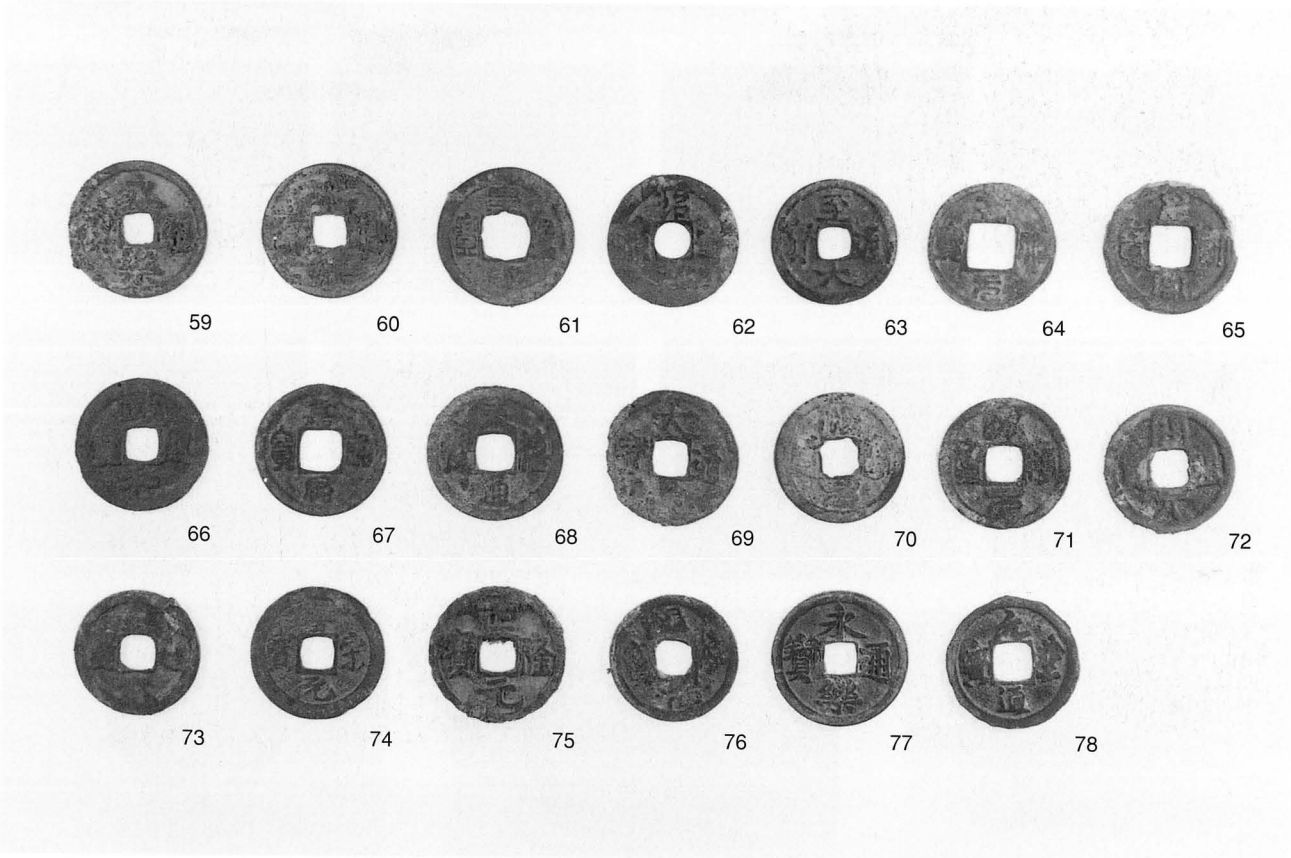
5住ー28　底部刻書

2五集ー56

18ー1土ー54

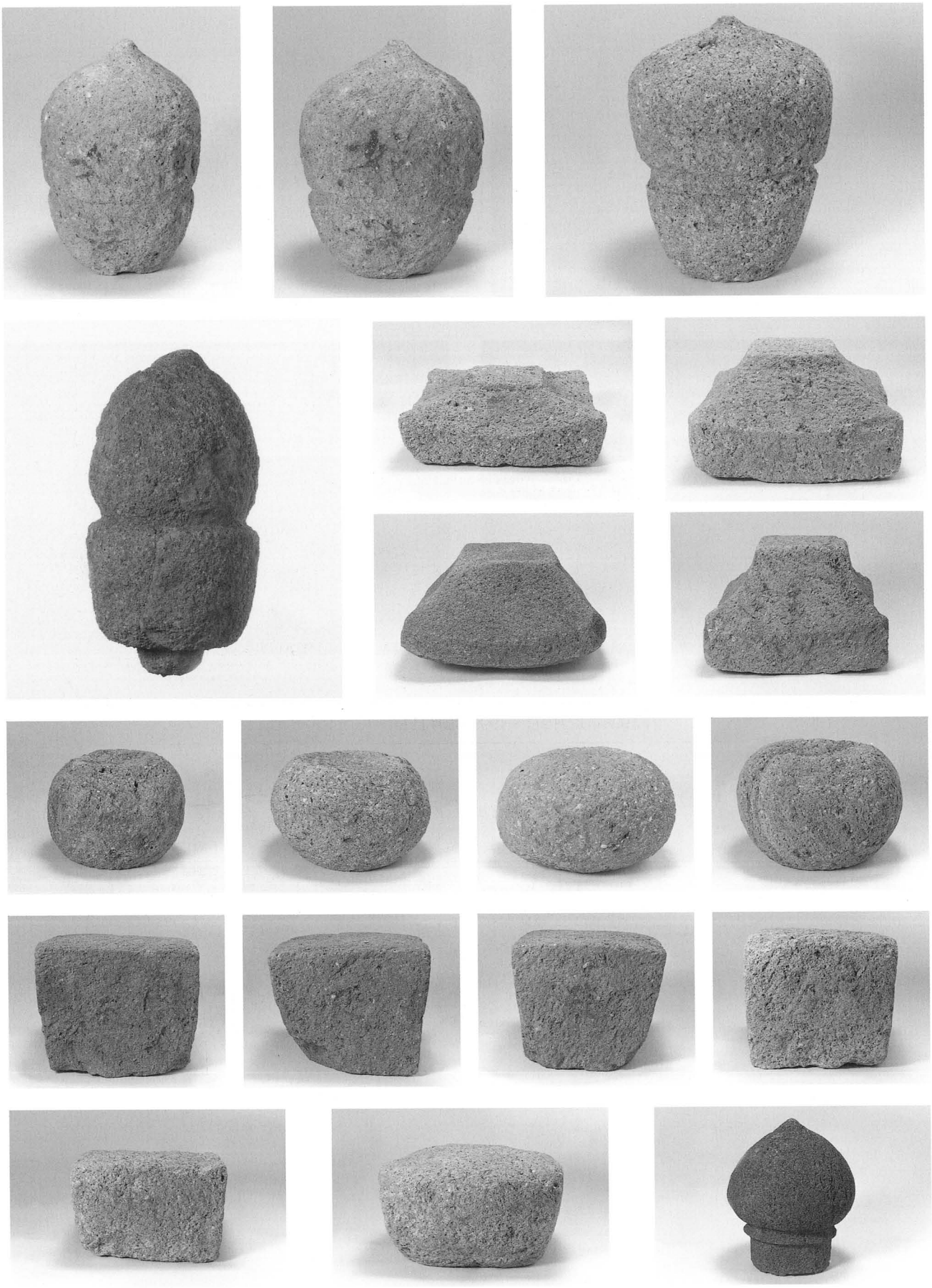


18ー1土ー55



出土土器⑤・古銭

図版40



五輪塔

報告書抄録

フリガナ	コンヤイセキ　ダイイチジハックツチョウサホウコクショ
書名	紺屋遺跡　第1次発掘調査報告書
副題	県営広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集
著者名	村松佳幸
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19 TEL　0551－32－2111
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381－0012　長野県長野市柳原2133－5
発行日	2001年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町長坂下条字紺屋
遺跡番号	長坂町　№195
1／25，000地図名 位置・標高	若神子 北緯35°48′21″　東経138°22′45″　標高660～662m
調査原因	県営広域営農団地農道整備事業
調査期間	1998年12月9日～1999年3月11日
調査面積	315㎡
主な時代	縄文時代・平安時代・中世
主な遺構	縄文時代（中期中葉の竪穴住居跡２軒、土坑５基） 平安時代（竪穴住居跡３軒） 中世（墓坑10基、火葬墓または火葬施設２基、五輪塔集中地点２ヶ所、五輪塔散在地点１ヶ所） その他（竪穴状遺構１基、土坑22基、ピット８基）
主な遺物	縄文時代（土器、石器、黒曜石原石） 平安時代（土師器、黒色土器、須恵器、陶器、石製品、鉄滓） 中世（かわらけ、土師質土器、灰釉陶器、五輪塔、古銭）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書　第20集

紺屋遺跡－第1次発掘調査報告書－

2001年3月25日　印刷
2001年3月31日　発行

編集・発行　長坂町教育委員会
〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19
TEL　0551－32－2111
印　　刷　鬼灯書籍株式会社
〒381－0012　長野県長野市柳原2133－5
TEL　026－244－0235（代）